

平成 26 年度

県 政 世 論 調 査

香 川 県

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査項目	1
3	調査設計	1
4	回収状況	1
5	サンプル設計	1
6	報告書の見方	3
II	調査回答者の属性	5
1	性別	5
2	年齢	5
3	職業	6
4	圏域	6
5	居住年数	7
III	調査の集計結果	9
1	人権問題について	9
2	障害者福祉について	54
3	環境施策について	81
4	瀬戸内国際芸術祭について	104
5	労働政策について	131
6	県政の重要度と満足度について	146
IV	数表	153
V	調査票	193

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 人権問題について
- (2) 障害者福祉について
- (3) 環境施策について
- (4) 瀬戸内国際芸術祭について
- (5) 労働政策について
- (6) 県政の重要度と満足度について

3 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査法 郵送法
- (6) 調査時期 平成26年6月10日～7月1日

4 回収状況

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 1,522 (50.7%)

5 サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満20歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 151地点 (市部：126地点、町部：25地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

〔 層 化 〕

県内の市町（8市9町）を次のように5圏域に分類した。

圏 域 名	構 成 市 町
1 高松圏域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

〔 標本数の配分 〕

各層における母集団数（平成26年3月2日現在の選挙人名簿登録者数）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

〔 抽 出 〕

- ① 第1次抽出単位となる調査地点として、平成26年3月2日現在の投票区を使用した。
- ② 調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③ 調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

- ④ 抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ⑤ 調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。
- ⑥ 以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

＜ 圏域別・市町規模別 標本数及び調査地点数 ＞

上段：母集団数

下段：標本数、() 内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1 高松圏域	345,339 1,260 (63)		47,118 172 (9)	392,457 1,432 (72)
2 東讃圏域		72,121 263 (13)		72,121 263 (13)
3 小豆圏域			26,732 98 (5)	26,732 98 (5)
4 中讃圏域		163,764 597 (30)	57,927 211 (11)	221,691 808 (41)
5 西讃圏域		109,327 399 (20)		109,327 399 (20)

6 報告書の見方

(1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。

このために、百分比の合計が100%にならないことがある。

(2) グラフにおける「N」は、比率算出の基数であり、その比率は件数を100%として算出した。

(3) 複数回答の設問の場合、その比率の合計が100%を上回ることがある。

(4) 調査対象者の職業別及び圏域別区分は次のとおりである。

◆職業別

農林漁業：農林漁業を営んでいる（家族従業者も含む）

商工業、サービス業、自由業など：商工業、サービス業、自由業などを営んでいる（家族従業者も含む）

会社、商店、官公庁などに勤務：会社、商店、官公庁などに勤めている（パートも含む）

主婦・主夫：主婦・主夫（家族の中で家事が主な役割の方）

無職：無職（学生を含む）

◆圏域別

高松圏域：高松市・三木町・直島町・綾川町

東讃圏域：さぬき市・東かがわ市

小豆圏域：土庄町・小豆島町

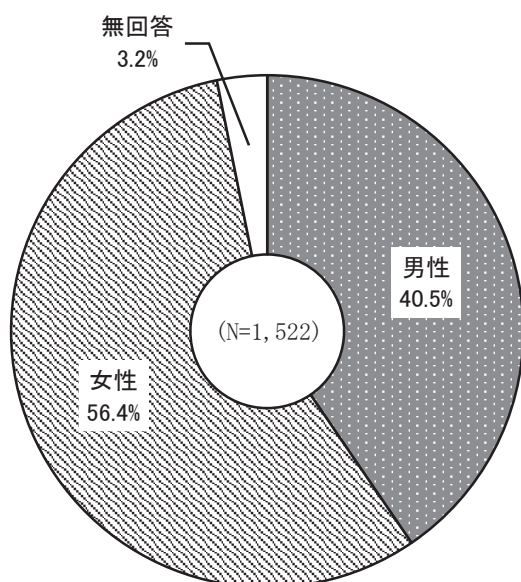
中讃圏域：丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町

西讃圏域：観音寺市・三豊市

Ⅱ 調査回答者の属性

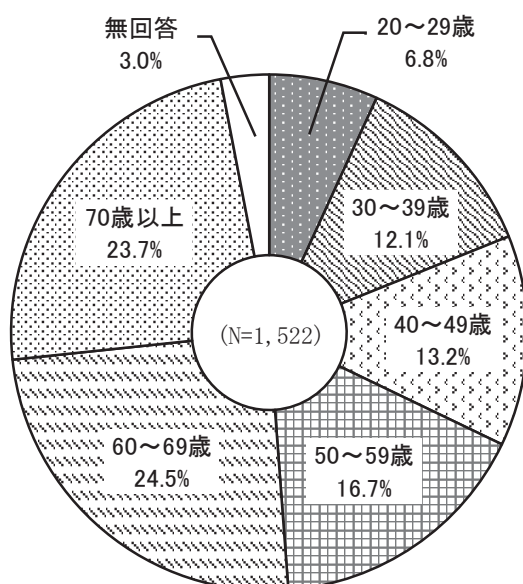
Ⅱ 調査回答者の属性

1 性別



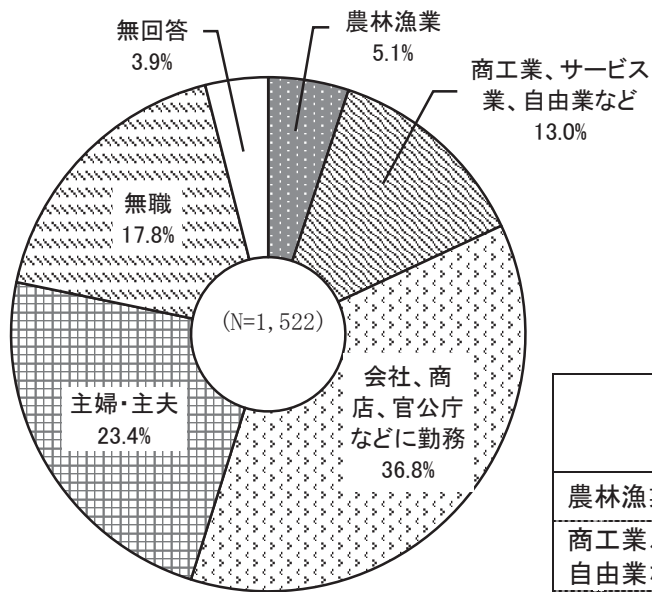
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	616	40.5
女性	858	56.4
(無回答)	48	3.2
計	1,522	100.0

2 年齢



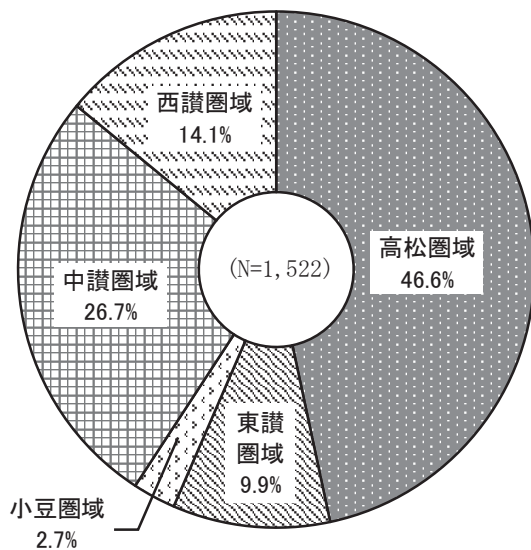
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
20~29歳	104	6.8
30~39歳	184	12.1
40~49歳	201	13.2
50~59歳	254	16.7
60~69歳	373	24.5
70歳以上	360	23.7
(無回答)	46	3.0
計	1,522	100.0

3 職業



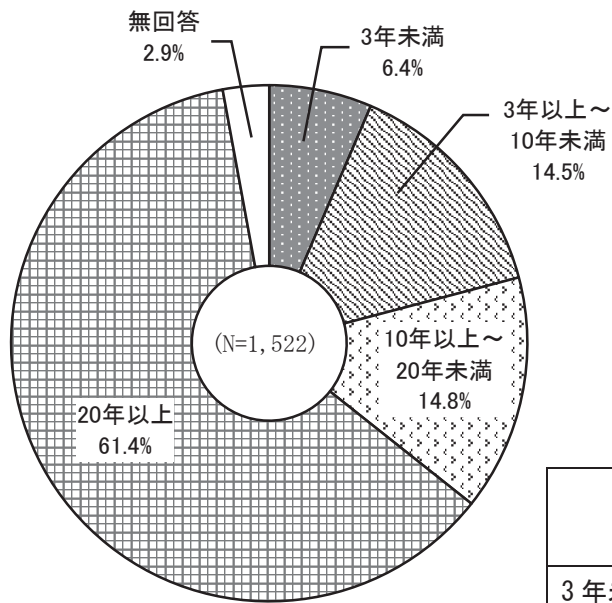
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
農林漁業	77	5.1
商工業、サービス業、自由業など	198	13.0
会社、商店、官公庁などに勤務	560	36.8
主婦・主夫	356	23.4
無職	271	17.8
(無回答)	60	3.9
計	1,522	100.0

4 圏域



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
高松圏域	710	46.6
東讃圏域	150	9.9
小豆圏域	41	2.7
中讃圏域	407	26.7
西讃圏域	214	14.1
計	1,522	100.0

5 居住年数



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
3年未満	98	6.4
3年以上～10年未満	220	14.5
10年以上～20年未満	225	14.8
20年以上	935	61.4
(無回答)	44	2.9
計	1,522	100.0

Ⅲ 調査の集計結果

Ⅲ 調査の集計結果

1 人権問題について

(1) 人権にかかわる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、知っているもの

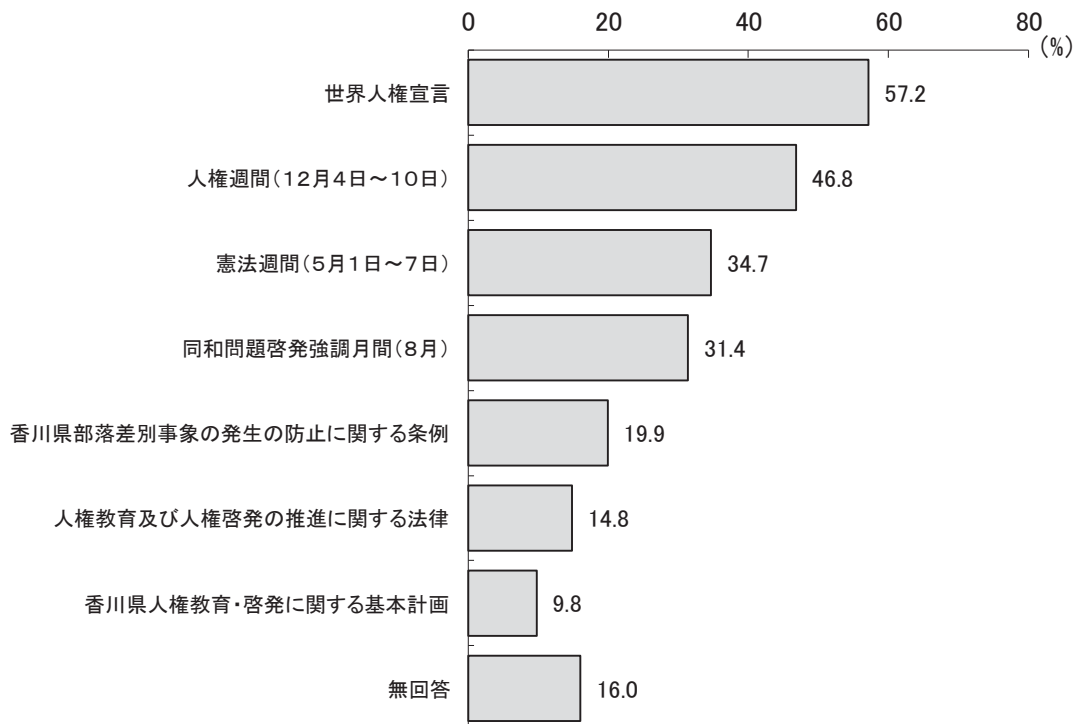
問1 人権にかかわる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、あなたが知っているのは、次のうち、どの項目でしょうか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,522]

1 世界人権宣言	57.2%
2 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	14.8%
3 香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	19.9%
4 香川県人権教育・啓発に関する基本計画	9.8%
5 憲法週間（5月1日～7日）	34.7%
6 同和問題啓発強調月間（8月）	31.4%
7 人権週間（12月4日～10日）	46.8%
（無回答）	16.0%

人権にかかわる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、知っているものについては、「世界人権宣言」が57.2%と半数を超え最も高く、次いで「人権週間（12月4日～10日）」が46.8%、「憲法週間（5月1日～7日）」が34.7%、「同和問題啓発強調月間（8月）」が31.4%などとなっている。

＜ 人権にかかわる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、知っているもの ＞



性別にみると、男女とも「世界人権宣言」が最も高く、その比率は『男性』が62.5%、『女性』が53.7%となっており、これに男女とも「人権週間（12月4日～10日）」が続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「憲法週間（5月1日～7日）」が46.1%と最も高く、これに「世界人権宣言」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「世界人権宣言」が最も高く、特に『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では6割を超えている。

職業別にみると、いずれも「世界人権宣言」が最も高く、特に『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では6割を超えている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「人権週間（12月4日～10日）」が41.5%と最も高く、これに「同和問題啓発強調月間（8月）」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「世界人権宣言」が半数を超え最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「世界人権宣言」が最も高く、特に『3年以上～10年未満』では69.1%と約7割を占める。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
人権にかかわる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、知っているもの

(単位: %)

区分		回答者数(人)	世界人権宣言	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	香川県部落差別事象の発生防止に関する条例	香川県人権教育・啓発に関する基本計画	憲法週間(5月1日～7日)	同和問題啓発強調月間(8月)	日人権週間(12月4日～10)	無回答
全体		1,522	57.2	14.8	19.9	9.8	34.7	31.4	46.8	16.0
性別	男性	616	62.5	15.9	18.7	10.7	37.7	29.2	44.0	14.9
	女性	858	53.7	13.4	20.5	9.4	32.6	33.0	49.5	16.6
年齢別	20～29歳	104	64.4	12.5	8.7	2.9	18.3	16.3	52.9	14.4
	30～39歳	184	64.7	13.6	9.8	4.9	17.9	22.3	53.3	20.1
	40～49歳	201	66.7	13.4	15.4	11.9	24.4	25.9	57.7	11.4
	50～59歳	254	65.7	15.0	17.7	9.4	35.8	35.8	54.3	11.8
	60～69歳	373	54.7	15.0	23.1	8.6	41.6	32.4	39.4	16.6
	70歳以上	360	43.3	15.3	28.9	15.3	46.1	39.7	39.4	18.3
職業別	農林漁業	77	53.2	18.2	18.2	15.6	42.9	31.2	46.8	18.2
	商工業、サービス業、自由業など	198	60.1	16.2	21.7	8.1	34.3	34.3	45.5	15.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	68.0	16.1	16.8	9.5	29.3	27.1	52.9	13.2
	主婦・主夫	356	48.0	12.9	24.2	10.7	37.9	34.3	46.6	16.3
	無職	271	48.7	12.2	19.9	10.3	40.2	35.8	39.5	17.7
圏域別	高松圏域	710	59.3	15.8	18.5	7.3	36.6	29.6	47.6	14.8
	東讃圏域	150	53.3	11.3	19.3	12.0	34.0	28.7	47.3	22.7
	小豆圏域	41	26.8	14.6	19.5	14.6	14.6	31.7	41.5	31.7
	中讃圏域	407	57.7	13.8	21.9	12.0	37.6	33.4	45.7	13.0
	西讃圏域	214	57.5	15.9	21.5	11.2	27.1	35.5	46.7	18.2
居住年数別	3年未満	98	56.1	9.2	7.1	4.1	28.6	18.4	43.9	21.4
	3年以上～10年未満	220	69.1	12.3	13.6	7.3	27.7	23.6	49.1	14.5
	10年以上～20年未満	225	57.8	15.6	20.4	11.6	30.7	31.1	49.8	16.4
	20年以上	935	54.5	15.3	22.5	10.8	38.0	34.8	46.4	15.4

(2) 日本における人権課題について関心があるもの

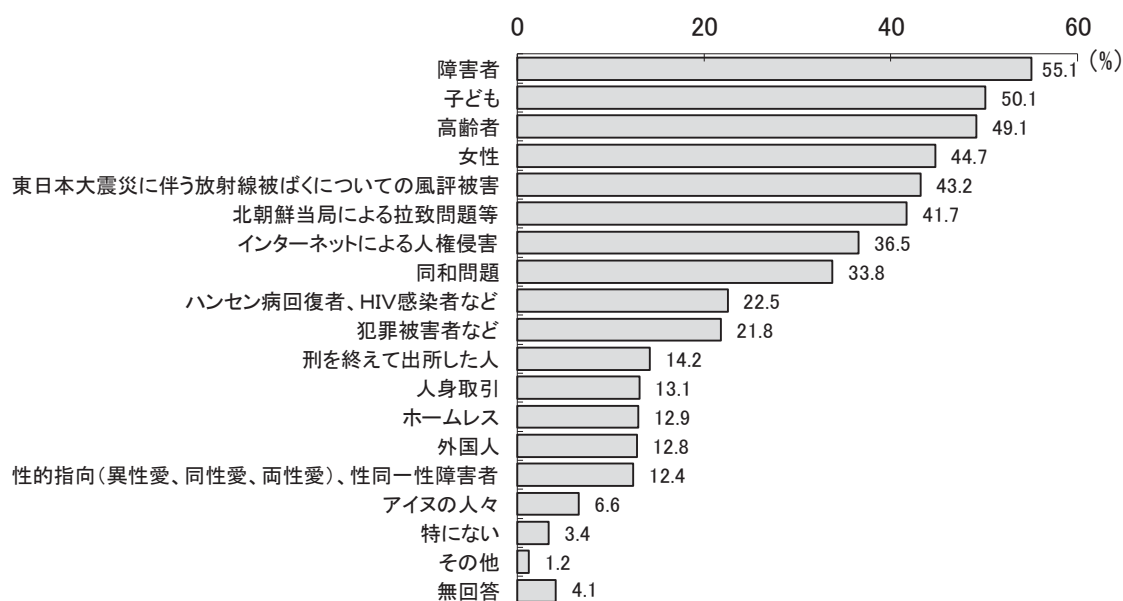
問2 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,522]

1	女性	44.7%
2	子ども	50.1%
3	高齢者	49.1%
4	障害者	55.1%
5	同和問題	33.8%
6	外国人	12.8%
7	ハンセン病回復者、HIV感染者など	22.5%
8	犯罪被害者など	21.8%
9	インターネットによる人権侵害	36.5%
10	アイヌの人々	6.6%
11	刑を終えて出所した人	14.2%
12	性的指向（異性愛、同性愛、両性愛）、性同一性障害者	12.4%
13	北朝鮮当局による拉致問題等	41.7%
14	ホームレス	12.9%
15	人身取引	13.1%
16	東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	43.2%
17	その他（具体的に：)	1.2%
18	特にない	3.4%
	(無回答)	4.1%

日本における人権課題について関心があるものについては、「障害者」が55.1%と半数を超え最も高く、次いで「子ども」が50.1%、「高齢者」が49.1%、「女性」が44.7%、「東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害」が43.2%、「北朝鮮当局による拉致問題等」が41.7%と4割台で続いている。

＜ 日本における人権課題について関心があるもの ＞



性別にみると、男女とも「障害者」が最も高く、その比率は『男性』が54.4%、『女性』が56.1%となっており、これに男女とも「子ども」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「障害者」が最も高く、特に『20～29歳』、『50～59歳』では6割を超えている。また、『30～39歳』、『40～49歳』では「子ども」が、『70歳以上』では「高齢者」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「高齢者」と「障害者」が55.8%と同率で最も高くなっており、『商工業、サービス業、自由業など』では「子ども」が最も高くなっている。一方、その他の職業では「障害者」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「障害者」が半数を超え最も高くなっており、これに『東讃圏域』では「高齢者」が、その他の圏域では「子ども」が続いている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「子ども」が55.0%で最も高くなっており、これに「女性」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「障害者」が半数を超え最も高く、これに『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「子ども」、『20年以上』では「高齢者」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
日本における人権課題について関心があるもの

(単位:%)

区分	回答者数(人)	女性	子ども	高齢者	障害者	同和問題	外国人	ハンセン病回復者、HIV感染者など	犯罪被害者など	インターネットによる人権侵害	アイヌの人々	刑を終えて出所した人	障害者	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)、性同一性	北朝鮮当局による拉致問題等	ホームレス	人身取引	被害	東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評	その他	特になし	無回答
全体	1,522	44.7	50.1	49.1	55.1	33.8	12.8	22.5	21.8	36.5	6.6	14.2	12.4	41.7	12.9	13.1	43.2	1.2	3.4	4.1		
性別	男性	616	32.6	43.7	43.2	54.4	36.4	14.3	22.1	22.9	34.6	7.1	16.6	11.4	41.2	13.8	14.3	42.4	1.5	4.9	3.7	
	女性	858	54.1	54.7	53.5	56.1	32.6	12.0	23.3	22.0	38.2	6.2	12.9	13.5	42.5	12.5	12.5	44.4	1.2	2.1	3.7	
年齢別	20～29歳	104	51.0	45.2	36.5	65.4	27.9	23.1	29.8	17.3	43.3	5.8	11.5	26.9	23.1	12.5	10.6	38.5	2.9	2.9	0.0	
	30～39歳	184	52.2	56.5	31.0	43.5	26.1	14.1	22.8	20.7	39.1	2.7	11.4	17.4	18.5	10.9	10.3	32.6	2.2	3.8	6.0	
	40～49歳	201	51.7	57.7	36.8	52.7	37.3	18.4	22.4	21.4	47.8	6.0	15.9	15.4	32.8	7.5	14.9	40.8	0.5	3.5	1.0	
	50～59歳	254	45.7	48.0	46.9	60.2	36.6	13.0	26.4	25.2	40.2	8.7	11.4	13.0	45.3	15.4	14.6	42.5	2.0	2.0	2.4	
	60～69歳	373	40.8	46.6	54.4	56.0	32.2	10.5	19.0	23.9	34.6	7.2	13.4	8.3	48.5	13.4	11.3	48.3	0.3	2.4	4.6	
	70歳以上	360	40.6	49.4	65.3	55.8	38.1	8.9	22.2	21.7	27.8	6.9	19.2	8.9	55.6	15.3	15.3	48.3	1.4	4.7	5.3	
職業別	農林漁業	77	41.6	54.5	55.8	55.8	39.0	14.3	23.4	20.8	33.8	9.1	18.2	7.8	48.1	14.3	11.7	41.6	1.3	2.6	2.6	
	商工業、サービス業、自由業など	198	42.4	53.5	46.0	50.5	30.8	16.2	23.7	24.2	43.9	8.1	12.1	17.7	44.9	13.6	16.7	43.9	1.0	2.0	5.6	
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	45.2	48.8	42.7	54.3	33.9	15.0	26.1	22.5	40.9	7.1	12.9	14.8	36.3	12.0	13.6	42.0	1.4	3.0	2.3	
	主婦・主夫	356	53.7	56.5	56.7	60.4	30.9	9.6	18.5	22.8	35.4	5.3	15.2	12.9	45.2	12.1	12.6	46.9	0.8	2.2	4.5	
	無職	271	38.7	42.4	53.5	55.0	40.2	11.1	20.3	21.0	26.2	4.8	17.0	6.3	45.4	15.1	11.1	43.5	1.8	5.2	4.1	
圏域別	高松圏域	710	46.3	53.0	52.8	57.2	30.1	12.3	24.1	24.2	39.9	7.5	14.5	12.7	42.5	14.2	12.4	44.5	1.3	2.4	4.1	
	東讃圏域	150	42.0	45.3	46.7	52.0	38.0	16.0	18.7	15.3	30.7	4.7	10.7	10.7	34.0	7.3	12.7	40.7	0.7	4.7	4.7	
	小豆圏域	41	36.6	41.5	31.7	56.1	29.3	0.0	17.1	24.4	29.3	9.8	14.6	7.3	34.1	9.8	14.6	36.6	0.0	7.3	9.8	
	中讃圏域	407	44.0	50.1	47.4	52.6	35.9	13.8	20.6	19.7	33.7	5.2	14.5	12.0	42.0	12.0	14.5	42.5	1.7	3.4	3.2	
	西讃圏域	214	44.4	45.8	45.3	54.7	39.7	13.1	24.8	22.0	36.4	7.0	15.0	14.5	45.3	15.0	12.6	43.0	0.9	4.7	4.7	
居住年数別	3年未満	98	45.9	50.0	43.9	52.0	27.6	15.3	23.5	17.3	33.7	4.1	13.3	15.3	30.6	7.1	8.2	32.7	2.0	2.0	5.1	
	3年以上～10年未満	220	51.8	55.0	39.1	51.4	35.0	18.6	25.5	22.7	38.6	7.7	15.9	19.1	31.8	14.1	13.6	38.2	1.4	3.2	3.2	
	10年以上～20年未満	225	44.4	48.4	47.1	53.3	32.0	13.3	20.9	27.6	43.1	4.4	9.8	12.9	39.1	10.2	9.3	40.4	1.3	2.7	3.1	
	20年以上	935	43.6	49.4	52.6	57.1	35.1	11.2	22.5	21.5	35.2	7.1	15.3	10.8	46.2	14.1	14.5	46.7	1.2	3.5	3.9	

(3) 今の日本は人権が尊重されている社会であると思うか

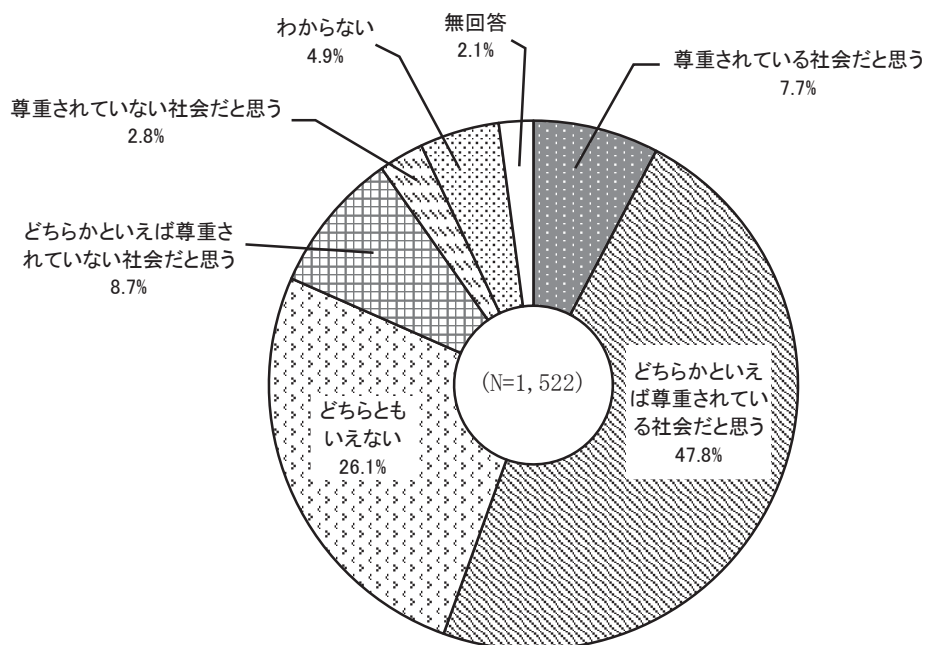
問3 今の日本は人権が尊重されている社会であると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,522〕

1 尊重されている社会だと思う	7.7%
2 どちらかといえば尊重されている社会だと思う	47.8%
3 どちらともいえない	26.1%
4 どちらかといえば尊重されていない社会だと思う	8.7%
5 尊重されていない社会だと思う	2.8%
6 わからない	4.9%
(無回答)	2.1%

今の日本は人権が尊重されている社会であると思うかについては、「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」が47.8%と半数近くを占め最も高く、これに「尊重されている社会だと思う」の7.7%を合わせた【尊重されている】が55.5%と半数を超えている。一方、「尊重されていない社会だと思う」が2.8%で、これに「どちらかといえば尊重されていない社会だと思う」の8.7%を合わせた【尊重されていない】は11.5%と1割強となっている。また、「どちらともいえない」は26.1%となっている。

< 今の日本は人権が尊重されている社会であると思うか >



性別にみると、男女とも「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」が最も高く、その比率は『男性』が50.0%、『女性』が46.4%となっている。また、「尊重されている社会だと思う」と「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」を合わせた【尊重されている】が、「尊重されていない社会だと思う」と「どちらかといえば尊重されていない社会だと思う」を合わせた【尊重されていない】を上回っている。

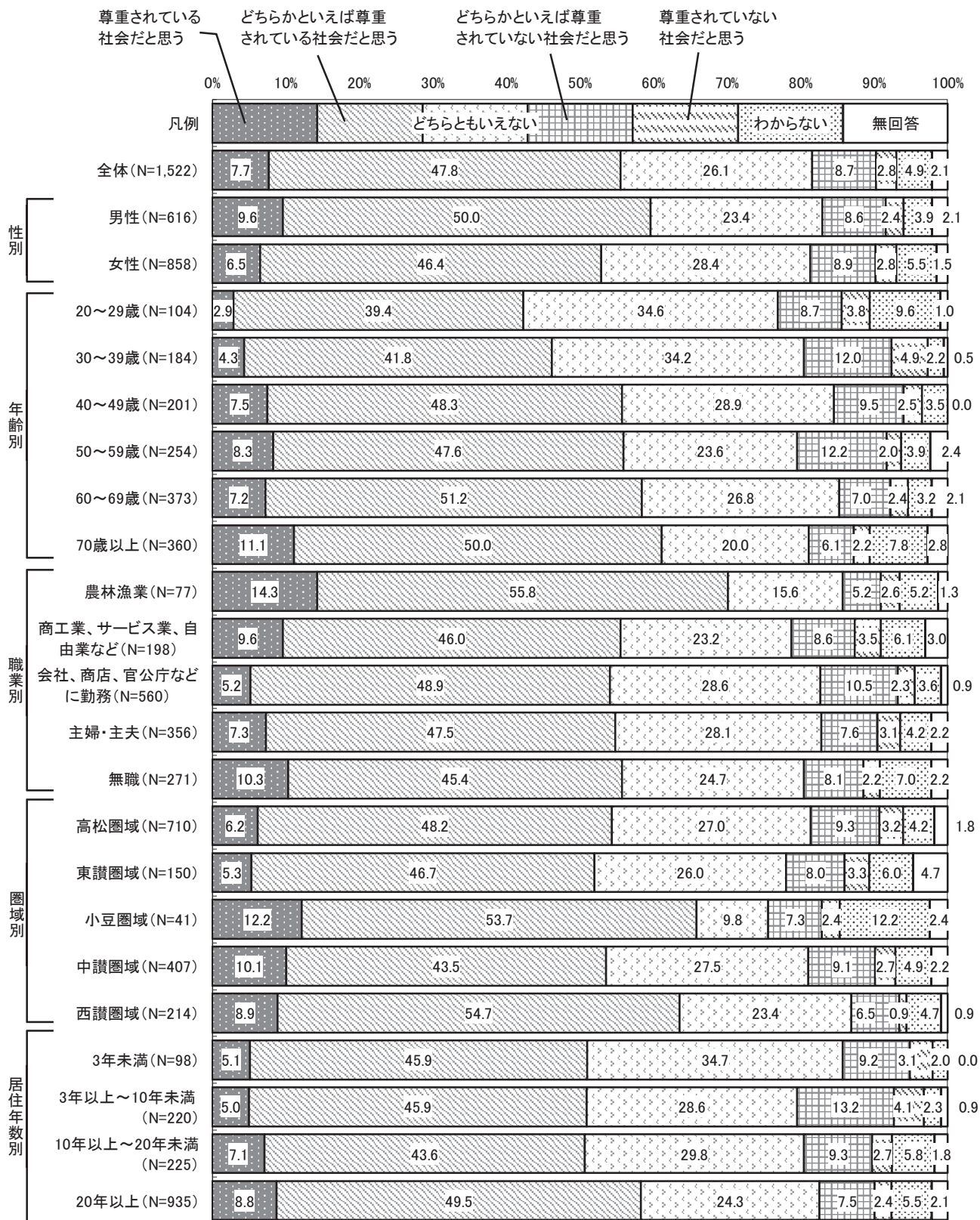
年齢別にみると、いずれも「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」が最も高く、特に『60～69歳』、『70歳以上』では半数を超えている。また、いずれも【尊重されている】が【尊重されていない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」が最も高く、特に『農林漁業』では半数を超えている。また、いずれも【尊重されている】が【尊重されていない】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」が最も高く、特に『小豆圏域』、『西讃圏域』では半数を超えている。また、いずれも【尊重されている】が【尊重されていない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらかといえば尊重されている社会だと思う」が最も高くなっている。また、いずれも【尊重されている】が【尊重されていない】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 今の日本は人権が尊重されている社会であると思うか



(4) この5～6年の日本での人権侵害の状況について

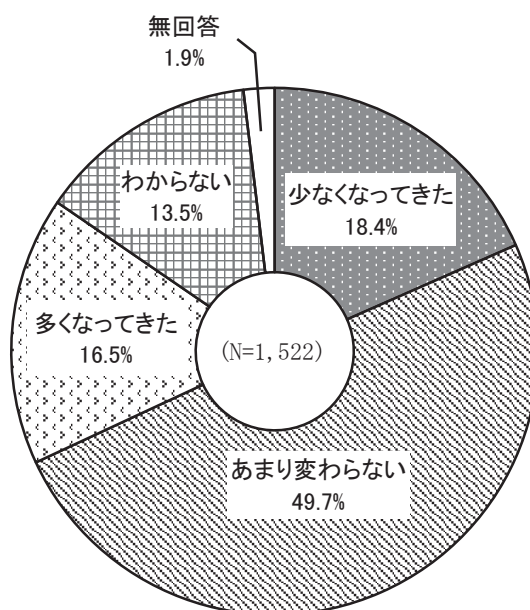
問4 あなたは、この5～6年の間に、日本で、人権が侵害されるようなことは、次第に少なくなってきたと思いますか、あまり変わらないと思いますか、それとも次第に多くなってきたと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,522]

1 少なくなってきた	18.4%
2 あまり変わらない	49.7%
3 多くなってきた	16.5%
4 わからない	13.5%
(無回答)	1.9%

この5～6年の日本での人権侵害の状況については、「あまり変わらない」が49.7%と半数近くを占め最も高く、次いで「少なくなってきた」が18.4%、「多くなってきた」が16.5%となっている。

〈 この5～6年の日本での人権侵害の状況について 〉



性別にみると、男女とも「あまり変わらない」が最も高く、その比率は『男性』が51.0%、『女性』が48.7%となっており、これに、男女とも「少なくなってきた」が続いている。

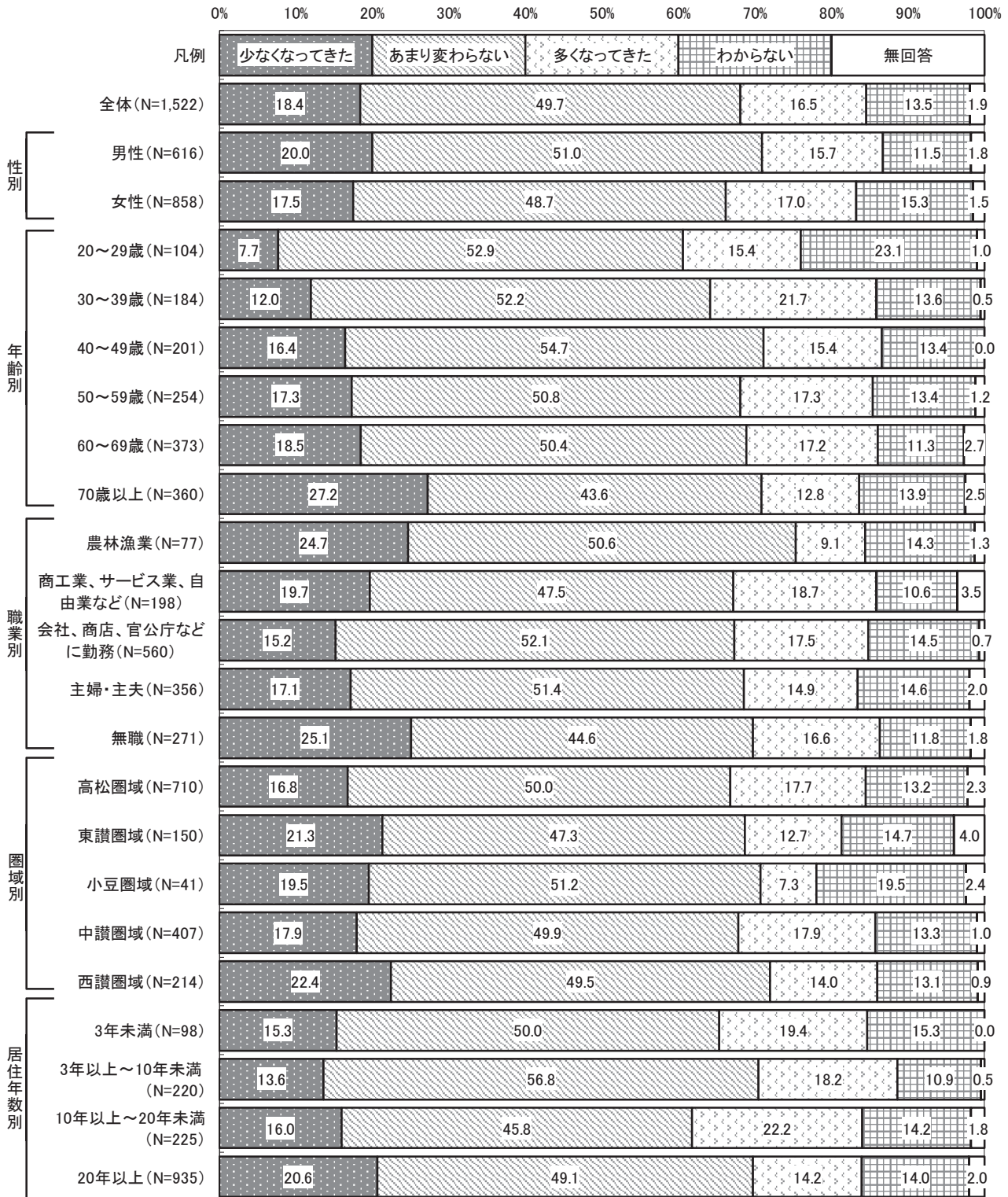
年齢別にみると、いずれも「あまり変わらない」が最も高くなっており、特に『20～29歳』、『30～39歳』では「多くなってきた」が、その他の年齢では「少なくなってきた」が続いている。

職業別にみると、いずれも「あまり変わらない」が最も高くなっており、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「多くなってきた」が、その他の職業では「少なくなってきた」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「あまり変わらない」が最も高く、これに『高松圏域』では「多くなってきた」が、その他の圏域では「少なくなってきた」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「あまり変わらない」が最も高く、これに『20年以上』では「少なくなってきた」が、その他の居住年数では「多くなってきた」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
この5～6年の日本での人権侵害の状況について



(5) 自身もしくは家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがあるか

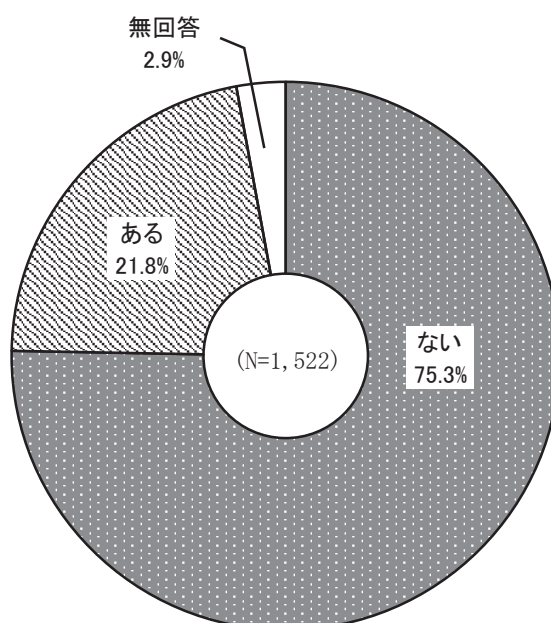
問5 あなた、または、あなたの家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがありますか。
どちらか1つを選んでください。

[回答者数=1,522]

1 ない	75.3%
2 ある	21.8%
(無回答)	2.9%

自身もしくは家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがあるかについては、「ない」が75.3%と8割近くを占め、「ある」は21.8%と2割強となっている。

< 自身もしくは家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがあるか >



性別にみると、男女とも「ない」が「ある」を上回っており、その比率は『男性』が78.7%、『女性』が73.3%となっている。

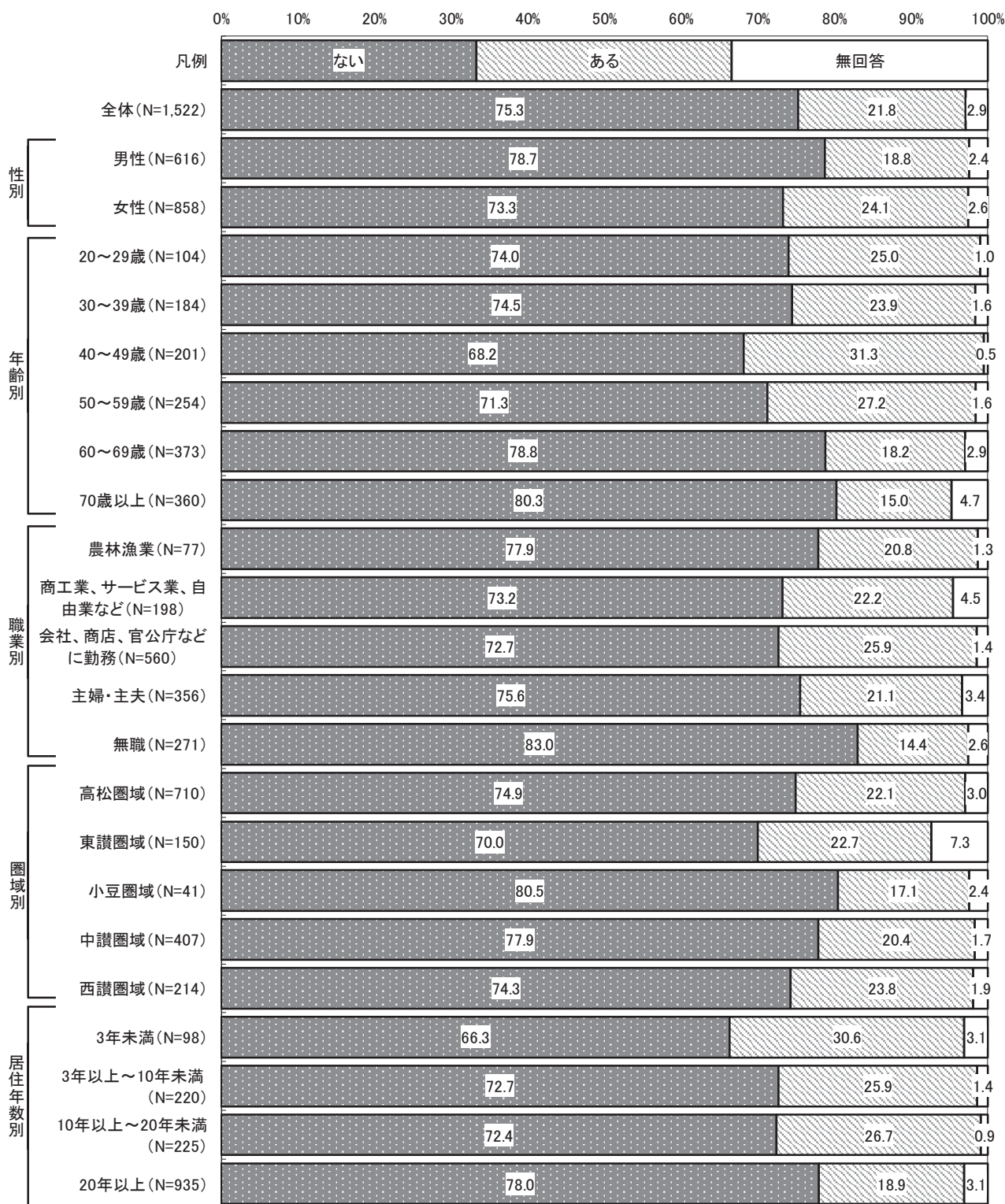
年齢別にみると、いずれも「ない」が「ある」を上回っており、特に『70歳以上』では8割を超えている。

職業別にみると、いずれも「ない」が「ある」を上回っており、特に『無職』では8割を超えている。

圏域別にみると、いずれも「ない」が「ある」を上回っており、特に『小豆圏域』では8割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「ない」が「ある」を上回っており、特に『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では7割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
自身もしくは家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがあるか



(6) 自身もしくは家族が、どのようなことで人権が侵害されたと思うか

<問5で「2」と答えた方にお聞きします>

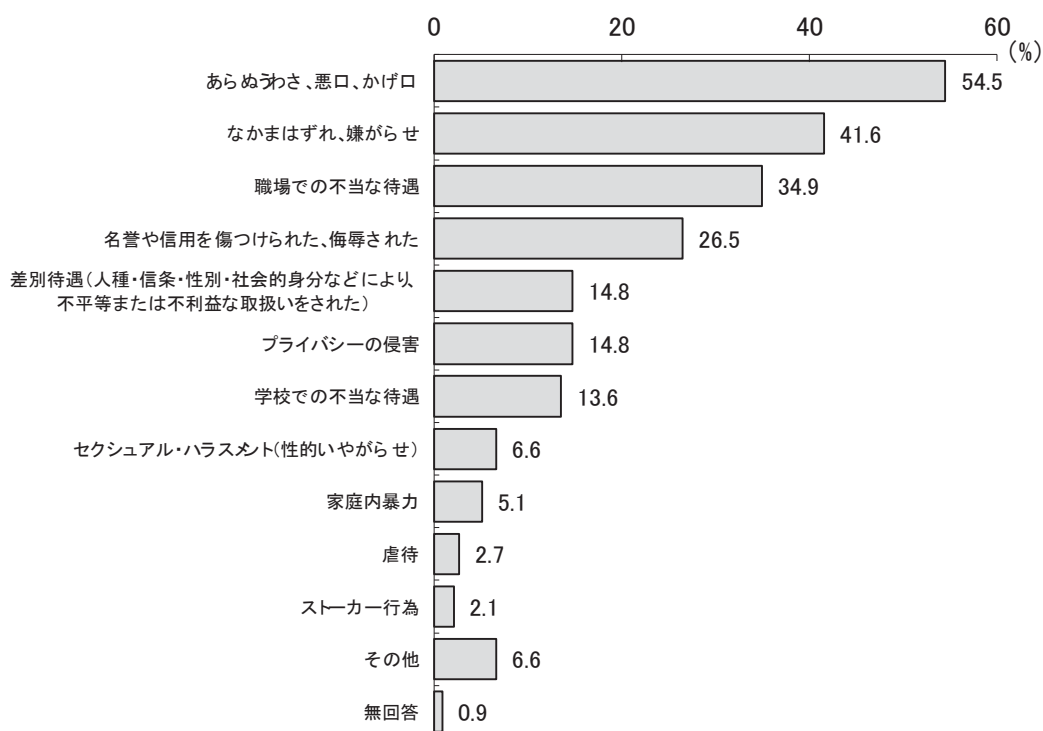
付問1 あなた、または、あなたの家族は、どのようなことで人権が侵害されたと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=332]

1	あらぬうわさ、悪口、かげ口	54.5%
2	なかまはずれ、嫌がらせ	41.6%
3	名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	26.5%
4	差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取扱いをされた）	14.8%
5	職場での不当な待遇	34.9%
6	学校での不当な待遇	13.6%
7	プライバシーの侵害	14.8%
8	家庭内暴力	5.1%
9	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	6.6%
10	ストーカー行為	2.1%
11	虐待	2.7%
12	その他（具体的に：)	6.6%
	(無回答)	0.9%

自身もしくは家族が、どのようなことで人権が侵害されたと思うかについては、「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が54.5%と半数を超え最も高く、次いで「なかまはずれ、嫌がらせ」が41.6%、「職場での不当な待遇」が34.9%、「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」が26.5%などとなっている。

< 自身もしくは家族が、どのようなことで人権が侵害されたと思うか >



性別にみると、男女とも「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が52.6%、『女性』が54.6%となっており、これに『男性』では「職場での不当な待遇」が、『女性』では「なかまはずれ、嫌がらせ」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が最も高く、特に『20～29歳』では6割を超えている。これに、『60～69歳』では「職場での不当な待遇」が、その他の年齢では「なかまはずれ、嫌がらせ」が続いている。

職業別にみると、いずれも「あらぬうわさ、悪口、かげ口」半数を超え最も高く、これに『農林漁業』では「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」が、その他の職業では「なかまはずれ、嫌がらせ」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が半数を超え最も高く、特に『東讃圏域』では6割を超えている。これに、いずれも「なかまはずれ、嫌がらせ」が続いている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』では「なかまはずれ、嫌がらせ」が半数を超え最も高く、これに「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が続いている。一方、その他の居住年数では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が半数を超え最も高く、これに『3年未満』では「職場での不当な待遇」が、『3年以上～10年未満』、『20年以上』では「なかまはずれ、嫌がらせ」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
自身もしくは家族が、どのようなことで人権が侵害されたと思うか

(単位:%)

区分	回答者数(人)	あらゆるわき、悪口、かげ口	なかまはずれ、嫌がらせ	名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取扱いをされた)	職場での不当な待遇	学校での不当な待遇	プライバシーの侵害	家庭内暴力	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	ストーカー行為	虐待	その他	無回答	
全体	332	54.5	41.6	26.5	14.8	34.9	13.6	14.8	5.1	6.6	2.1	2.7	6.6	0.9	
性別	男性	116	52.6	41.4	25.9	13.8	45.7	18.1	12.9	4.3	0.9	0.9	5.2	0.9	
	女性	207	54.6	42.5	27.1	14.0	28.5	11.1	15.5	6.8	2.4	3.4	7.7	1.0	
年齢別	20～29歳	26	65.4	50.0	30.8	11.5	34.6	19.2	3.8	0.0	3.8	0.0	3.8	3.8	0.0
	30～39歳	44	54.5	45.5	22.7	18.2	38.6	6.8	20.5	13.6	6.8	4.5	11.4	11.4	2.3
	40～49歳	63	54.0	41.3	25.4	14.3	36.5	17.5	17.5	6.3	7.9	1.6	0.0	6.3	3.2
	50～59歳	69	56.5	40.6	31.9	14.5	30.4	21.7	11.6	5.8	7.2	2.9	0.0	7.2	0.0
	60～69歳	68	47.1	38.2	22.1	14.7	44.1	11.8	14.7	4.4	5.9	1.5	1.5	4.4	0.0
	70歳以上	54	53.7	44.4	27.8	11.1	22.2	3.7	16.7	0.0	3.7	0.0	3.7	7.4	0.0
職業別	農林漁業	16	56.3	25.0	37.5	0.0	25.0	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	12.5	0.0	
	商工業、サービス業、自由業など	44	52.3	40.9	27.3	20.5	36.4	20.5	11.4	6.8	2.3	4.5	6.8	2.3	
	会社、商店、官公庁などに勤務	145	52.4	41.4	28.3	12.4	40.0	18.6	17.2	5.5	6.2	2.8	8.3	1.4	
	主婦・主夫	75	54.7	46.7	22.7	17.3	29.3	5.3	10.7	5.3	8.0	1.3	1.3	4.0	0.0
	無職	39	59.0	41.0	25.6	12.8	28.2	5.1	15.4	2.6	5.1	0.0	0.0	5.1	0.0
圏域別	高松圏域	157	51.0	43.9	29.3	15.9	38.9	14.0	15.3	6.4	7.0	2.5	2.5	6.4	0.6
	東讃圏域	34	67.6	32.4	23.5	5.9	32.4	8.8	8.8	5.9	5.9	0.0	2.9	2.9	0.0
	小豆圏域	7	57.1	57.1	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	中讃圏域	83	56.6	38.6	24.1	15.7	27.7	13.3	12.0	3.6	8.4	1.2	2.4	8.4	0.0
	西讃圏域	51	52.9	43.1	23.5	11.8	39.2	15.7	21.6	3.9	3.9	3.9	3.9	5.9	3.9
居住年数別	3年未満	30	50.0	23.3	16.7	10.0	46.7	13.3	10.0	10.0	0.0	3.3	0.0	13.3	3.3
	3年以上～10年未満	57	57.9	43.9	26.3	17.5	42.1	12.3	14.0	10.5	5.3	1.8	7.0	5.3	1.8
	10年以上～20年未満	60	48.3	55.0	23.3	10.0	33.3	16.7	15.0	3.3	6.7	1.7	1.7	8.3	1.7
	20年以上	177	55.4	40.7	29.4	15.3	30.5	13.0	15.8	3.4	7.3	1.7	2.3	5.6	0.0

(7) 人権侵害があった時、どのような対応をしたか

<問5で「2」と答えた方にお聞きします>

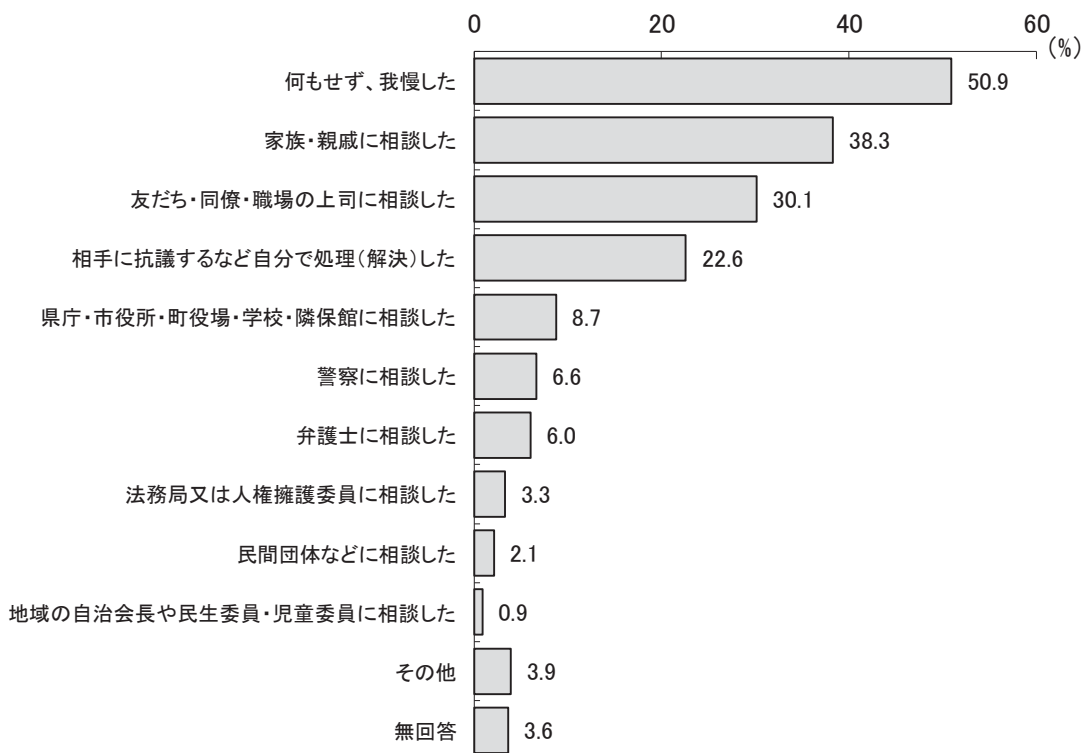
付問2 付問1で選んだ人権侵害があった時、どのような対応をされましたか。主なものを次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=332]

1	何もせず、我慢した	50.9%
2	相手に抗議するなど自分で処理(解決)した	22.6%
3	家族・親戚に相談した	38.3%
4	友だち・同僚・職場の上司に相談した	30.1%
5	弁護士に相談した	6.0%
6	法務局又は人権擁護委員に相談した	3.3%
7	県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	8.7%
8	警察に相談した	6.6%
9	民間団体などに相談した	2.1%
10	地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	0.9%
11	その他(具体的に: (無回答))	3.9% 3.6%

人権侵害があった時、どのような対応をしたかについては、「何もせず、我慢した」が50.9%と半数を超え最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」が38.3%、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」が30.1%、「相手に抗議するなど自分で処理(解決)した」が22.6%などとなっている。

< 人権侵害があった時、どのような対応をしたか >



性別にみると、男女とも「何もせず、我慢した」が最も高く、その比率は『男性』が51.7%、『女性』が48.8%となっている。これに、男女とも「家族・親戚に相談した」が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』では「家族・親戚に相談した」が半数を超え最も高く、これに「何もせず、我慢した」が続いている。一方、その他の年齢では「何もせず、我慢した」が最も高く、特に『20～29歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では半数を超えており、これに、いずれも「家族・親戚に相談した」が続いている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「何もせず、我慢した」、「家族・親戚に相談した」、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」が同率で最も高くなっている。一方、その他の職業では「何もせず、我慢した」が最も高く、特に『農林漁業』では6割を超えており、これに、いずれも「家族・親戚に相談した」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「何もせず、我慢した」が最も高く、特に『小豆圏域』では7割を超えている。これに、『西讃圏域』では「友だち・同僚・職場の上司に相談した」が、その他の圏域では「家族・親戚に相談した」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「家族・親戚に相談した」、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」が、『10年以上～20年未満』では「何もせず、我慢した」、「家族・親戚に相談した」がそれぞれ同率で最も高くなっている。また、『3年以上～10年未満』、『20年以上』では「何もせず、我慢した」が最も高く、これに「家族・親戚に相談した」がともに続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
人権侵害があった時、どのような対応をしたか

(単位:%)

区分		回答者数(人)	何もせず、我慢した	(解決)した 相手に抗議するなど自分で処理	家族・親戚に相談した	友だち・同僚・職場の上司に相談した	弁護士に相談した	法務局又は人権擁護委員に相談した	隣保館に相談した	県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	警察に相談した	民間団体などに相談した	地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	その他	無回答
全体		332	50.9	22.6	38.3	30.1	6.0	3.3	8.7	6.6	2.1	0.9	3.9	3.6	
性別	男性	116	51.7	26.7	31.0	20.7	4.3	3.4	11.2	6.9	3.4	0.0	3.4	6.0	
	女性	207	48.8	20.3	43.0	35.7	7.2	3.4	7.7	6.3	1.4	1.4	4.3	2.4	
年齢別	20～29歳	26	50.0	34.6	42.3	30.8	3.8	3.8	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	
	30～39歳	44	47.7	25.0	54.5	40.9	2.3	0.0	9.1	9.1	4.5	0.0	0.0	2.3	
	40～49歳	63	39.7	25.4	31.7	34.9	3.2	0.0	9.5	3.2	3.2	0.0	9.5	6.3	
	50～59歳	69	55.1	23.2	43.5	26.1	8.7	4.3	13.0	5.8	0.0	1.4	1.4	1.4	
	60～69歳	68	48.5	13.2	27.9	25.0	8.8	4.4	5.9	10.3	0.0	0.0	7.4	7.4	
	70歳以上	54	59.3	24.1	38.9	29.6	7.4	7.4	7.4	7.4	1.9	3.7	1.9	1.9	
職業別	農林漁業	16	68.8	12.5	56.3	18.8	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	
	商工業、サービス業、自由業など	44	38.6	20.5	38.6	38.6	13.6	6.8	11.4	9.1	4.5	0.0	6.8	4.5	
	会社、商店、官公庁などに勤務	145	51.0	24.1	36.6	31.0	5.5	2.1	10.3	6.2	2.8	0.7	4.1	3.4	
	主婦・主夫	75	50.7	21.3	44.0	32.0	6.7	5.3	5.3	5.3	1.3	1.3	5.3	2.7	
	無職	39	46.2	25.6	30.8	23.1	2.6	2.6	5.1	10.3	0.0	2.6	0.0	2.6	
圏域別	高松圏域	157	53.5	17.8	41.4	31.8	5.7	1.9	6.4	9.6	1.9	0.6	5.1	3.2	
	東讃圏域	34	50.0	29.4	41.2	26.5	5.9	5.9	5.9	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	
	小豆圏域	7	71.4	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	中讃圏域	83	49.4	28.9	36.1	24.1	6.0	4.8	13.3	7.2	3.6	0.0	6.0	1.2	
	西讃圏域	51	43.1	21.6	31.4	41.2	7.8	2.0	11.8	2.0	0.0	3.9	0.0	9.8	
居住年数別	3年未満	30	26.7	26.7	43.3	43.3	10.0	3.3	13.3	10.0	6.7	0.0	3.3	3.3	
	3年以上～10年未満	57	61.4	26.3	40.4	29.8	3.5	3.5	5.3	7.0	3.5	0.0	5.3	1.8	
	10年以上～20年未満	60	41.7	15.0	41.7	36.7	1.7	3.3	20.0	3.3	1.7	1.7	3.3	6.7	
	20年以上	177	53.1	23.7	36.2	26.6	7.9	3.4	5.6	6.8	1.1	1.1	4.0	3.4	

(8) 人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、どう思うか

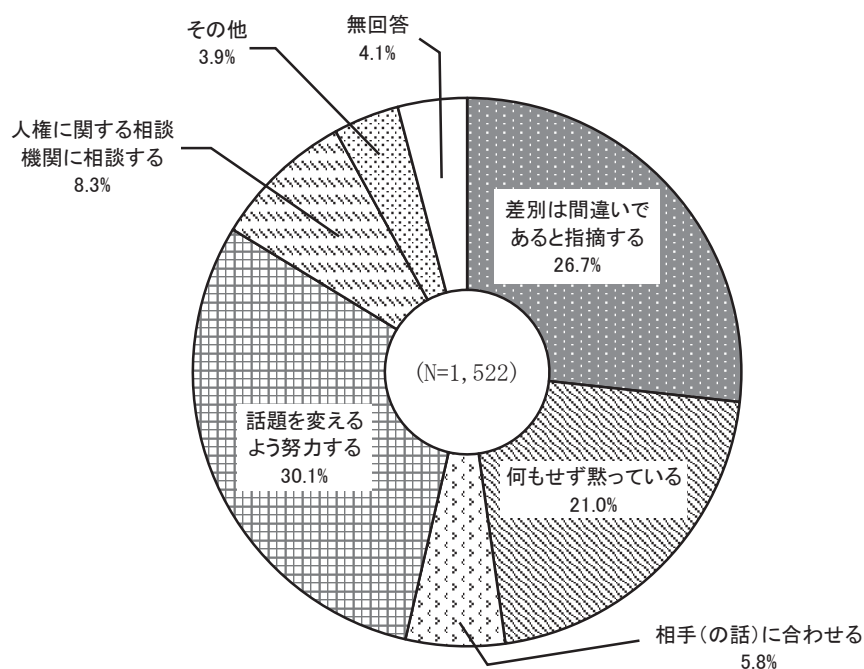
問6 もし職場や地域などで、人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、あなたは、どのようにすると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,522]

1 差別は間違いであると指摘する	26.7%
2 何もせず黙っている	21.0%
3 相手（の話）に合わせる	5.8%
4 話題を変えるよう努力する	30.1%
5 人権に関する相談機関に相談する	8.3%
6 その他（具体的に：)	3.9%
(無回答)	4.1%

人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、どう思うかについては、「話題を変えるよう努力する」が30.1%と3割を超え最も高く、次いで「差別は間違いであると指摘する」が26.7%、「何もせず黙っている」が21.0%などとなっている。

〈 人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、どう思うか 〉



性別にみると、『男性』では「差別は間違いであると指摘する」が32.1%で最も高く、これに「話題を変えるよう努力する」が続いている。一方、『女性』では「話題を変えるよう努力する」が33.0%で最も高く、これに「差別は間違いであると指摘する」が続いている。

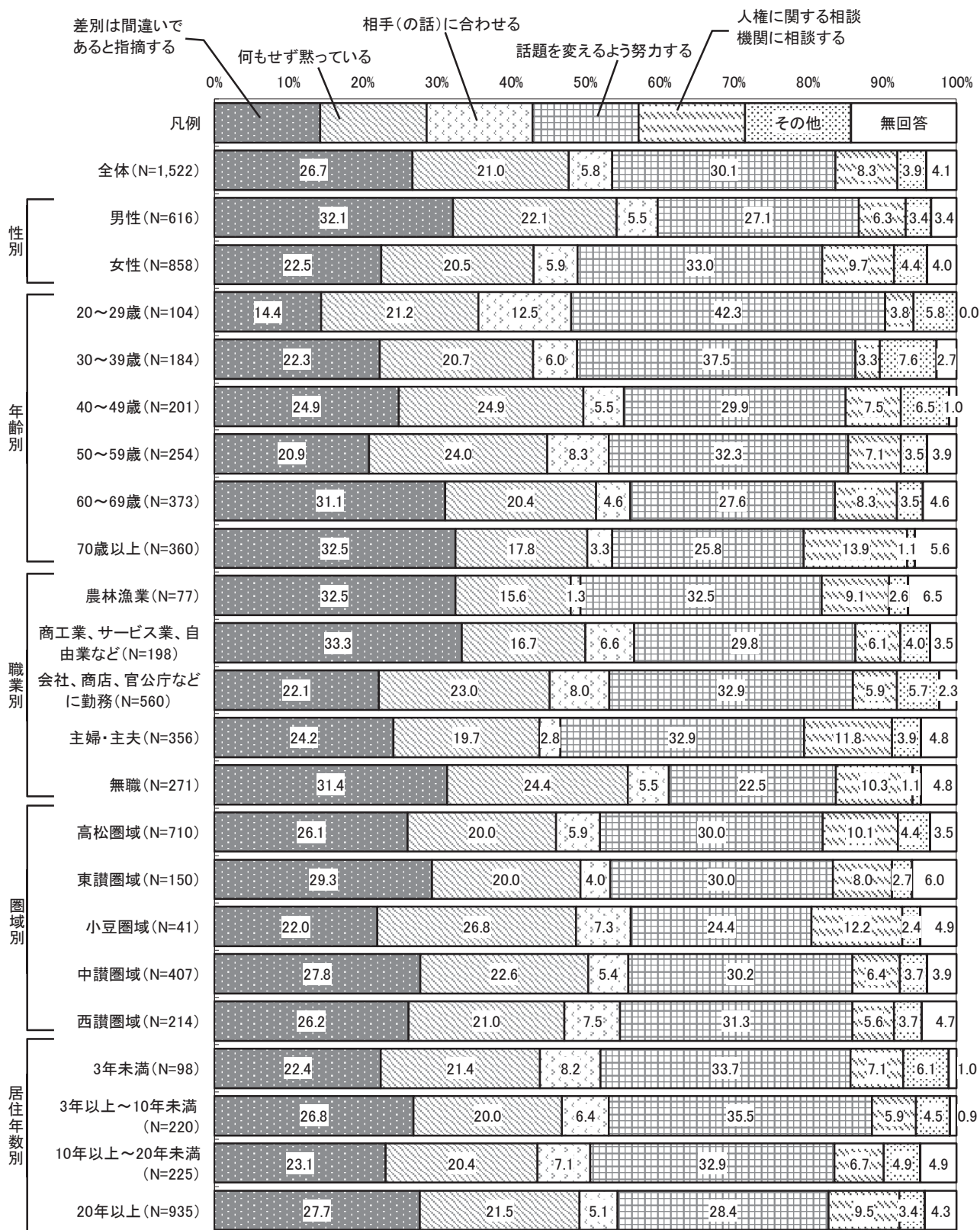
年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』では「差別は間違いであると指摘する」が最も高く、これに「話題を変えるよう努力する」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「話題を変えるよう努力する」が最も高く、これに『30～39歳』では「差別は間違いであると指摘する」が、『20～29歳』、『50～59歳』では「何もせず黙っている」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「差別は間違いであると指摘する」、「話題を変えるよう努力する」が同率で最も高くなっている。また、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「差別は間違いであると指摘する」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「話題を変えるよう努力する」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「何もせず黙っている」が最も高く、これに「話題を変えるよう努力する」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「話題を変えるよう努力する」が最も高くなってとなっており、これに、いずれも「差別は間違いであると指摘する」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「話題を変えるよう努力する」が最も高く、これに、いずれも「差別は間違いであると指摘する」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、どう思うか



(9) 日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などといわれる問題があることを知っているか

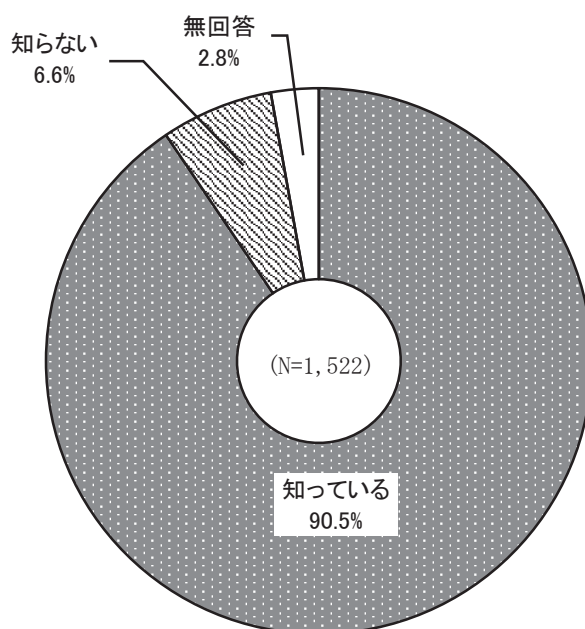
問7 多くの人権課題がある中で、日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などといわれる問題があることを知っていますか。どちらか1つを選んでください。

[回答者数=1,522]

1 知っている	90.5%
2 知らない	6.6%
(無回答)	2.8%

日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などといわれる問題があることを知っているかについては、「知っている」が90.5%と9割を占め、「知らない」は6.6%となっている。

< 日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などといわれる問題があることを知っているか >



性別にみると、男女とも「知っている」が8割を超えており、その比率は『男性』が89.0%、『女性』が92.3%となっている。

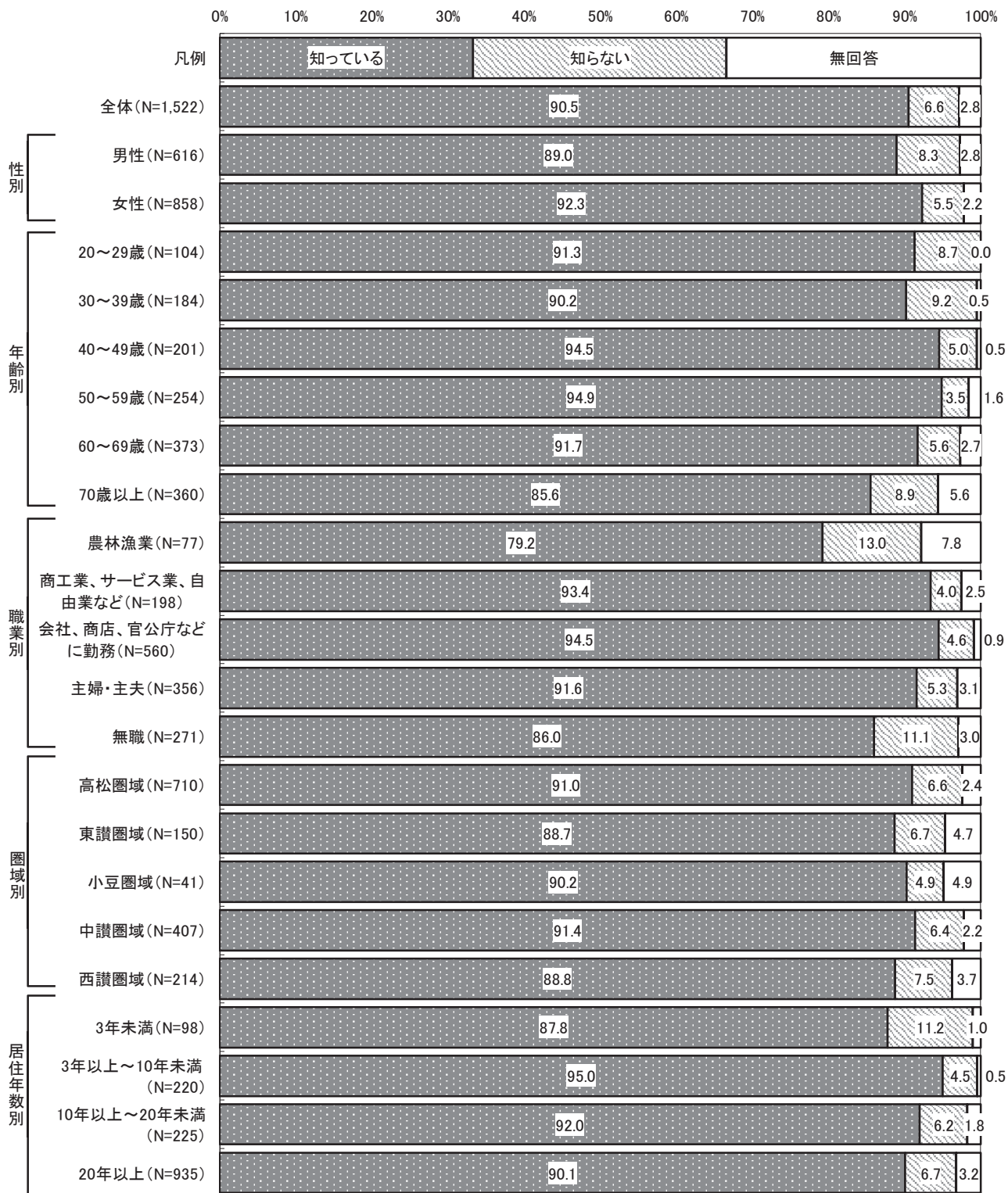
年齢別にみると、いずれも「知っている」が8割を超えており、特に『70歳以上』を除く全ての年齢で9割を超えている。

職業別にみると、いずれも「知っている」が7割を超え最も高く、特に『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では9割を超え、『農林漁業』では8割弱となっている。

圏域別にみると、いずれも「知っている」が8割を超えており、特に『高松圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』は9割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「知っている」が8割を超えており、特に『3年未満』を除く全ての居住年数で9割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などといわれる問題があることを知っているか



(10) 同和問題について、初めて知ったきっかけ

<問7で「1」と答えた方にお聞きします>

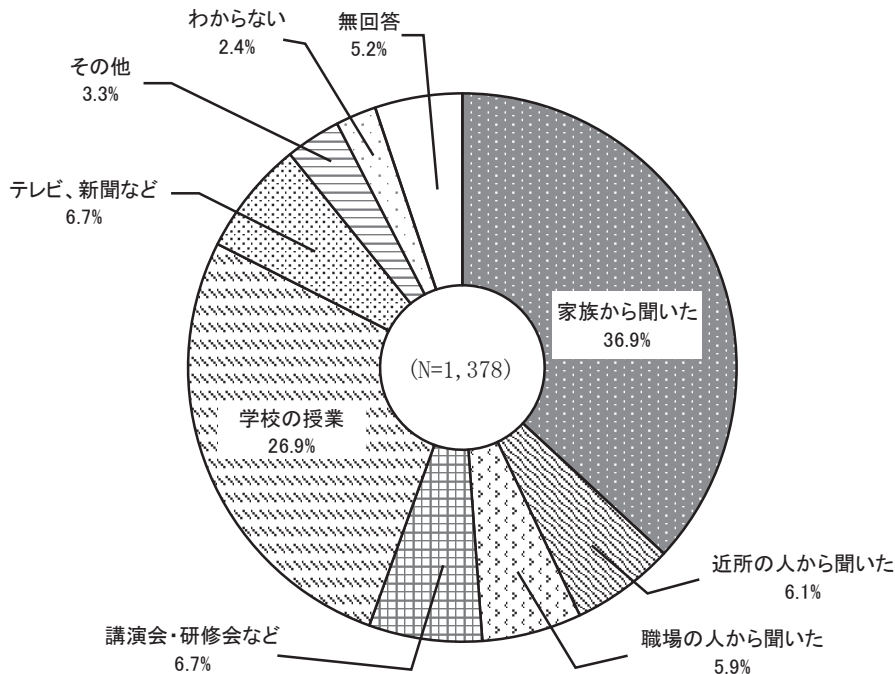
付問1 同和問題について、あなたが初めて知ったきっかけは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,378]

1 家族から聞いた	36.9%
2 近所の人から聞いた	6.1%
3 職場の人から聞いた	5.9%
4 講演会・研修会など	6.7%
5 学校の授業	26.9%
6 テレビ、新聞など	6.7%
7 その他（具体的に：)	3.3%
8 わからない	2.4%
(無回答)	5.2%

同和問題について、初めて知ったきっかけは、「家族から聞いた」が36.9%と3割を超え最も高く、次いで「学校の授業」が26.9%、「講演会・研修会など」、「テレビ、新聞など」がともに6.7%などとなっている。

< 同和問題について、初めて知ったきっかけ >



性別にみると、男女とも「家族から聞いた」が最も高く、その比率は『男性』が35.2%、『女性』が38.3%となっている。これに、男女とも「学校の授業」が続いている。

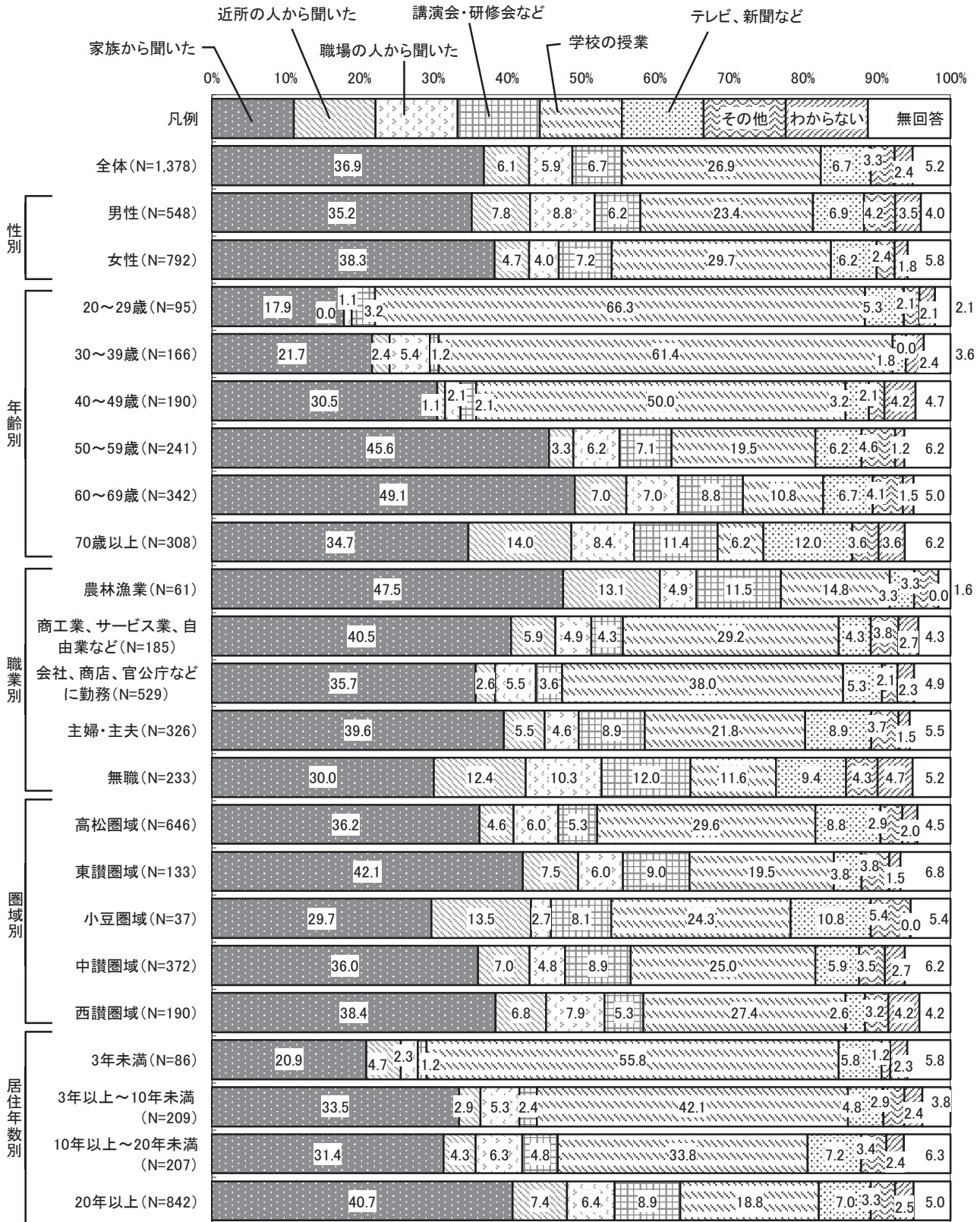
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「学校の授業」が半数を超え最も高く、これに「家族から聞いた」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「家族から聞いた」が最も高く、これに『50～59歳』、『60～69歳』では「学校の授業」が、『70歳以上』では「近所の人から聞いた」が続いている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校の授業」が最も高く、これに「家族から聞いた」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「家族から聞いた」が最も高く、これに『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「学校の授業」が、『無職』では「近所の人から聞いた」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「家族から聞いた」が最も高く、これに、いずれも「学校の授業」が続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「家族から聞いた」が最も高く、これに「学校の授業」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「学校の授業」が最も高く、これに、いずれも「家族から聞いた」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
同和問題について、初めて知ったきっかけ



(11) 同和問題に関して、これまでどのような差別を見聞きしたことがあるか

<問7で「1」と答えた方にお聞きします>

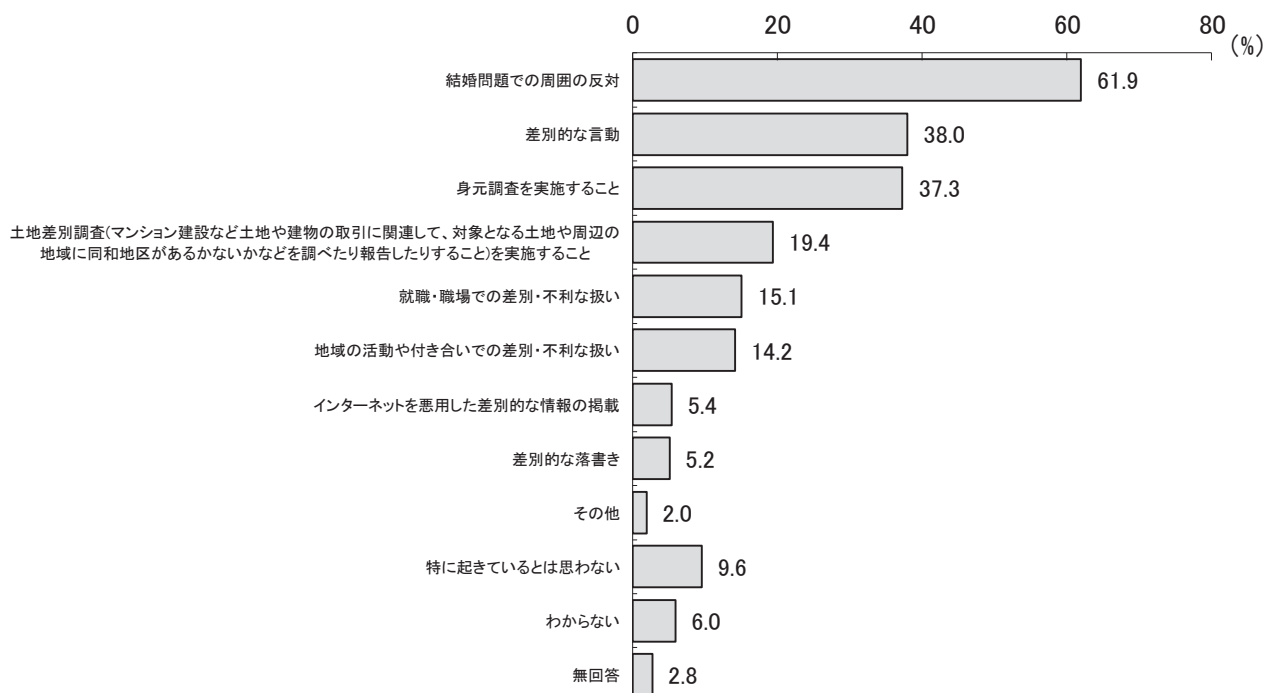
付問2 同和問題に関して、あなたは、これまで、どのような差別を見聞きしたことがありますか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,378]

1 差別的な言動	38.0%
2 差別的な落書き	5.2%
3 インターネットを悪用した差別的な情報の掲載	5.4%
4 就職・職場での差別・不利な扱い	15.1%
5 結婚問題での周囲の反対	61.9%
6 身元調査を実施すること	37.3%
7 地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	14.2%
8 土地差別調査（マンション建設など土地や建物の取引に関連して、対象となる土地や周辺の地域に同和地区があるかないかなどを調べたり報告したりすること）を実施すること	19.4%
9 その他（具体的に：）	2.0%
10 特に起きているとは思わない	9.6%
11 わからない	6.0%
（無回答）	2.8%

同和問題に関して、これまでどのような差別を見聞きしたことがあるかについては、「結婚問題での周囲の反対」が61.9%と6割を超え最も高く、次いで「差別的な言動」が38.0%、「身元調査を実施すること」が37.3%などとなっている。

< 同和問題に関して、これまでどのような差別を見聞きしたことがあるか >



性別にみると、男女とも「結婚問題での周囲の反対」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が 58.0%、『女性』が 65.0%となっている。これに、『男性』では「差別的な言動」が、『女性』では「身元調査を実施すること」が続いている。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「差別的な言動」が最も高く、これに「結婚問題での周囲の反対」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が最も高く、これに『30～39 歳』、『40～49 歳』、『50～59 歳』、『70 歳以上』では「差別的な言動」が、『60～69 歳』では「身元調査を実施すること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が最も高く、これに『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「差別的な言動」が、『主婦・主夫』、『無職』では「身元調査を実施すること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が最も高く、これに『高松圏域』では「身元調査を実施すること」が、その他の圏域では「差別的な言動」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が最も高く、これに『20 年以上』では「身元調査を実施すること」が、その他の居住年数では「差別的な言動」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
同和問題に関して、これまでどのような差別を見聞きしたことがあるか

(単位:%)

区分	回答者数(人)	差別的な言動	差別的な落書き	インターネットを悪用した差別的な情報の掲載	就職・職場での差別・不利な扱い	結婚問題での周囲の反対	身元調査を実施すること	地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	土地差別調査(マンション建設など土地や建物の取引に関連して、対象となる土地や周辺の地域に同和地区があるかないかなどを調べたり報告したりすること)を実施すること	その他	特に起きているとは思わない	わからない	無回答
全体	1,378	38.0	5.2	5.4	15.1	61.9	37.3	14.2	19.4	2.0	9.6	6.0	2.8
性別	男性	548	39.4	7.1	6.2	15.3	58.0	37.8	14.6	19.2	2.7	6.2	2.2
	女性	792	36.9	3.7	4.9	14.9	65.0	37.5	14.1	19.9	1.5	5.7	2.8
年齢別	20～29歳	95	45.3	7.4	16.8	24.2	43.2	18.9	16.8	15.8	1.1	13.7	1.1
	30～39歳	166	47.0	8.4	7.8	16.3	54.2	36.1	16.9	21.7	2.4	4.8	1.2
	40～49歳	190	38.9	6.8	10.0	14.2	56.3	36.8	16.3	15.3	1.6	6.3	3.2
	50～59歳	241	37.8	4.1	3.3	17.8	61.8	37.8	10.8	17.0	2.9	3.7	2.5
	60～69歳	342	33.9	4.7	3.2	13.2	70.8	46.5	12.3	19.0	1.8	5.3	1.8
	70歳以上	308	35.1	2.9	2.3	12.0	66.9	34.7	15.9	25.3	1.9	8.4	3.6
職業別	農林漁業	61	45.9	4.9	1.6	16.4	68.9	44.3	11.5	8.2	3.3	1.6	1.6
	商工業、サービス業、自由業など	185	41.6	4.3	3.8	15.7	64.9	37.8	12.4	23.2	1.1	4.3	3.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	529	40.5	6.6	8.5	15.7	60.1	38.4	14.4	18.0	2.3	4.9	2.1
	主婦・主夫	326	33.4	3.1	3.1	13.2	66.0	37.1	15.3	22.1	0.6	6.1	2.5
	無職	233	33.5	4.7	4.3	14.2	57.9	34.8	14.6	20.2	3.9	9.9	3.0
圏域別	高松圏域	646	36.5	4.6	6.0	15.9	61.9	39.9	13.6	22.6	1.2	5.6	2.8
	東讃圏域	133	45.1	5.3	8.3	15.8	66.2	39.1	12.0	14.3	2.3	5.3	3.0
	小豆圏域	37	51.4	0.0	5.4	13.5	73.0	18.9	24.3	13.5	0.0	5.4	5.4
	中讃圏域	372	36.8	4.8	3.2	15.3	56.2	33.9	14.2	19.1	3.5	7.3	3.2
	西讃圏域	190	37.4	8.4	5.8	11.6	67.9	37.4	15.3	13.7	1.6	5.3	1.1
居住年数別	3年未満	86	40.7	2.3	9.3	17.4	59.3	26.7	18.6	19.8	1.2	7.0	2.3
	3年以上～10年未満	209	41.6	7.2	6.2	13.9	54.5	34.0	14.8	23.0	1.4	4.8	2.9
	10年以上～20年未満	207	35.7	5.8	8.7	16.9	62.3	35.3	15.5	16.9	1.9	4.8	2.4
	20年以上	842	37.3	4.8	4.2	14.6	64.4	40.1	13.4	19.5	2.3	6.3	2.4

(12) 同和問題を解決するために必要と思われること

<問7で「1」と答えた方にお聞きします>

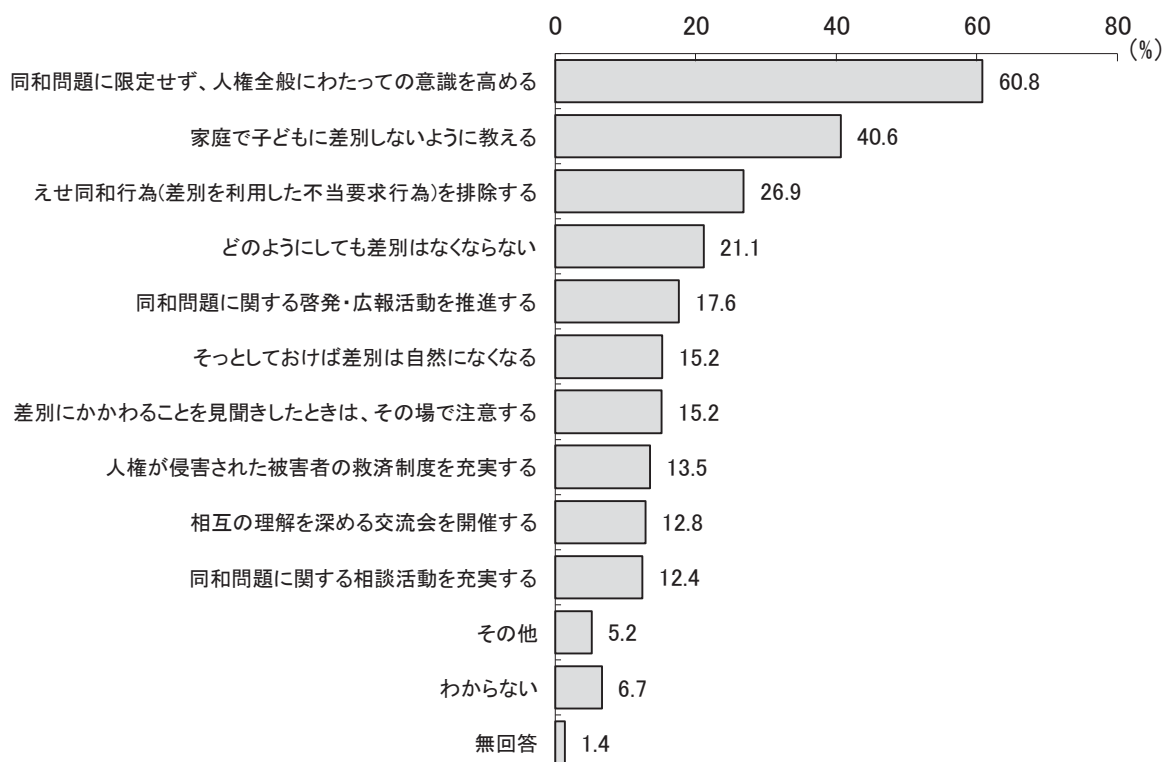
付問3 同和問題を解決するために必要と思われることは何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,378]

1 同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める	60.8%
2 同和問題に関する啓発・広報活動を推進する	17.6%
3 同和問題に関する相談活動を充実する	12.4%
4 人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	13.5%
5 相互の理解を深める交流会を開催する	12.8%
6 家庭で子どもに差別しないように教える	40.6%
7 差別にかかわることを見聞きしたときは、その場で注意する	15.2%
8 えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	26.9%
9 そっとしておけば差別は自然になくなる	15.2%
10 どのようにしても差別はなくなる	21.1%
11 その他(具体的に:)	5.2%
12 わからない	6.7%
(無回答)	1.4%

同和問題を解決するために必要と思われることについては、「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が60.8%と6割を超え最も高く、次いで「家庭で子どもに差別しないように教える」が40.6%、「えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する」が26.9%などとなっている。

< 同和問題を解決するために必要と思われること >



性別にみると、男女とも「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が最も高く、その比率は『男性』が58.0%、『女性』が62.6%となっている。これに、男女とも「家庭で子どもに差別しないように教える」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が半数を超え最も高く、特に『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では6割を超えている。これに、いずれも「家庭で子どもに差別しないように教える」が続いている。

職業別にみると、いずれも「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が最も高く、特に『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では6割を超えている。これに、いずれも「家庭で子どもに差別しないように教える」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が最も高く、特に『高松圏域』を除く全ての圏域で6割を超えている。これに、いずれも「家庭で子どもに差別しないように教える」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「同和問題に限定せず、人権全般にわたっての意識を高める」が最も高く、特に『10年以上～20年未満』、『20年以上』では6割を超えている。これに、いずれも「家庭で子どもに差別しないように教える」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
同和問題を解決するために必要と思われること

(単位:%)

区分	回答者数(人)	同和問題にわたっての意識を高める	同和問題に関する啓発・広報活動を推進する	同和問題に関する相談活動を充実する	同和問題に関する相談活動を充実する	人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	相互の理解を深める交流会を開催する	家庭で子どもに差別しないように教える	差別にかかわることを見聞きしたときは、その場で注意する	えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	そつとしておけば差別は自然になくなる	どのようなにしても差別はなくなる	その他	わからない	無回答
全体	1,378	60.8	17.6	12.4	13.5	12.8	40.6	15.2	26.9	15.2	21.1	5.2	6.7	1.4	
性別	男性	548	58.0	18.6	11.1	12.2	10.0	36.7	12.4	36.3	16.1	19.9	6.9	5.8	1.3
	女性	792	62.6	16.7	13.0	14.5	14.5	43.3	16.8	20.6	15.0	22.1	3.9	7.1	1.3
年齢別	20～29歳	95	51.6	15.8	10.5	10.5	11.6	31.6	9.5	24.2	15.8	17.9	6.3	6.3	1.1
	30～39歳	166	54.2	16.3	16.9	11.4	16.9	45.2	12.0	24.1	6.6	28.9	8.4	6.0	0.0
	40～49歳	190	63.7	16.8	12.6	11.1	10.5	40.0	11.1	27.9	6.3	22.6	5.8	5.8	0.5
	50～59歳	241	66.4	17.8	14.1	13.3	7.1	38.2	13.3	36.1	12.4	22.4	5.8	5.8	0.4
	60～69歳	342	61.1	17.0	8.8	16.1	11.7	38.3	14.9	27.8	20.5	22.2	4.1	6.1	0.9
	70歳以上	308	60.7	18.8	12.7	14.6	17.5	45.5	22.4	21.1	22.4	15.3	3.2	9.1	3.6
職業別	農林漁業	61	67.2	13.1	9.8	14.8	16.4	44.3	14.8	24.6	23.0	14.8	9.8	8.2	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	185	58.9	16.2	11.4	16.8	8.6	39.5	14.6	31.4	17.3	25.9	5.9	5.4	0.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	529	62.0	17.4	14.4	12.3	13.0	39.5	12.3	31.9	10.4	22.1	5.9	5.9	0.6
	主婦・主夫	326	64.1	16.6	11.0	14.1	14.1	44.8	18.1	18.7	19.6	19.6	3.1	5.2	1.5
	無職	233	54.1	20.6	10.7	12.9	12.4	37.8	16.7	24.0	16.7	20.2	4.3	10.7	3.4
圏域別	高松圏域	646	58.7	19.2	12.2	14.4	12.7	42.6	13.6	27.6	12.5	23.1	5.3	6.8	1.2
	東讃圏域	133	62.4	19.5	14.3	10.5	16.5	35.3	17.3	23.3	20.3	14.3	3.0	8.3	1.5
	小豆圏域	37	67.6	16.2	16.2	5.4	16.2	40.5	21.6	21.6	10.8	24.3	10.8	5.4	2.7
	中讃圏域	372	62.9	17.2	12.1	14.8	11.8	38.7	15.6	26.6	16.1	20.4	5.4	5.9	1.9
	西讃圏域	190	61.6	12.1	11.6	11.6	12.1	41.6	16.8	28.4	20.0	20.0	5.3	6.8	0.5
居住年数別	3年未満	86	48.8	24.4	12.8	14.0	11.6	29.1	11.6	25.6	10.5	29.1	8.1	5.8	1.2
	3年以上～10年未満	209	59.8	12.4	12.9	10.0	10.5	45.9	13.9	28.7	7.2	25.8	6.7	6.7	0.5
	10年以上～20年未満	207	61.8	15.0	10.6	10.6	10.6	40.6	15.0	30.0	14.5	20.8	4.3	9.7	1.4
	20年以上	842	62.1	18.5	12.6	15.1	13.8	40.5	15.7	26.0	18.2	19.4	4.6	6.1	1.4

(13) 過去1年間で、人権にかかわる啓発を見聞きしたり参加したことがあるか

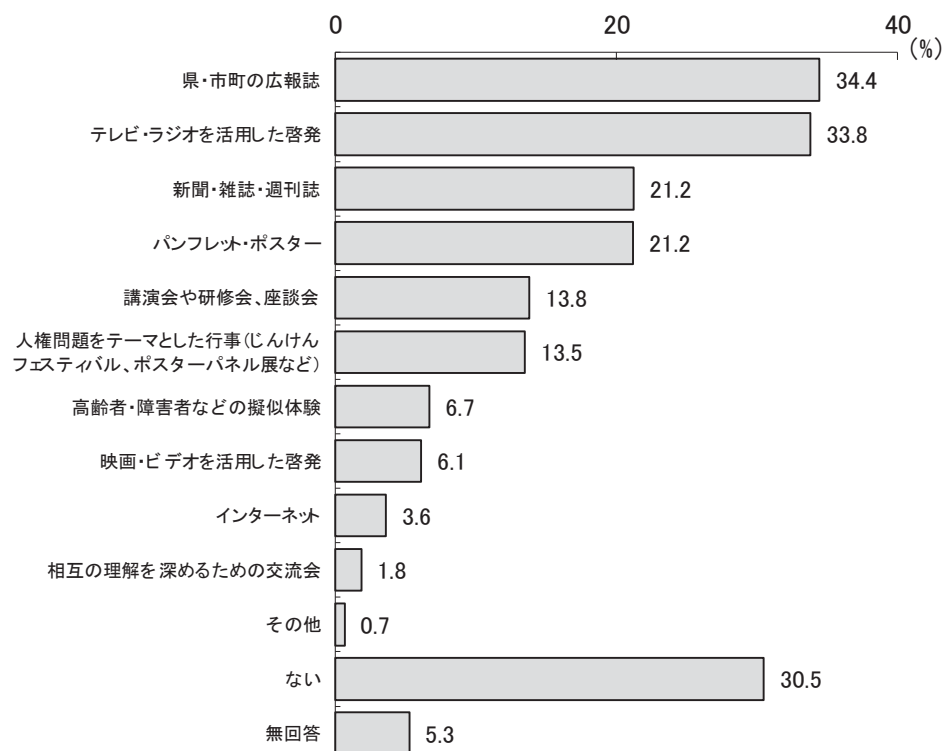
問8 あなたは、過去1年間で、人権にかかわる啓発を見聞きしたり参加したことがありますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,522]

1	テレビ・ラジオを活用した啓発	33.8%
2	県・市町の広報誌	34.4%
3	新聞・雑誌・週刊誌	21.2%
4	映画・ビデオを活用した啓発	6.1%
5	パンフレット・ポスター	21.2%
6	インターネット	3.6%
7	講演会や研修会、座談会	13.8%
8	人権問題をテーマとした行事 (じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	13.5%
9	高齢者・障害者などの擬似体験	6.7%
10	相互の理解を深めるための交流会	1.8%
11	その他(具体的に：)	0.7%
12	ない	30.5%
	(無回答)	5.3%

過去1年間で、人権にかかわる啓発を見聞きしたり参加したことがあるかについては、「県・市町の広報誌」が34.4%と3割を超え最も高く、次いで「テレビ・ラジオを活用した啓発」が33.8%、「新聞・雑誌・週刊誌」、「パンフレット・ポスター」が21.2%などとなっている。一方、30.5%と3割の人が、人権にかかわる啓発を見聞きしたり参加したことが「ない」と回答している。

〈 過去1年間で、人権にかかわる啓発を見聞きしたり参加したことがあるか 〉



性別にみると、男女とも「県・市町の広報誌」が最も高く、その比率は『男性』が36.5%、『女性』が33.6%となっている。これに、男女とも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』では「ない」が最も高く、これに「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。また、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに、『30～39歳』では「ない」が、『40～49歳』、『50～59歳』では「県・市町の広報誌」が続いている。一方、『60～69歳』、『70歳以上』では「県・市町の広報誌」が最も高く、これに、『60～69歳』では「ない」が、『70歳以上』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに、いずれも「県・市町の広報誌」が続いている。一方、『主婦・主夫』、『無職』では「県・市町の広報誌」が最も高く、これに「ない」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに「県・市町の広報誌」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「県・市町の広報誌」が最も高く、これに、『東讃圏域』では「ない」が、『小豆圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「ない」が最も高く、これに「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。また、『10年以上～20年未満』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに「県・市町の広報誌」が続いている。一方、『20年以上』では「県・市町の広報誌」が最も高く、これに「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
過去1年間で、人権にかかわる啓発を見聞きしたり参加したことがあるか

(単位:%)

区分	回答者数(人)	テレビ・ラジオを活用した啓発	県・市町の広報誌	新聞・雑誌・週刊誌	映画・ビデオを活用した啓発	パンフレット・ポスター	インターネット	講演会や研修会、座談会	人権問題をテーマとした行事(じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	高齢者・障害者などの疑似体験	相互の理解を深めるための交流会	その他	ない	無回答	
全体	1,522	33.8	34.4	21.2	6.1	21.2	3.6	13.8	13.5	6.7	1.8	0.7	30.5	5.3	
性別	男性	616	35.4	36.5	22.6	4.9	21.9	4.4	14.6	10.6	6.8	2.1	0.5	30.7	4.4
	女性	858	33.2	33.6	20.9	7.2	20.9	3.0	13.4	15.9	6.9	1.7	0.8	30.4	5.2
年齢別	20～29歳	104	33.7	12.5	11.5	4.8	20.2	10.6	8.7	8.7	9.6	0.0	1.0	48.1	2.9
	30～39歳	184	35.9	20.1	17.4	2.2	22.3	6.5	10.3	14.1	7.1	0.5	1.1	32.6	1.1
	40～49歳	201	32.8	32.3	15.9	8.0	23.9	6.5	19.9	25.4	9.0	2.0	0.5	30.3	1.0
	50～59歳	254	42.9	41.3	24.8	8.7	29.5	3.5	16.5	14.6	5.1	2.4	1.2	24.8	2.8
	60～69歳	373	30.0	41.6	22.0	6.7	20.6	1.3	12.6	12.9	5.6	1.6	0.3	31.9	4.0
	70歳以上	360	32.8	38.9	27.2	5.8	15.0	0.8	13.3	8.3	7.2	3.1	0.6	26.4	11.7
職業別	農林漁業	77	40.3	39.0	24.7	3.9	20.8	0.0	14.3	10.4	6.5	0.0	1.3	24.7	6.5
	商工業、サービス業、自由業など	198	41.4	32.8	19.7	7.6	20.7	7.1	13.1	15.2	6.6	2.0	0.0	26.3	4.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	35.9	34.5	22.1	7.5	27.1	4.1	17.3	17.0	6.3	1.8	0.7	29.5	2.0
	主婦・主夫	356	31.2	35.7	20.8	5.9	17.1	2.8	12.1	12.9	6.2	2.0	0.3	31.7	6.2
	無職	271	28.0	36.2	22.9	4.1	15.9	2.2	10.3	7.7	8.9	2.6	1.5	34.7	8.9
圏域別	高松圏域	710	34.1	31.0	21.3	7.0	21.5	5.2	11.3	13.8	8.7	1.7	0.8	30.7	4.9
	東讃圏域	150	29.3	36.7	15.3	4.7	18.0	1.3	12.0	14.7	6.0	4.0	1.3	34.0	6.7
	小豆圏域	41	29.3	41.5	19.5	7.3	26.8	2.4	22.0	24.4	4.9	0.0	0.0	24.4	7.3
	中讃圏域	407	34.2	36.4	21.4	5.2	21.4	2.5	16.5	13.3	5.2	1.5	0.2	30.7	5.4
	西讃圏域	214	36.0	39.3	25.2	5.6	20.6	2.3	16.8	9.8	3.7	1.9	0.5	28.0	4.7
居住年数別	3年未満	98	29.6	28.6	20.4	2.0	20.4	9.2	6.1	13.3	4.1	1.0	2.0	38.8	4.1
	3年以上～10年未満	220	30.0	25.0	15.0	5.5	24.1	3.2	10.9	16.8	9.1	0.0	0.5	35.0	1.8
	10年以上～20年未満	225	40.0	32.4	24.4	7.6	23.1	4.9	16.0	16.4	5.8	1.3	0.0	29.8	3.1
	20年以上	935	34.3	38.4	22.6	6.6	20.4	2.8	14.9	12.2	6.8	2.6	0.7	28.7	6.0

(14) 人権にかかわる啓発を見聞きなどして、どのような印象や感想をもったか

＜問8で「1」から「11」と答えた方にお聞きします＞

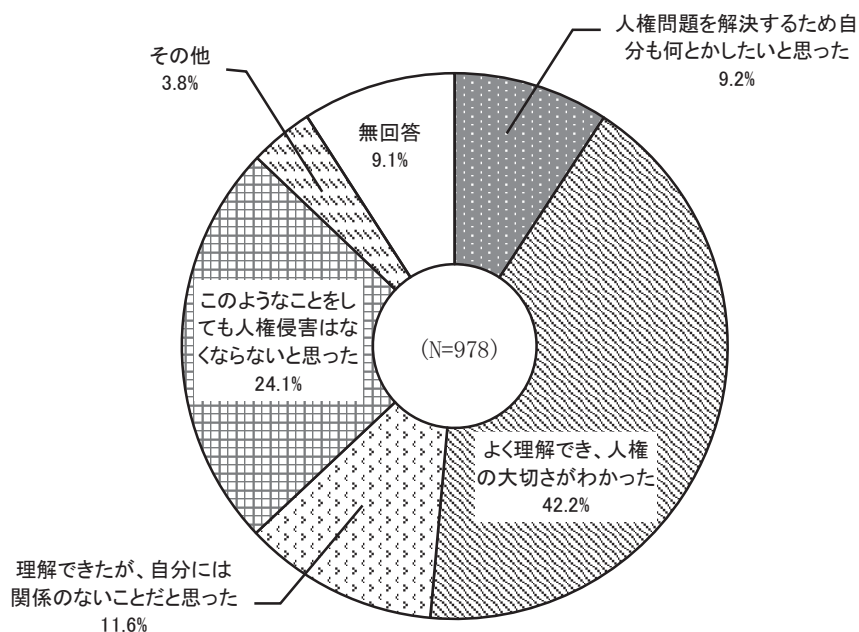
付問1 人権にかかわる啓発を見聞きなどして、どのような印象や感想をもちましたか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=978〕

1 人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った	9.2%
2 よく理解でき、人権の大切さがわかった	42.2%
3 理解できたが、自分には関係のないことだと思った	11.6%
4 このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った	24.1%
5 その他（具体的に： （無回答）	3.8% 9.1%

人権にかかわる啓発を見聞きなどして、どのような印象や感想をもったかについては、「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が42.2%と4割を超え最も高く、次いで「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が24.1%、「理解できたが、自分には関係のないことだと思った」が11.6%、「人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った」が9.2%などとなっている。

＜ 人権にかかわる啓発を見聞きなどして、どのような印象や感想をもったか ＞



性別にみると、男女とも「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が最も高く、その比率は『男性』が42.3%、『女性』が42.9%となっている。これに、男女とも「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が2割台で続いている。

年齢別にみると、いずれも「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が最も高く、特に『60～69歳』を除く全ての年齢で4割を超えている。また、『50～59歳』では「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が3割近くになっている。さらに、『20～29歳』、『40～49歳』では「人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った」が「理解できたが、自分には関係のないことだと思った」を上回っている。

職業別にみると、いずれも「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が最も高く、特に『商工業、サービス業、自由業など』を除く全ての職業で4割を超えている。これに、いずれも「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が続いている。

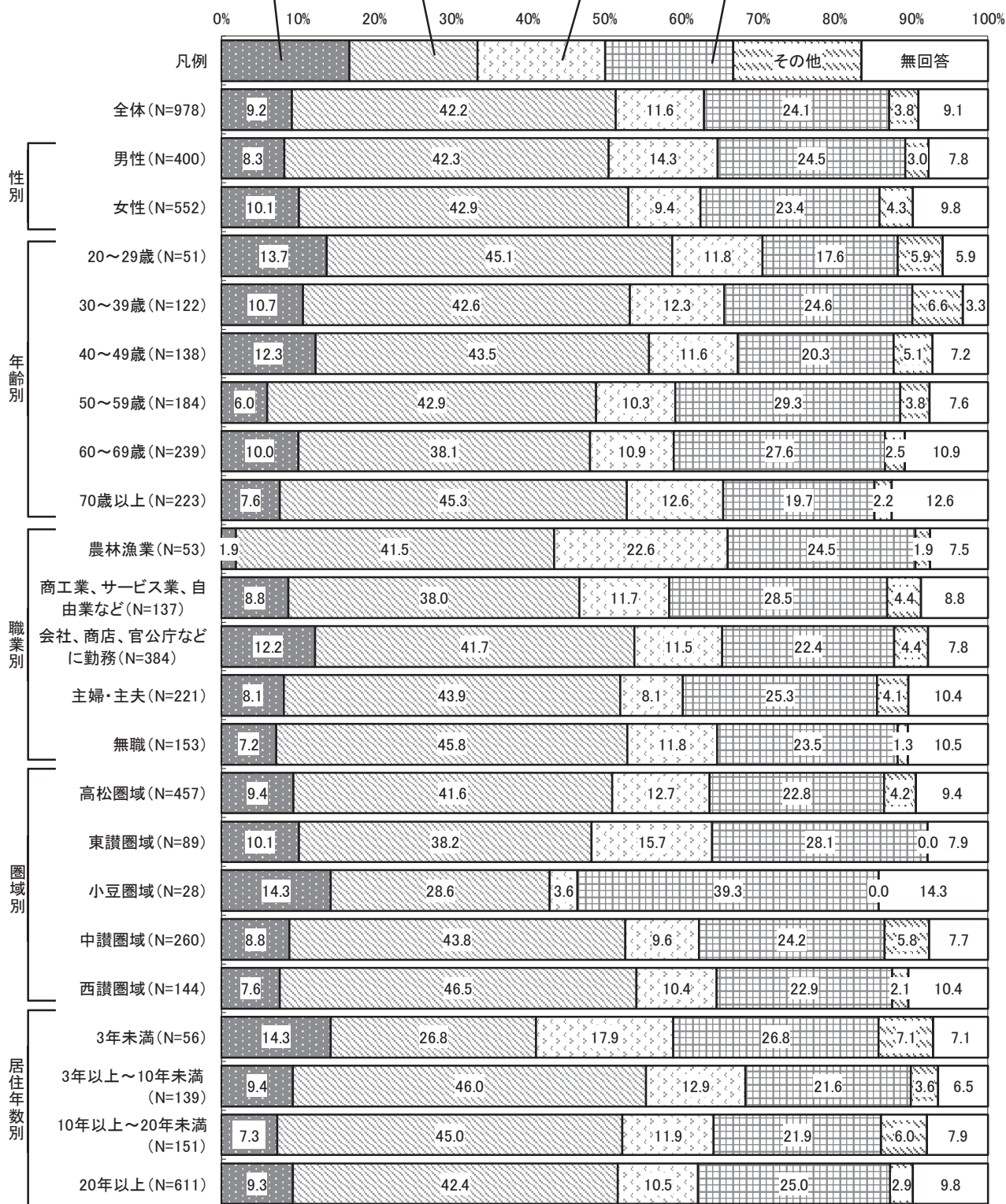
圏域別にみると、『小豆圏域』を除いて「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が最も高く、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では4割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が最も高くなっており、これに、いずれも「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

人権にかかわる啓発を見聞きなどして、どのような印象や感想をもったか

人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った
 よく理解でき、人権の大切さがわかった
 理解できたが、自分には関係のないことだと思った
 このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った



(15) 人権啓発を推進するために、どのような啓発広報活動が効果的であると思うか

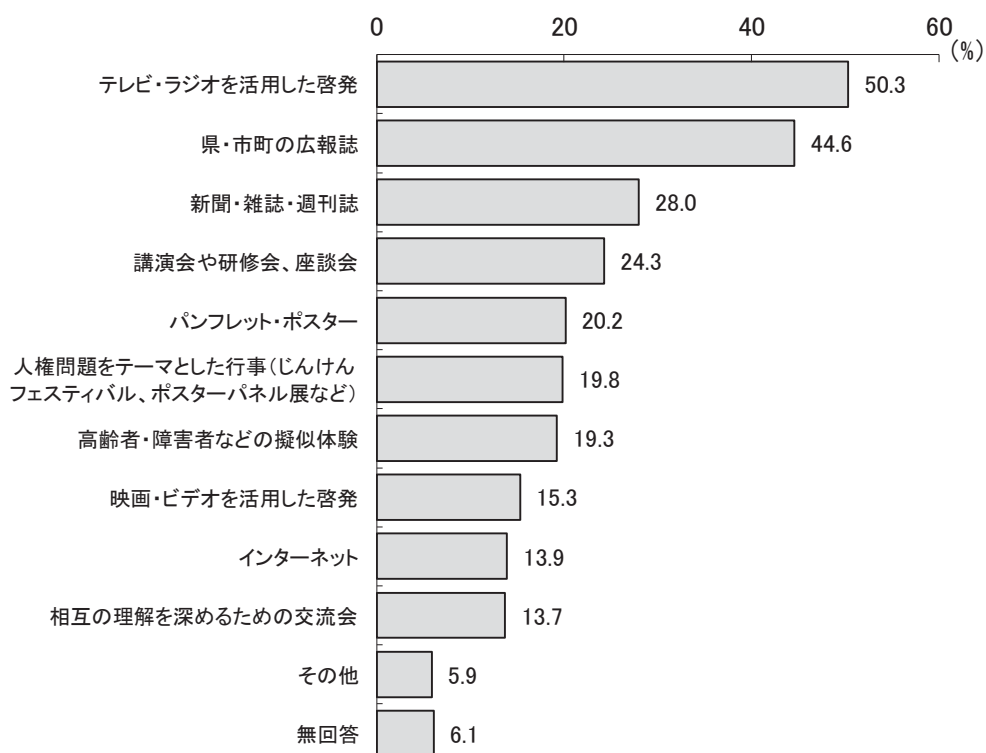
問9 あなたは、人権啓発を推進するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的であると思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,522]

1	テレビ・ラジオを活用した啓発	50.3%
2	県・市町の広報誌	44.6%
3	新聞・雑誌・週刊誌	28.0%
4	映画・ビデオを活用した啓発	15.3%
5	パンフレット・ポスター	20.2%
6	インターネット	13.9%
7	講演会や研修会、座談会	24.3%
8	人権問題をテーマとした行事 (じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	19.8%
9	高齢者・障害者などの擬似体験	19.3%
10	相互の理解を深めるための交流会	13.7%
11	その他(具体的に： (無回答)	5.9% 6.1%

人権啓発を推進するために、どのような啓発広報活動が効果的であると思うかについては、「テレビ・ラジオを活用した啓発」が50.3%と半数を超え最も高く、次いで「県・市町の広報誌」が44.6%、「新聞・雑誌・週刊誌」が28.0%、「講演会や研修会、座談会」が24.3%、「パンフレット・ポスター」が20.2%などとなっている。

< 人権啓発を推進するために、どのような啓発広報活動が効果的であると思うか >



性別にみると、男女とも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が51.1%、『女性』が50.2%となっている。これに、男女とも「県・市町の広報誌」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに『20～29歳』では「インターネット」が、『30～39歳』では「新聞・雑誌・週刊誌」が、『40～49歳』、『50～59歳』では「県・市町の広報誌」が続いている。一方、『60～69歳』、『70歳以上』では「県・市町の広報誌」が最も高く、これに「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「県・市町の広報誌」が最も高く、これに「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。一方、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに「県・市町の広報誌」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、これに「県・市町の広報誌」が続いている。一方、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「県・市町の広報誌」が最も高く、これに「テレビ・ラジオを活用した啓発」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、特に『3年以上～10年未満』、『20年以上』では半数を超えている。これに、いずれも「県・市町の広報誌」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
人権啓発を推進するために、どのような啓発広報活動が効果的であると思うか

(単位:%)

区分		回答者数(人)	テレビ・ラジオを活用した啓発	県・市町の広報誌	新聞・雑誌・週刊誌	映画・ビデオを活用した啓発	パンフレット・ポスター	インターネット	講演会や研修会、座談会	人権問題をテーマとした行事(じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	高齢者・障害者などの疑似体験	相互の理解を深めるための交流会	その他	無回答
全体		1,522	50.3	44.6	28.0	15.3	20.2	13.9	24.3	19.8	19.3	13.7	5.9	6.1
性別	男性	616	51.1	44.2	25.2	12.7	19.0	16.4	20.6	16.6	16.6	12.7	8.1	4.7
	女性	858	50.2	45.1	30.0	17.4	20.9	12.5	27.6	22.1	21.6	14.9	4.3	6.3
年齢別	20～29歳	104	54.8	24.0	26.0	23.1	25.0	30.8	26.9	26.9	23.1	16.3	5.8	2.9
	30～39歳	184	48.4	27.2	27.7	14.1	16.3	20.7	21.7	20.7	20.7	13.0	8.7	2.7
	40～49歳	201	54.2	30.3	27.9	17.9	18.9	21.9	29.4	25.4	23.9	17.4	7.5	2.0
	50～59歳	254	54.3	45.3	28.7	20.1	20.1	16.5	22.0	20.9	22.4	12.2	6.7	6.3
	60～69歳	373	48.0	50.7	25.2	11.3	21.2	9.1	23.1	18.5	17.4	12.1	4.8	7.0
	70歳以上	360	48.3	61.1	31.4	13.6	20.0	5.0	26.4	14.7	15.3	15.0	4.4	8.1
職業別	農林漁業	77	50.6	59.7	27.3	10.4	22.1	3.9	22.1	14.3	18.2	18.2	3.9	7.8
	商工業、サービス業、自由業など	198	49.5	37.9	23.2	11.6	21.7	20.2	28.8	19.2	17.2	16.2	5.1	7.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	54.3	37.5	27.0	17.7	18.9	18.8	22.3	22.0	20.9	13.9	6.8	3.2
	主婦・主夫	356	49.2	50.8	32.6	17.1	23.0	9.8	27.5	22.5	20.8	14.0	5.3	5.6
	無職	271	46.1	52.4	27.7	12.2	17.0	8.1	24.7	13.7	16.6	11.1	5.9	7.4
圏域別	高松圏域	710	54.2	43.5	30.6	16.1	19.7	15.6	22.8	21.1	21.7	12.7	6.3	4.5
	東讃圏域	150	42.7	36.0	24.0	14.7	18.0	9.3	29.3	24.0	17.3	16.0	4.0	12.7
	小豆圏域	41	41.5	48.8	22.0	19.5	22.0	7.3	26.8	36.6	9.8	9.8	2.4	12.2
	中讃圏域	407	49.4	49.6	27.5	14.7	20.9	14.5	22.4	16.7	17.9	15.7	6.9	5.9
	西讃圏域	214	46.3	43.9	24.3	13.6	21.5	11.7	29.0	15.4	16.8	12.6	4.7	6.1
居住年数別	3年未満	98	49.0	36.7	26.5	13.3	18.4	27.6	25.5	22.4	29.6	19.4	11.2	1.0
	3年以上～10年未満	220	52.3	33.6	27.7	17.7	23.6	18.6	22.3	20.9	23.6	13.2	8.2	0.9
	10年以上～20年未満	225	48.9	40.0	24.9	13.3	16.4	12.9	24.4	21.8	19.1	11.6	5.3	6.7
	20年以上	935	50.8	49.2	29.0	15.7	20.3	11.9	25.2	18.7	17.4	14.1	5.0	7.0

2 障害者福祉について

(1) 障害者に対する福祉についてどの程度関心があるか

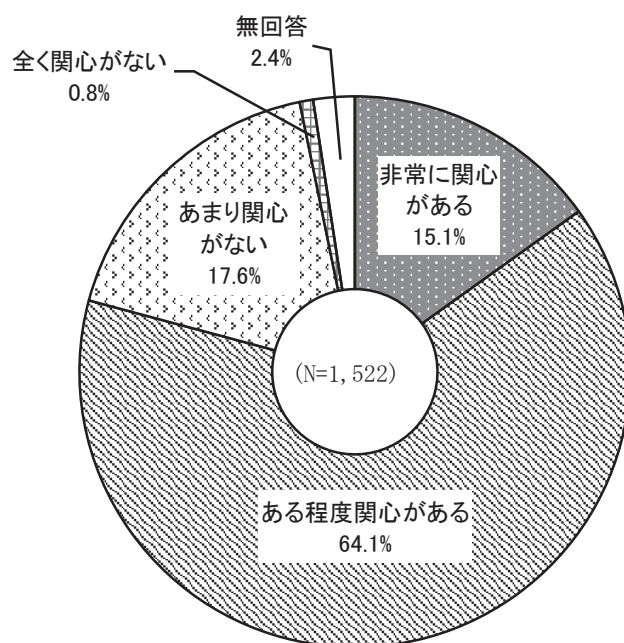
問 10 あなたは、障害者に対する福祉についてどの程度ご関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,522]

1 非常に関心がある	15.1%
2 ある程度関心がある	64.1%
3 あまり関心がない	17.6%
4 全く関心がない	0.8%
(無回答)	2.4%

障害者に対する福祉についてどの程度関心があるかについては、「ある程度関心がある」が64.1%と6割を超え最も高く、これに「非常に関心がある」の15.1%を合わせた【関心がある】は79.2%と8割近くを占める。一方、「全く関心がない」は0.8%で、これに「あまり関心がない」の17.6%を合わせた【関心がない】は18.4%と2割未満となっている。

〈 障害者に対する福祉についてどの程度関心があるか 〉



性別にみると、男女とも「ある程度関心がある」が最も高く、その比率は『男性』が60.4%、『女性』が67.0%となっている。また、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた【関心がある】が、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた【関心がない】を上回っている。

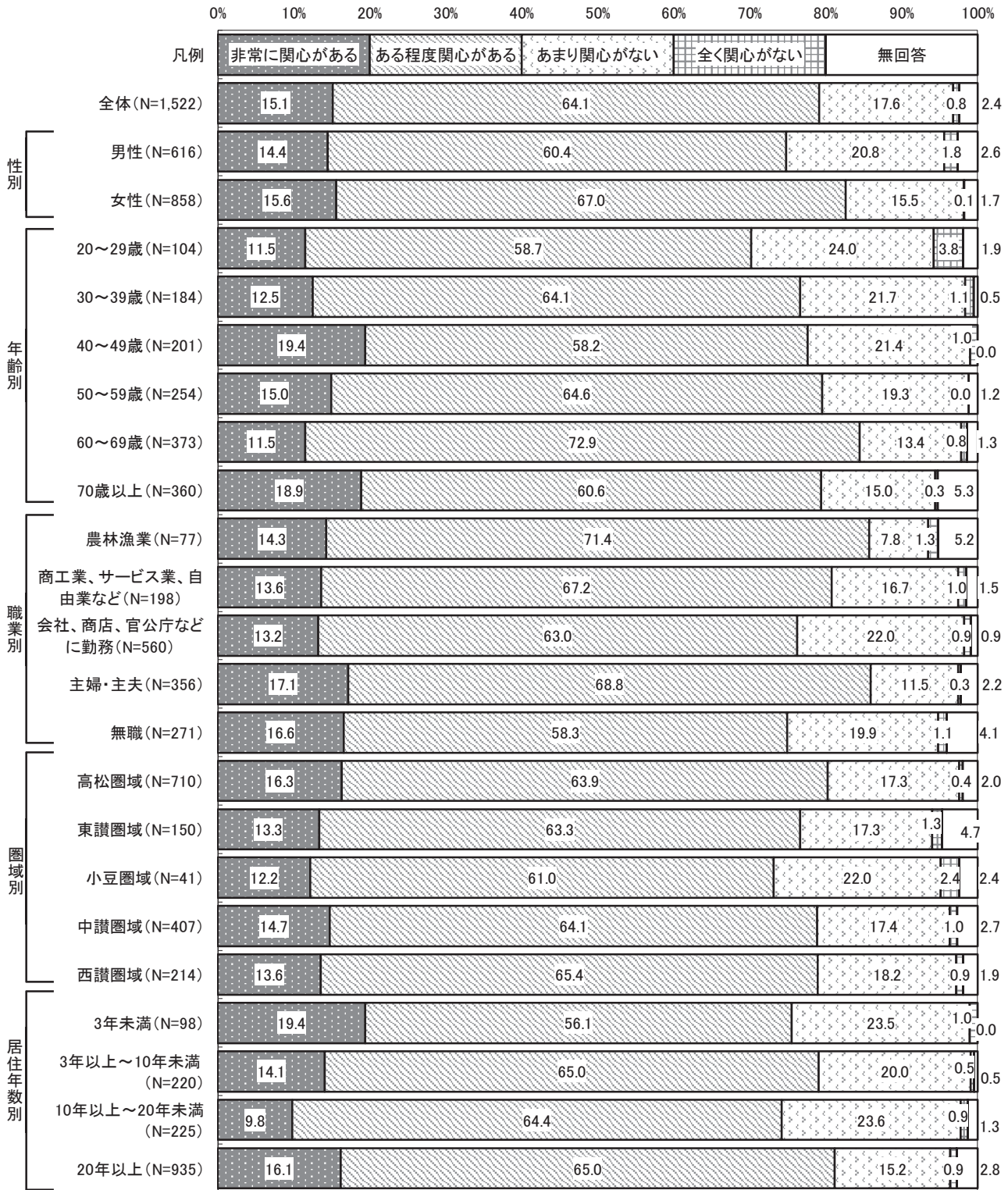
年齢別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も高く、特に『60～69歳』では7割を超えている。また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も高く、特に『農林漁業』では7割を超えている。また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が6割を超え最も高まっている。また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も高く、特に『3年未満』を除く全ての居住年数で6割を超えている。また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 障害者に対する福祉についてどの程度関心があるか



(2) 障害者に対する福祉に関心が持てない理由

<問10で「3」または「4」と答えた方にお聞きします>

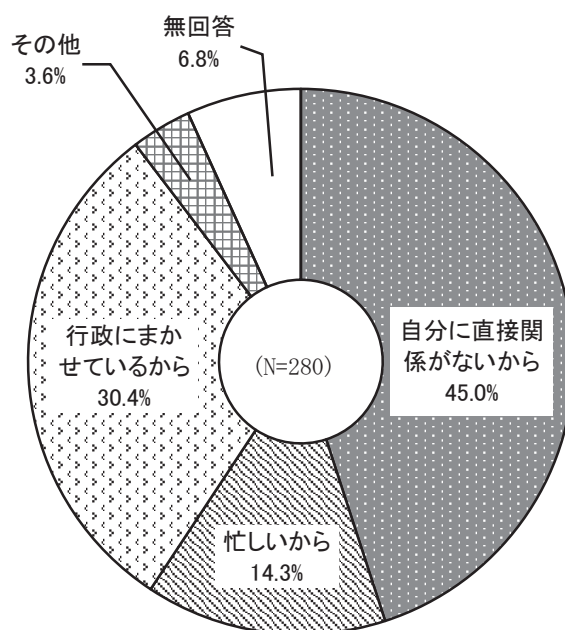
付問1 障害者に対する福祉に関心が持てない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=280]

1 自分に直接関係がないから	45.0%
2 忙しいから	14.3%
3 行政にまかせているから	30.4%
4 その他（具体的に： （無回答）	3.6% 6.8%

障害者に対する福祉に関心が持てない理由については、「自分に直接関係がないから」が45.0%と4割を超え最も高く、次いで「行政にまかせているから」が30.4%、「忙しいから」が14.3%となっている。

< 障害者に対する福祉に関心が持てない理由 >



性別にみると、男女とも「自分に直接関係がないから」が最も高く、その比率は『男性』が41.7%、『女性』が48.5%となっている。これに、男女とも「行政にまかせているから」が続いている。

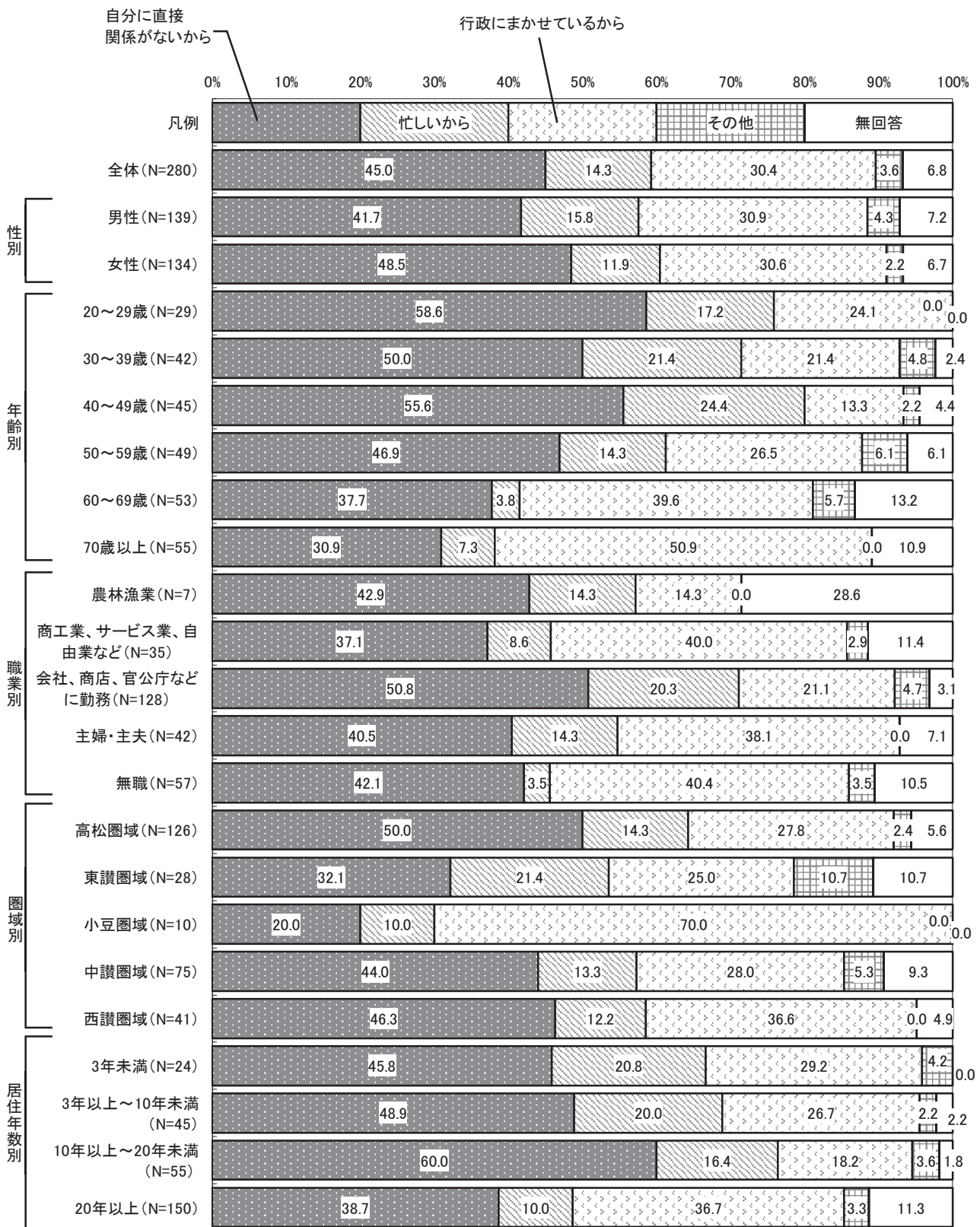
年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』では「行政にまかせているから」が最も高く、これに「自分に直接関係がないから」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「自分に直接関係がないから」が最も高く、これに、いずれも「行政にまかせているから」が続いている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「行政にまかせているから」が最も高く、これに「自分に直接関係がないから」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「自分に直接関係がないから」が最も高く、これに、いずれも「行政にまかせているから」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「行政にまかせているから」が7割と最も高く、これに「自分に直接関係がないから」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「自分に直接関係がないから」が最も高く、これに、いずれも「行政にまかせているから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「自分に直接関係がないから」が最も高く、特に『10年以上～20年未満』では6割を占める。これに、いずれも「行政にまかせているから」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 障害者に対する福祉に関心がない理由



(3) 障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指す考え方について

問 11 障害者総合支援法では、障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指すことが大きなテーマのひとつになっています。

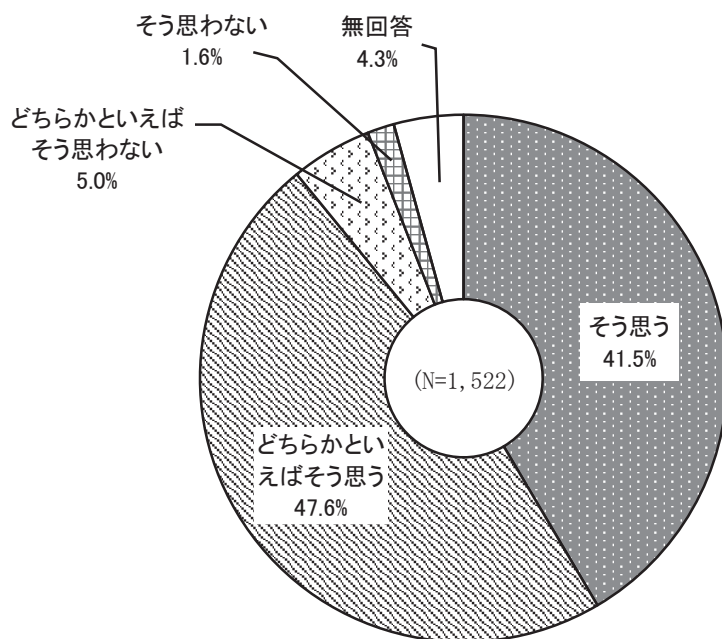
具体的には、障害のある方が入所施設などを利用し続けるのではなく、できる限りグループホームなど地域の中で福祉サービスを利用しながら生活できるようにすることをめざすものですが、このような考え方についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,522〕

1 そう思う	41.5%
2 どちらかといえばそう思う	47.6%
3 どちらかといえばそう思わない	5.0%
4 そう思わない	1.6%
(無回答)	4.3%

障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指す考え方については、「どちらかといえばそう思う」が47.6%と半数近くを占め最も高く、これに「そう思う」の41.5%を合わせた【そう思う】は89.1%と9割近くを占める。一方、「そう思わない」は1.6%で、これに「どちらかといえばそう思わない」の5.0%を合わせた【そう思わない】は6.6%となっている。

< 障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指す考え方について >



性別にみると、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最も高く、その比率は『男性』が48.2%、『女性』が48.1%となっている。また、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】が、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた【そう思わない】を上回っている。

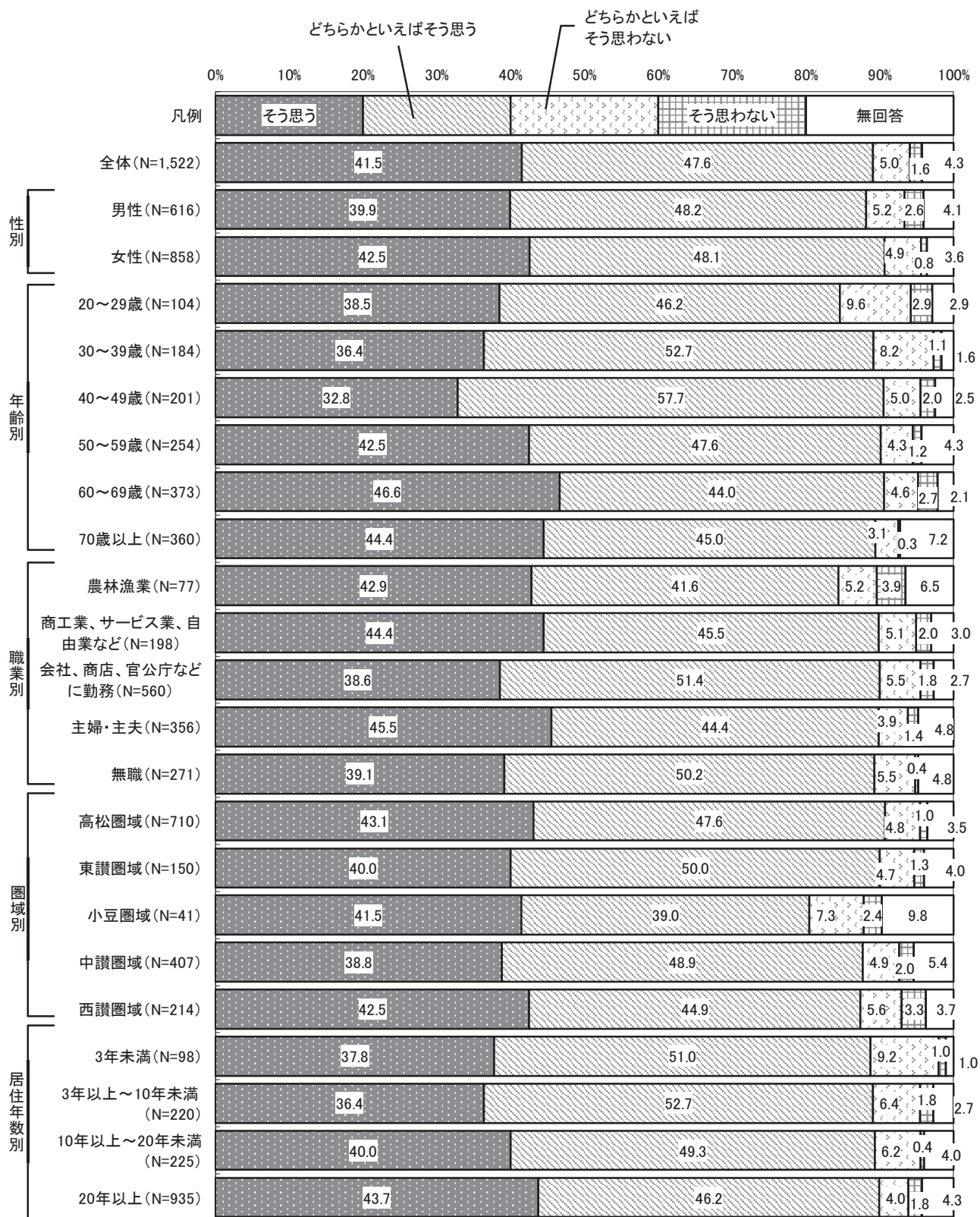
年齢別にみると、『60～69歳』では「そう思う」が最も高くなっており、その他の年齢では、いずれも「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「そう思う」が最も高くなっており、その他の職業では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「そう思う」が最も高くなっており、その他の圏域では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらかといえばそう思う」が最も高く、特に『3年未満』、『3年以上～10年未満』では半数を超えている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指す考え方について



(4) 障害のある方が地域で生活していくためには何が必要か

<問 11 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします>

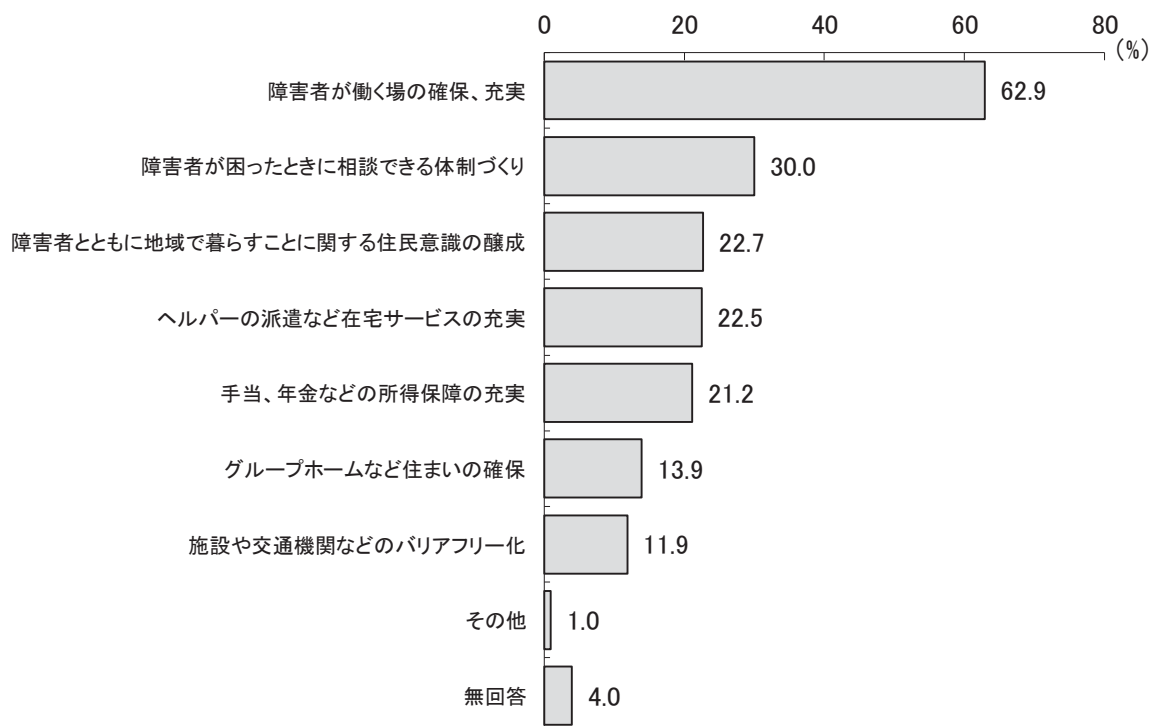
付問 1 障害のある方が地域で生活していくためには何が必要だと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

[回答者数=1,356]

1 障害者が働く場の確保、充実	62.9%
2 手当、年金などの所得保障の充実	21.2%
3 ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実	22.5%
4 障害者が困ったときに相談できる体制づくり	30.0%
5 障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成	22.7%
6 施設や交通機関などのバリアフリー化	11.9%
7 グループホームなど住まいの確保	13.9%
8 その他（具体的に：)	1.0%
(無回答)	4.0%

障害のある方が地域で生活していくためには何が必要かについては、「障害者が働く場の確保、充実」が62.9%と6割を超え最も高く、次いで「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が30.0%、「障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」は22.7%などとなっている。

< 障害のある方が地域で生活していくためには何が必要か >



性別にみると、男女とも「障害者が働く場の確保、充実」が最も高く、その比率は『男性』が65.9%、『女性』が60.7%となっている。これに、男女とも「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「障害者が働く場の確保、充実」が最も高く、特に『70歳以上』を除く全ての年齢で6割を超えている。これに『20～29歳』では「施設や交通機関などのバリアフリー化」が、『30～39歳』では「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」が、『40～49歳』では「障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」が、『50～59歳』では、「障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」と「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が、『60～69歳』、『70歳以上』では「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が続いている。

職業別にみると、いずれも「障害者が働く場の確保、充実」が最も高く、特に『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では6割を超えている。これに、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」が、その他の職業別では「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「障害者が働く場の確保、充実」が最も高く、特に『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では6割を超えている。これに、『東讃圏域』では「手当、年金などの所得保障の充実」、「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」が、その他の圏域では「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「障害者が働く場の確保、充実」が最も高く、特に『10年以上～20年未満』を除く全ての居住年数で6割を超えている。これに『3年以上～10年未満』では「障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」が、その他の居住年数では「障害者が困ったときに相談できる体制づくり」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
障害のある方が地域で生活していくためには何が必要か

(単位:%)

区分		回答者数(人)	障害者が働く場の確保、充実	手当、年金などの所得保障の充実	ヘルパーの派遣など在宅サービスの実	障害者が困ったときに相談できる体制づくり	障害者とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成	施設や交通機関などのバリアフリー化	グループホームなど住まいの確保	その他	無回答
全体		1,356	62.9	21.2	22.5	30.0	22.7	11.9	13.9	1.0	4.0
性別	男性	543	65.9	22.5	20.3	29.8	21.2	10.7	14.0	1.8	3.1
	女性	778	60.7	20.3	23.8	29.9	23.8	12.9	14.1	0.4	4.6
年齢別	20～29歳	88	60.2	15.9	27.3	20.5	26.1	28.4	8.0	2.3	2.3
	30～39歳	164	64.6	20.1	26.2	25.6	22.0	14.6	11.0	1.2	4.3
	40～49歳	182	68.7	18.1	23.6	20.9	25.3	14.8	13.2	0.5	4.9
	50～59歳	229	65.9	21.8	18.8	25.3	25.3	10.5	15.3	1.7	4.8
	60～69歳	338	62.7	19.5	20.4	31.7	25.7	10.4	15.4	1.2	3.8
	70歳以上	322	57.5	25.8	23.6	41.3	15.8	6.8	15.5	0.0	3.4
職業別	農林漁業	65	64.6	26.2	18.5	44.6	15.4	4.6	13.8	1.5	1.5
	商工業、サービス業、自由業など	178	66.9	17.4	20.8	28.1	23.0	11.2	12.9	0.6	6.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	504	68.3	17.3	21.2	24.6	26.2	15.5	14.5	1.4	3.6
	主婦・主夫	320	59.7	23.8	23.8	32.2	22.2	10.9	13.4	0.3	4.1
	無職	242	52.5	27.7	24.8	33.9	18.6	8.7	15.3	1.2	4.1
圏域別	高松圏域	644	63.8	21.9	22.2	31.1	23.1	10.6	13.0	1.4	3.6
	東讃圏域	135	65.2	25.2	25.2	21.5	22.2	10.4	14.8	0.0	4.4
	小豆圏域	33	57.6	15.2	21.2	48.5	18.2	9.1	18.2	3.0	3.0
	中讃圏域	357	62.7	19.3	22.1	29.4	21.0	14.3	14.8	0.8	4.5
	西讃圏域	187	59.4	20.3	22.5	30.5	25.7	13.4	13.9	0.0	4.3
居住年数別	3年未満	87	65.5	19.5	23.0	28.7	17.2	21.8	12.6	2.3	2.3
	3年以上～10年未満	196	62.2	18.9	23.5	20.4	29.1	14.8	14.8	0.5	4.6
	10年以上～20年未満	201	55.7	22.9	23.9	28.9	24.4	9.0	14.9	1.0	6.5
	20年以上	841	64.3	21.4	21.9	32.6	21.5	10.9	13.8	1.0	3.4

(5) 障害者の就労支援の考え方について

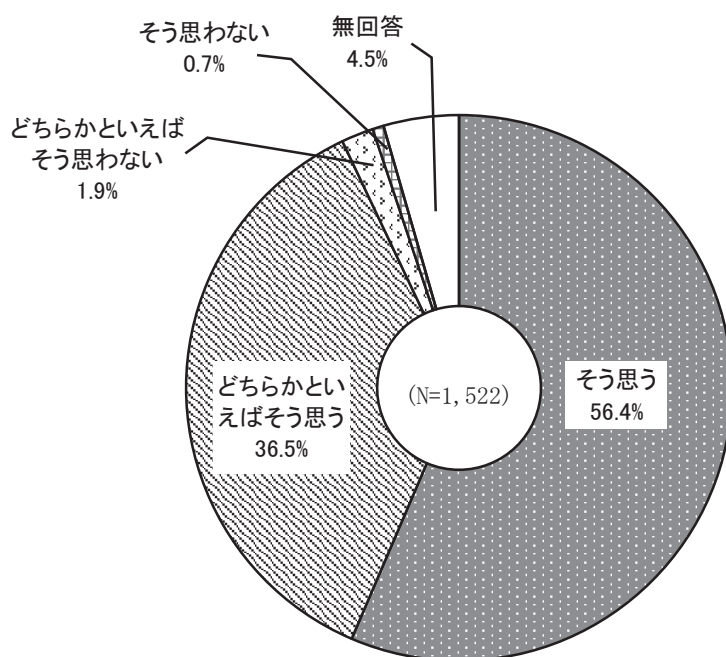
問 12 障害者総合支援法では、障害者の就労支援もテーマになっています。これは、障害のある方もできる限りその能力を最大限に生かして、仕事に就くことができる社会の実現をめざすものですが、このような考え方についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(なお、ここでいう障害者とは、児童や高齢者は含みません。)

[回答者数=1,522]

1 そう思う	56.4%
2 どちらかといえばそう思う	36.5%
3 どちらかといえばそう思わない	1.9%
4 そう思わない	0.7%
(無回答)	4.5%

障害者の就労支援の考え方については、「そう思う」が56.4%と半数を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思う」の36.5%を合わせた【そう思う】は92.9%と9割を超えている。一方、「そう思わない」は0.7%で、これに「どちらかといえばそう思わない」の1.9%を合わせた【そう思わない】は2.6%となっている。

< 障害者の就労支援の考え方について >



性別にみると、男女とも「そう思う」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が55.2%、『女性』が57.5%となっている。また、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】が、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた【そう思わない】を上回っている。

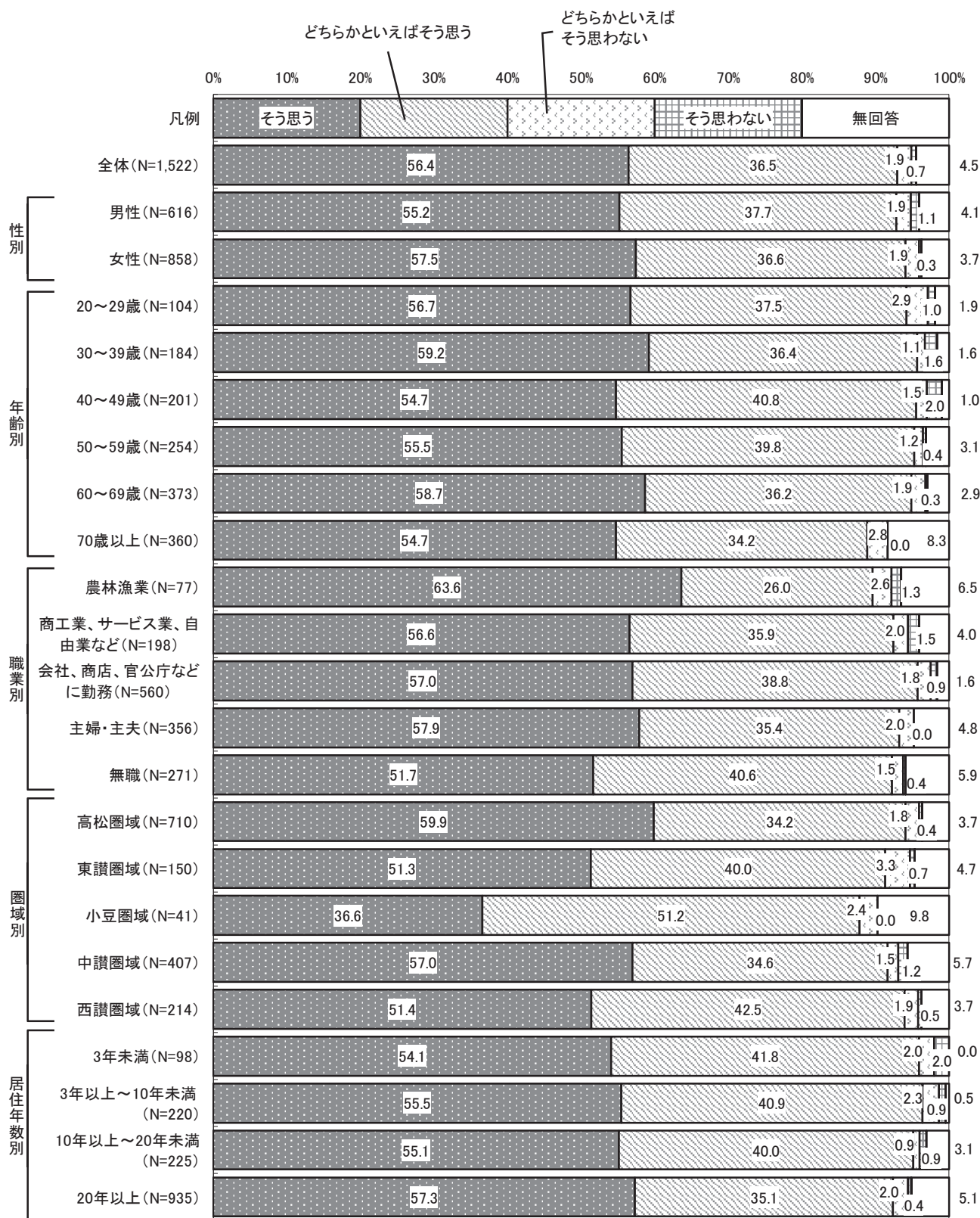
年齢別にみると、いずれも「そう思う」が半数を超え最も高くなっている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「そう思う」が半数を超え最も高く、特に『農林漁業』では6割を超えている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「どちらかといえばそう思う」が半数を超え最も高く、一方、その他の圏域では「そう思う」が半数を超え最も高くなっている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「そう思う」が半数を超え最も高くなっている。また、いずれも【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 障害者の就労支援の考え方について



(6) 障害のある方が就労するためには何が必要か

<問12で「1」または「2」と答えた方にお聞きします>

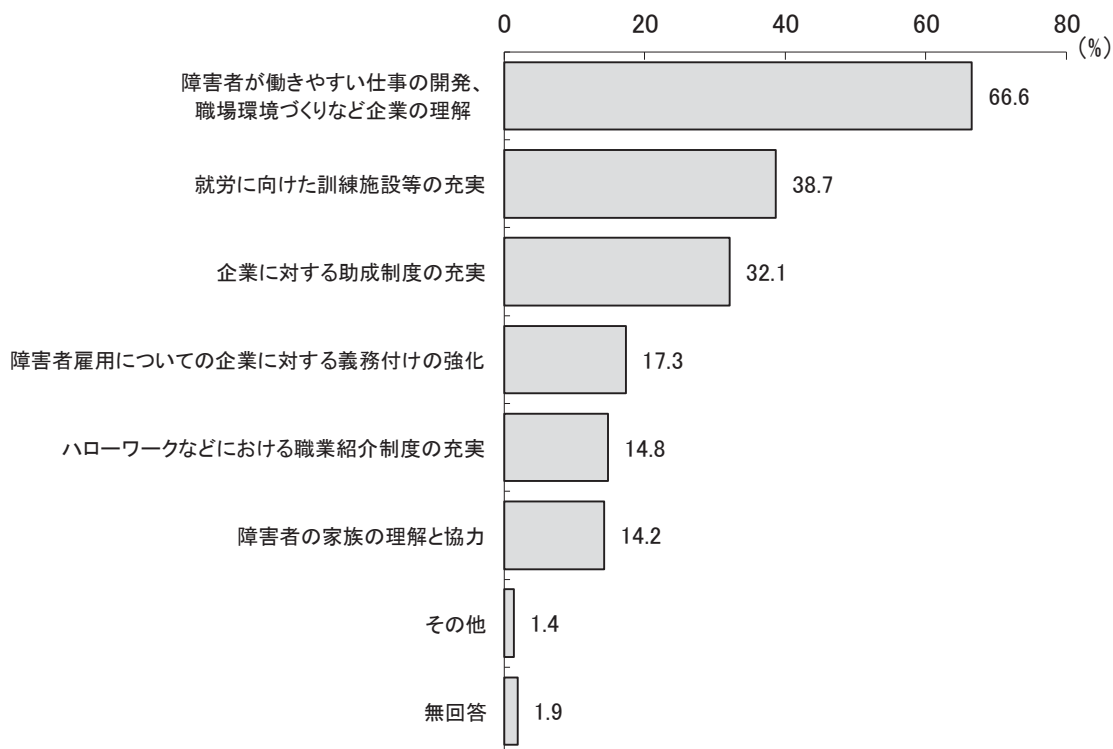
付問1 障害のある方が就労するためには何が必要だと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

[回答者数=1,415]

1 企業に対する助成制度の充実	32.1%
2 ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実	14.8%
3 就労に向けた訓練施設等の充実	38.7%
4 障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	66.6%
5 障害者の家族の理解と協力	14.2%
6 障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	17.3%
7 その他（具体的に：)	1.4%
(無回答)	1.9%

障害のある方が就労するためには何が必要かについては、「障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が66.6%と6割を超え最も高く、次いで「就労に向けた訓練施設等の充実」が38.7%、「企業に対する助成制度の充実」が32.1%などとなっている。

< 障害のある方が就労するためには何が必要か >



性別にみると、男女とも「障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が64.9%、『女性』が68.0%となっている。これに『男性』では「企業に対する助成制度の充実」が、『女性』では「就労に向けた訓練施設等の充実」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が6割を超え最も高く、特に『20～29歳』、『60～69歳』では7割を超えている。これに、『20～29歳』では「企業に対する助成制度の充実」が、その他の年齢では「就労に向けた訓練施設等の充実」が続いている。

職業別にみると、いずれも「障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が6割を超え最も高く、特に『農林漁業』では7割を超えている。これに、いずれも「就労に向けた訓練施設等の充実」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が6割を超え最も高く、これに、いずれも「就労に向けた訓練施設等の充実」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が6割を超え最も高く、特に『10年以上～20年未満』では7割を超えている。これに『3年未満』では「企業に対する助成制度の充実」が、その他の居住年数では「就労に向けた訓練施設等の充実」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
障害のある方が就労するためには何が必要か

(単位:%)

区分		回答者数(人)	企業に対する助成制度の充実	紹介制度の充実	ハローワークなどにおける職業	就労に向けた訓練施設等の充実	障害者が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	障害者の家族の理解と協力	障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	その他	無回答
全体		1,415	32.1	14.8	38.7	66.6	14.2	17.3	1.4	1.9	
性別	男性	572	39.3	13.1	36.4	64.9	12.1	19.1	1.7	1.2	
	女性	807	26.5	16.1	40.3	68.0	15.7	16.0	1.2	2.5	
年齢別	20～29歳	98	33.7	18.4	26.5	70.4	14.3	14.3	2.0	2.0	
	30～39歳	176	37.5	18.8	40.3	61.9	10.2	16.5	2.3	1.1	
	40～49歳	192	32.8	14.6	37.5	65.6	12.5	17.2	1.6	3.1	
	50～59歳	242	31.8	14.0	39.3	68.2	12.4	15.3	2.1	2.1	
	60～69歳	354	29.9	12.4	42.1	70.3	13.0	20.1	1.1	2.3	
	70歳以上	320	30.0	14.7	37.8	63.8	20.6	17.2	0.6	1.3	
職業別	農林漁業	69	33.3	20.3	34.8	72.5	17.4	13.0	1.4	0.0	
	商工業、サービス業、自由業など	183	36.1	9.8	39.9	65.6	15.3	12.6	1.1	4.4	
	会社、商店、官公庁などに勤務	536	35.1	14.7	40.3	65.3	11.4	17.7	2.1	1.7	
	主婦・主夫	332	25.6	15.4	38.6	69.9	16.9	16.9	1.2	1.8	
	無職	250	30.8	15.2	34.8	65.2	15.2	21.6	0.8	1.6	
圏域別	高松圏域	668	33.5	14.7	37.4	67.2	12.3	18.6	1.6	1.8	
	東讃圏域	137	33.6	10.9	45.3	64.2	13.9	20.4	0.0	2.2	
	小豆圏域	36	27.8	16.7	50.0	63.9	19.4	13.9	0.0	0.0	
	中讃圏域	373	29.0	17.4	36.7	66.0	16.1	15.5	1.3	1.6	
	西讃圏域	201	32.8	12.4	39.8	67.7	16.4	14.9	2.0	3.0	
居住年数別	3年未満	94	34.0	12.8	33.0	67.0	11.7	22.3	2.1	1.1	
	3年以上～10年未満	212	36.8	17.5	42.5	62.3	8.5	14.6	1.9	1.9	
	10年以上～20年未満	214	33.6	12.6	34.6	73.4	12.1	15.0	2.3	2.3	
	20年以上	864	30.0	14.9	39.4	66.1	16.6	17.9	1.0	2.0	

(7) 障害のある方の権利擁護について、行政が特に力を入れるべきこと

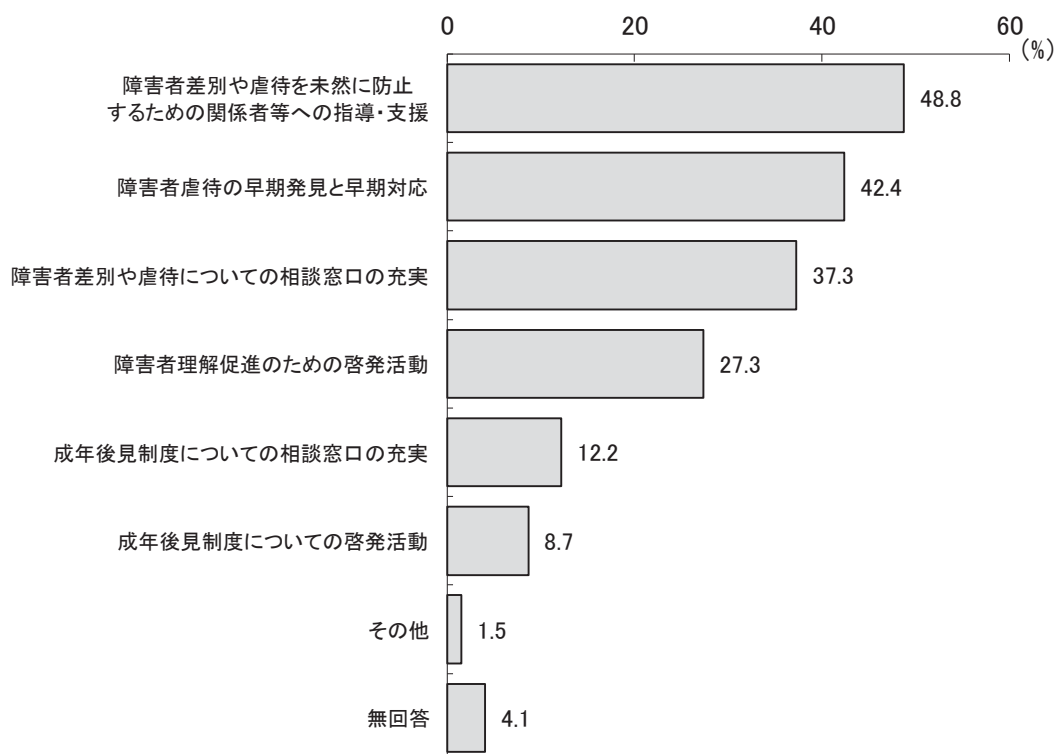
問 13 障害のある方の権利擁護（差別や虐待の防止など）について、行政はどんなことに特に力を入れるべきだと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

〔回答者数=1,522〕

1 障害者理解促進のための啓発活動	27.3%
2 障害者差別や虐待についての相談窓口の充実	37.3%
3 障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援	48.8%
4 障害者虐待の早期発見と早期対応	42.4%
5 成年後見制度についての啓発活動	8.7%
6 成年後見制度についての相談窓口の充実	12.2%
7 その他（具体的に：)	1.5%
(無回答)	4.1%

障害のある方の権利擁護について、行政が特に力を入れるべきことについては、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が48.8%と半数近くを占め最も高く、次いで「障害者虐待の早期発見と早期対応」が42.4%、「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」が37.3%などとなっている。

＜ 障害のある方の権利擁護について、行政が特に力を入れるべきこと ＞



性別にみると、男女とも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が最も高く、その比率は『男性』が48.4%、『女性』が49.5%となっている。これに、男女とも「障害者虐待の早期発見と早期対応」が続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」が最も高く、これに「障害者虐待の早期発見と早期対応」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が最も高く、これに『60～69歳』では「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」が、その他の年齢では「障害者虐待の早期発見と早期対応」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「障害者虐待の早期発見と早期対応」が最も高く、これに「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が同率で続いている。また、『無職』では「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」が最も高く、これに「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が最も高く、これに、いずれも「障害者虐待の早期発見と早期対応」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」と「障害者虐待の早期発見と早期対応」が同率で最も高く、その他の圏域別では、いずれも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が最も高く、これに、いずれも「障害者虐待の早期発見と早期対応」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」が最も高く、特に『3年未満』、『10年以上～20年未満』では半数を超えている。これに、いずれも「障害者虐待の早期発見と早期対応」が続いている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
障害のある方の権利擁護について、行政が特に力を入れるべきこと**

(単位: %)

区分		回答者数(人)	動 障害者理解促進のための啓発活	談 障害者差別や虐待についての相 談窓口の充実	る 障害者差別や虐待を未然に防止す るための関係者等への指導・支援	応 障害者虐待の早期発見と早期対	動 成年後見制度についての啓発活	口 成年後見制度についての相談窓 口の充実	そ 他	無 回 答
全体		1,522	27.3	37.3	48.8	42.4	8.7	12.2	1.5	4.1
性別	男性	616	30.0	37.0	48.4	39.6	8.3	12.8	2.6	3.1
	女性	858	25.8	37.5	49.5	44.5	9.2	12.1	0.7	3.7
年齢別	20～29歳	104	25.0	26.0	60.6	48.1	6.7	7.7	2.9	1.0
	30～39歳	184	27.2	33.7	51.6	45.1	6.5	5.4	2.7	3.3
	40～49歳	201	34.3	28.9	54.2	44.8	10.0	13.9	0.5	1.0
	50～59歳	254	29.5	30.7	56.3	37.0	9.4	13.8	1.6	2.8
	60～69歳	373	26.0	44.2	45.3	43.2	9.7	15.3	1.6	2.1
	70歳以上	360	24.4	45.6	40.3	41.4	8.6	12.5	0.8	7.5
職業別	農林漁業	77	28.6	40.3	40.3	41.6	10.4	13.0	2.6	5.2
	商工業、サービス業、自由業など	198	22.7	41.9	47.0	43.4	8.6	14.6	1.5	3.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	31.8	30.4	54.3	42.0	8.0	11.8	1.8	1.8
	主婦・主夫	356	23.3	39.9	49.4	43.8	11.8	12.1	0.8	3.7
	無職	271	28.4	45.0	42.1	41.3	6.3	12.2	1.5	5.2
圏域別	高松圏域	710	26.6	38.3	47.3	41.1	9.2	13.4	1.8	3.8
	東讃圏域	150	31.3	31.3	50.0	44.7	8.0	11.3	2.0	4.7
	小豆圏域	41	24.4	41.5	51.2	51.2	4.9	7.3	0.0	7.3
	中讃圏域	407	28.0	35.4	49.4	41.8	8.4	12.8	1.2	4.4
	西讃圏域	214	26.2	40.7	50.9	44.4	8.9	8.4	0.9	3.3
居住年数別	3年未満	98	29.6	30.6	56.1	43.9	4.1	9.2	1.0	3.1
	3年以上～10年未満	220	34.5	33.2	49.1	46.4	9.5	9.1	1.4	1.4
	10年以上～20年未満	225	27.6	28.4	56.4	39.1	11.1	11.1	0.9	3.6
	20年以上	935	25.6	41.5	46.4	42.2	8.6	13.8	1.7	4.0

(8) 東日本大震災のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要か

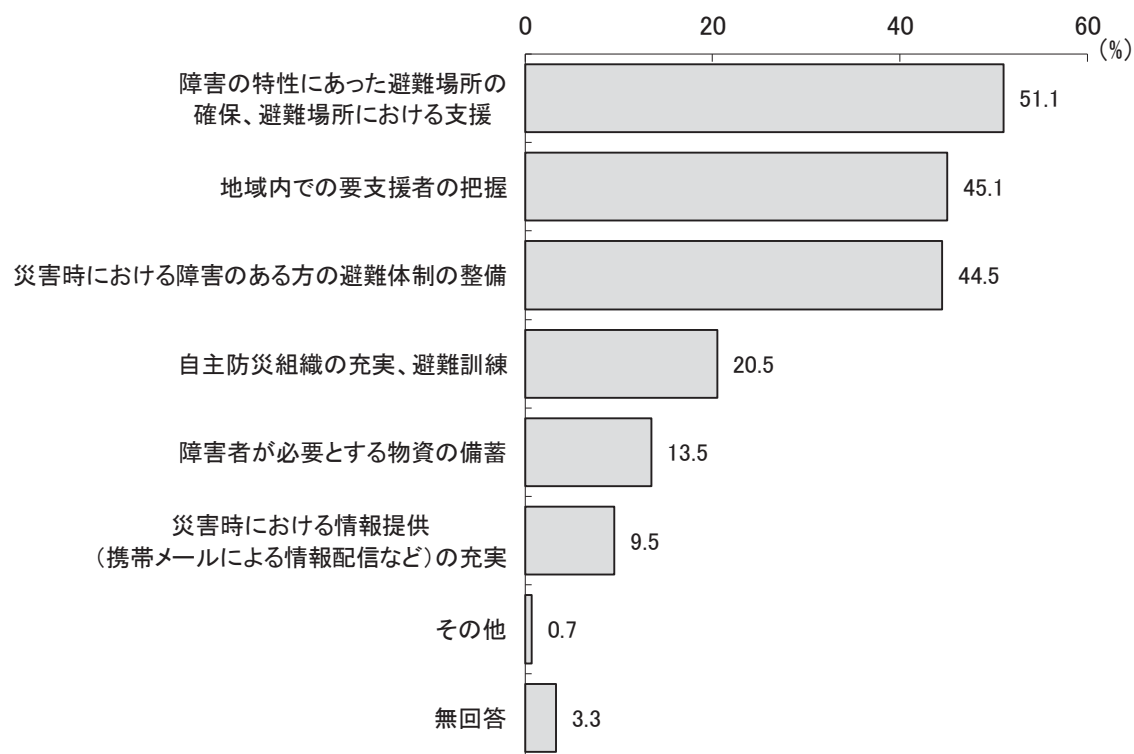
問 14 東日本大震災のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要だと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

[回答者数=1,522]

1 自主防災組織の充実、避難訓練	20.5%
2 障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	51.1%
3 地域内での要支援者の把握	45.1%
4 障害者が必要とする物資の備蓄	13.5%
5 災害時における障害のある方の避難体制の整備	44.5%
6 災害時における情報提供（携帯メールによる情報配信など）の充実	9.5%
7 その他（具体的に： ）	0.7%
（無回答）	3.3%

東日本大震災のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要かについては、「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が51.1%と半数を超え最も高く、次いで「地域内での要支援者の把握」が45.1%、「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が44.5%などとなっている。

〈 東日本大震災のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要か 〉



性別にみると、男女とも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が最も高く、その比率は『男性』が49.7%、『女性』が52.9%となっている。これに、『男性』は「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が、『女性』は「地域内での要支援者の把握」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「地域内での要支援者の把握」が最も高く、これに「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が最も高く、これに、『40～49歳』『50～59歳』は「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が、その他の年齢別はいずれも「地域内での要支援者の把握」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」、「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が同率で最も高く、これに「地域内での要支援者の把握」が続いている。また、『商工業、サービス業、自由業など』では「地域内での要支援者の把握」が最も高く、これに「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が続いている。一方、その他の職業では「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が最も高く、これに『会社、商店、官庁などに勤務』『無職』では「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が、『主婦、主夫』では「地域内での要支援者の把握」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「地域内での要支援者の把握」が最も高く、これに「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が最も高く、これに、『中讃圏域』では「地域内での要支援者の把握」が、その他の圏域では、いずれも「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が最も高く、特に『3年以上～10年未満』を除く全ての居住年数で半数を超えている。これに、『3年以上～10年未満』『20年以上』では「地域内での要支援者の把握」が、『3年未満』『10年以上～20年未満』では「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

東日本大震災のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要か

(単位:%)

区分		回答者数(人)	自主防災組織の充実、避難訓練	障害の特性にあった避難場所における支援の確保、避難場所の	地域内での要支援者の把握	障害者が必要とする物資の備蓄	避難体制における障害のある方の	災害時における情報提供(携帯メールによる情報配信など)の充実	その他	無回答
全体		1,522	20.5	51.1	45.1	13.5	44.5	9.5	0.7	3.3
性別	男性	616	21.3	49.7	46.9	11.0	47.9	8.0	1.1	2.4
	女性	858	19.2	52.9	44.6	15.3	42.2	11.1	0.5	3.0
年齢別	20～29歳	104	25.0	43.3	46.2	17.3	40.4	15.4	1.0	1.0
	30～39歳	184	18.5	44.0	45.7	22.8	41.8	9.8	1.6	2.2
	40～49歳	201	20.4	59.2	40.3	15.4	47.3	9.0	0.5	0.5
	50～59歳	254	20.5	52.8	47.6	9.1	49.2	7.1	0.4	2.4
	60～69歳	373	17.4	52.0	49.6	11.3	46.1	10.5	0.8	1.9
	70歳以上	360	21.7	52.2	42.8	11.7	41.4	9.7	0.6	6.1
職業別	農林漁業	77	15.6	50.6	45.5	7.8	50.6	9.1	0.0	5.2
	商工業、サービス業、自由業など	198	24.2	48.0	50.5	11.6	38.9	10.6	0.5	3.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	18.8	50.9	44.6	14.6	49.1	10.4	0.7	1.3
	主婦・主夫	356	19.7	56.5	47.2	12.1	40.4	9.8	0.6	3.4
	無職	271	21.4	50.6	41.3	15.5	44.3	8.1	1.5	3.7
圏域別	高松圏域	710	20.6	49.3	43.8	15.8	44.5	9.3	1.0	3.2
	東讃圏域	150	23.3	48.7	45.3	10.7	47.3	9.3	0.0	4.0
	小豆圏域	41	29.3	48.8	51.2	9.8	39.0	4.9	0.0	4.9
	中讃圏域	407	17.7	53.8	46.4	11.8	43.2	9.8	0.5	3.9
	西讃圏域	214	22.0	53.7	45.3	11.7	46.3	10.7	0.9	1.4
居住年数別	3年未満	98	22.4	57.1	33.7	18.4	43.9	13.3	1.0	1.0
	3年以上～10年未満	220	19.5	49.1	46.8	16.8	45.5	10.5	0.9	0.9
	10年以上～20年未満	225	19.6	50.2	42.2	15.6	48.9	9.3	0.4	2.2
	20年以上	935	20.1	51.9	47.4	11.6	43.6	9.3	0.7	3.5

(9) 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政が特に力を入れるべきこと

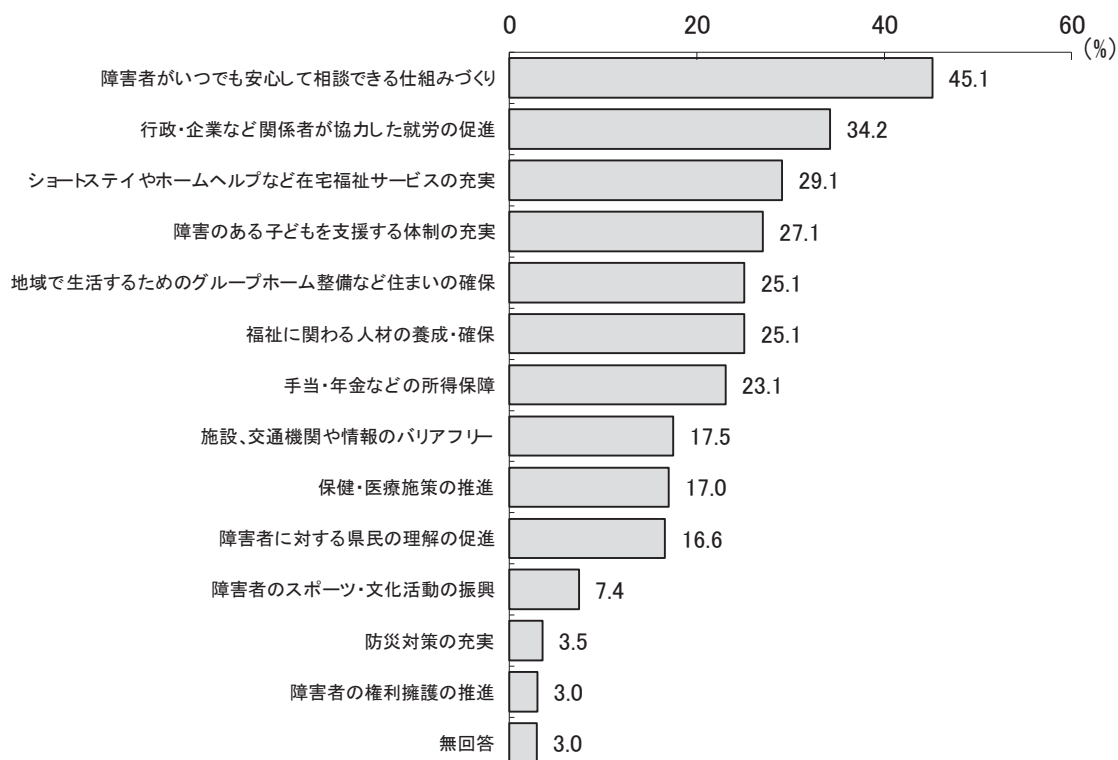
問 15 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政はどんなことに特に力を入れるべきだと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,522]

1 障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	45.1%
2 ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実	29.1%
3 地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	25.1%
4 行政・企業など関係者が協力した就労の促進	34.2%
5 障害のある子どもを支援する体制の充実	27.1%
6 障害者のスポーツ・文化活動の振興	7.4%
7 保健・医療施策の推進	17.0%
8 施設、交通機関や情報のバリアフリー	17.5%
9 防災対策の充実	3.5%
10 手当・年金などの所得保障	23.1%
11 障害者に対する県民の理解の促進	16.6%
12 障害者の権利擁護の推進	3.0%
13 福祉に関わる人材の養成・確保	25.1%
(無回答)	3.0%

障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政が特に力を入れるべきことについては、「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が 45.1%と4割を超え最も高く、次いで「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が 34.2%、「ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実」が 29.1%などとなっている。

〈 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政が特に力を入れるべきこと 〉



性別にみると、男女とも「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も高く、その比率は『男性』が44.8%、『女性』が45.5%となっている。これに、『男性』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が、『女性』では「ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実」が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』では「障害のある子どもを支援する体制の充実」が最も高く、これに「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が続いている。また、『40～49歳』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が最も高く、これに「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が続いている。一方、その他の年齢では「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も高く、これに『20～29歳』では「ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実」と「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」と「施設、交通機関や情報のバリアフリー」が同率で、その他の年齢では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が続いている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が最も高く、これに「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も高く、特に『主婦・主夫』、『無職』では半数を超えている。これに、『農林漁業』、『無職』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も高く、特に『小豆圏域』では半数を超えている。これに、『小豆圏域』では「ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実」が、『西讃圏域』では「障害のある子どもを支援する体制の充実」が、その他の圏域では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が続いている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が最も高く、これに「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「障害者がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も高く、これに、いずれも「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政が特に力を入れるべきこと

(単位: %)

区分		回答者数(人)	障害者がいづれでも安心して相談できる仕組みづくり	シヨートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実	ホーム整備など住まいの確保	地域で生活するためのグループ	た就業・企業など関係者が協力した就労の促進	行政の充実	障害のある子どもを支援する体制の充実	振興	障害者のスポーツ・文化活動の推進	保健・医療施策の推進	施設、交通機関や情報のバリアフリー	防災対策の充実	手当・年金などの所得保障	進	障害者に対する県民の理解の促進	障害者の権利擁護の推進	福祉に関わる人材の養成・確保	無回答
全体		1,522	45.1	29.1	25.1	34.2	27.1	7.4	17.0	17.5	3.5	23.1	16.6	3.0	25.1	3.0				
性別	男性	616	44.8	25.5	26.8	38.8	28.7	8.9	19.5	16.1	3.9	23.5	15.4	2.8	21.9	1.9				
	女性	858	45.5	31.8	24.2	30.9	26.2	6.5	15.3	19.1	3.3	23.1	17.6	3.3	28.1	2.9				
年齢別	20～29歳	104	35.6	28.8	21.2	28.8	23.1	20.2	14.4	28.8	3.8	20.2	23.1	5.8	21.2	1.0				
	30～39歳	184	26.6	31.5	25.0	33.7	35.3	12.5	13.0	22.8	5.4	20.7	19.6	3.3	33.2	1.6				
	40～49歳	201	38.3	26.4	26.4	41.3	34.3	4.0	15.4	22.9	4.0	14.4	16.4	3.5	30.8	0.5				
	50～59歳	254	40.9	29.5	26.8	39.8	21.7	2.8	16.9	21.7	2.8	29.1	15.0	2.8	26.0	2.0				
	60～69歳	373	50.4	31.1	27.9	34.3	24.9	8.6	18.0	12.9	1.6	24.7	17.7	3.2	23.9	2.1				
	70歳以上	360	59.4	27.5	22.5	28.6	27.2	5.6	19.7	11.7	4.4	24.4	13.6	1.9	20.8	5.3				
職業別	農林漁業	77	49.4	23.4	19.5	36.4	28.6	1.3	18.2	16.9	1.3	23.4	20.8	3.9	24.7	3.9				
	商工業、サービス業、自由業など	198	43.9	33.8	24.7	32.8	28.8	10.1	19.7	15.7	4.0	15.7	13.6	3.0	22.7	2.0				
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	36.1	29.1	27.5	38.4	28.8	7.7	16.6	21.4	3.4	23.2	16.4	3.9	28.2	1.3				
	主婦・主夫	356	52.5	30.1	25.0	29.5	27.2	5.6	15.2	15.4	3.7	24.2	19.4	2.2	26.4	2.5				
	無職	271	53.5	27.3	23.6	32.1	23.6	9.2	18.5	15.9	4.1	28.0	14.4	1.1	20.3	4.8				
圏域別	高松圏域	710	44.2	30.7	22.4	36.1	26.6	7.9	17.2	16.5	3.9	25.1	15.9	3.4	25.4	3.0				
	東讃圏域	150	44.7	28.0	29.3	34.7	24.0	6.7	12.0	17.3	2.7	16.7	25.3	3.3	22.7	3.3				
	小豆圏域	41	58.5	34.1	24.4	22.0	31.7	2.4	24.4	9.8	2.4	19.5	17.1	2.4	22.0	4.9				
	中讃圏域	407	46.7	27.0	27.5	33.7	24.6	7.4	16.5	19.4	2.5	22.9	13.3	2.7	26.5	3.4				
	西讃圏域	214	43.0	27.6	26.6	31.3	34.6	7.5	19.6	18.7	5.1	22.0	19.2	2.3	23.8	1.4				
居住年数別	3年未満	98	41.8	29.6	20.4	32.7	26.5	9.2	24.5	23.5	3.1	21.4	19.4	6.1	24.5	2.0				
	3年以上～10年未満	220	32.3	29.1	25.9	36.4	31.4	11.4	16.8	20.0	4.1	20.9	20.9	2.3	33.2	0.5				
	10年以上～20年未満	225	40.9	26.7	27.1	40.0	27.6	7.6	12.9	18.2	4.0	24.4	14.2	3.1	25.8	2.7				
	20年以上	935	49.8	29.7	25.2	32.6	26.4	6.4	17.3	16.6	3.2	23.6	15.9	2.9	23.6	3.0				

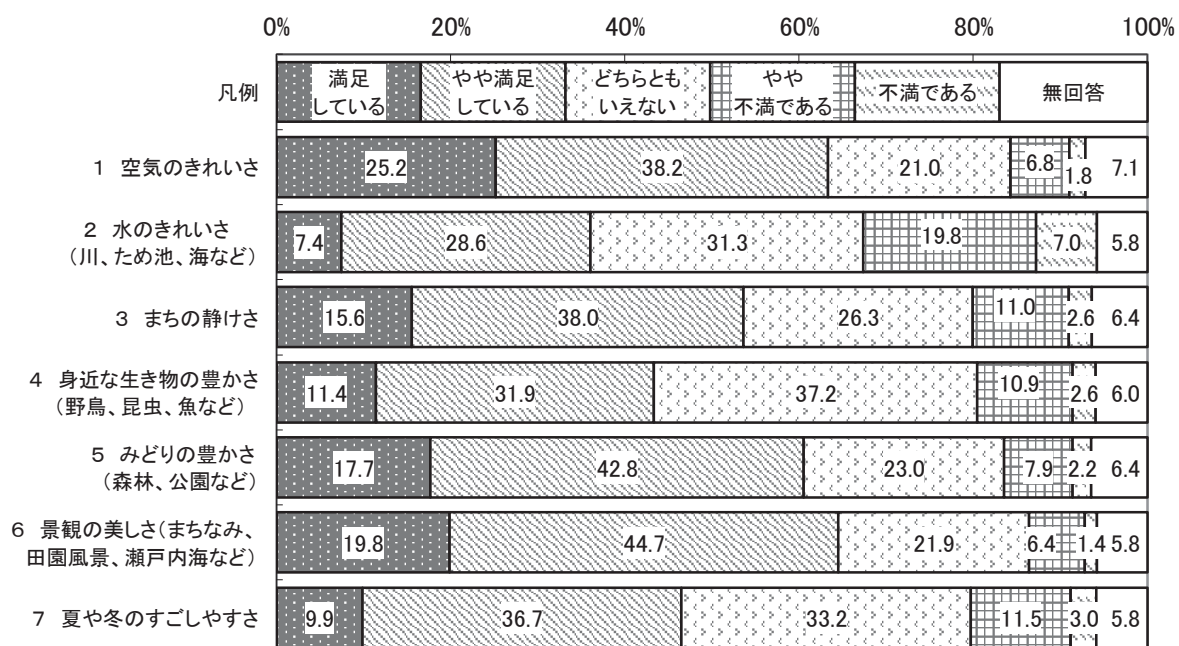
3 環境施策について

(1) 身のまわりの環境について（現在の満足度）

問 16 あなたの身のまわりの環境について、＜現在の満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	現在の満足度					
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
[回答者数=1,522]						
1 空気のきれいさ	25.2	38.2	21.0	6.8	1.8	7.1
2 水のきれいさ（川、ため池、海など）	7.4	28.6	31.3	19.8	7.0	5.8
3 まちの静けさ	15.6	38.0	26.3	11.0	2.6	6.4
4 身近な生き物の豊かさ（野鳥、昆虫、魚など）	11.4	31.9	37.2	10.9	2.6	6.0
5 みどりの豊かさ（森林、公園など）	17.7	42.8	23.0	7.9	2.2	6.4
6 景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）	19.8	44.7	21.9	6.4	1.4	5.8
7 夏や冬の過ごしやすさ	9.9	36.7	33.2	11.5	3.0	5.8

身のまわりの環境について現在の満足度をみると、どの項目でも「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】が「不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。特に『空気のきれいさ』、『みどりの豊かさ（森林、公園など）』、『景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）』では【満足している】が6割を超えている。

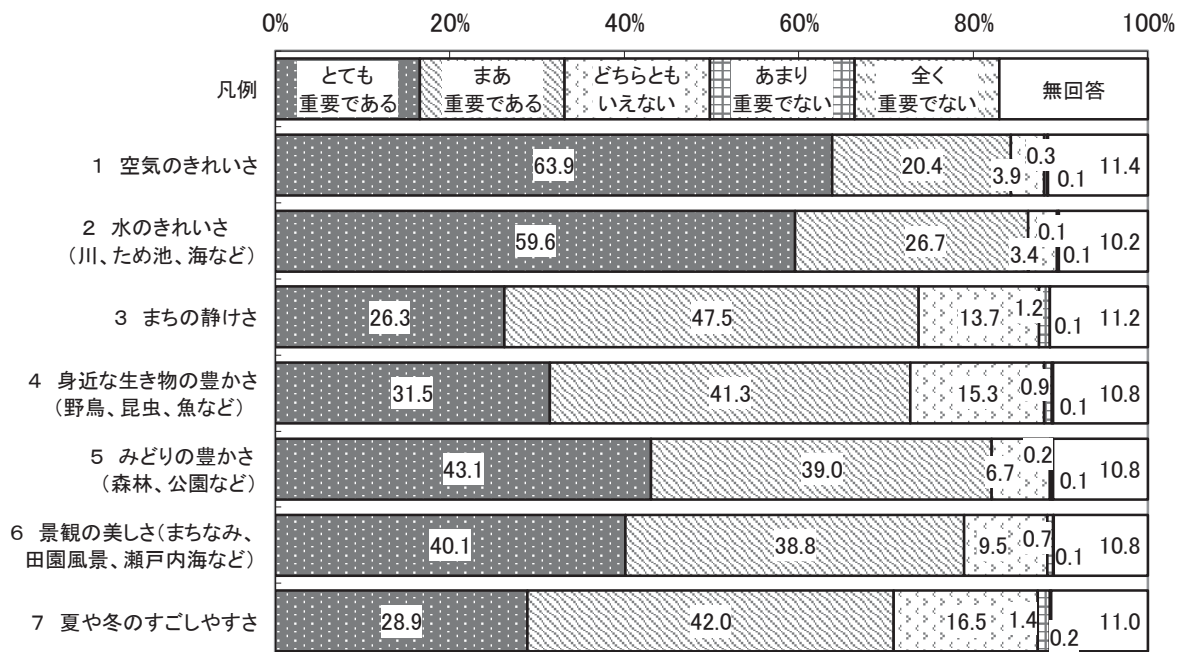


(2) 身のまわりの環境について（将来の重要度）

問 16 あなたの身のまわりの環境について、＜将来の重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	将来の重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
[回答者数=1,522]						
1 空気のきれいさ	63.9	20.4	3.9	0.3	0.1	11.4
2 水のきれいさ（川、ため池、海など）	59.6	26.7	3.4	0.1	0.1	10.2
3 まちの静けさ	26.3	47.5	13.7	1.2	0.1	11.2
4 身近な生き物の豊かさ（野鳥、昆虫、魚など）	31.5	41.3	15.3	0.9	0.1	10.8
5 みどりの豊かさ（森林、公園など）	43.1	39.0	6.7	0.2	0.1	10.8
6 景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）	40.1	38.8	9.5	0.7	0.1	10.8
7 夏や冬の過ごしやすさ	28.9	42.0	16.5	1.4	0.2	11.0

身のまわりの環境について将来の重要度をみると、どの項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が7割を超えている。特に『水のきれいさ（川、ため池、海など）』、『空気のきれいさ』、『みどりの豊かさ（森林、公園など）』では【重要である】が8割を超えている。「全く重要でない」と「あまり重要でない」を合わせた【重要でない】は、どの項目も2%未満である。



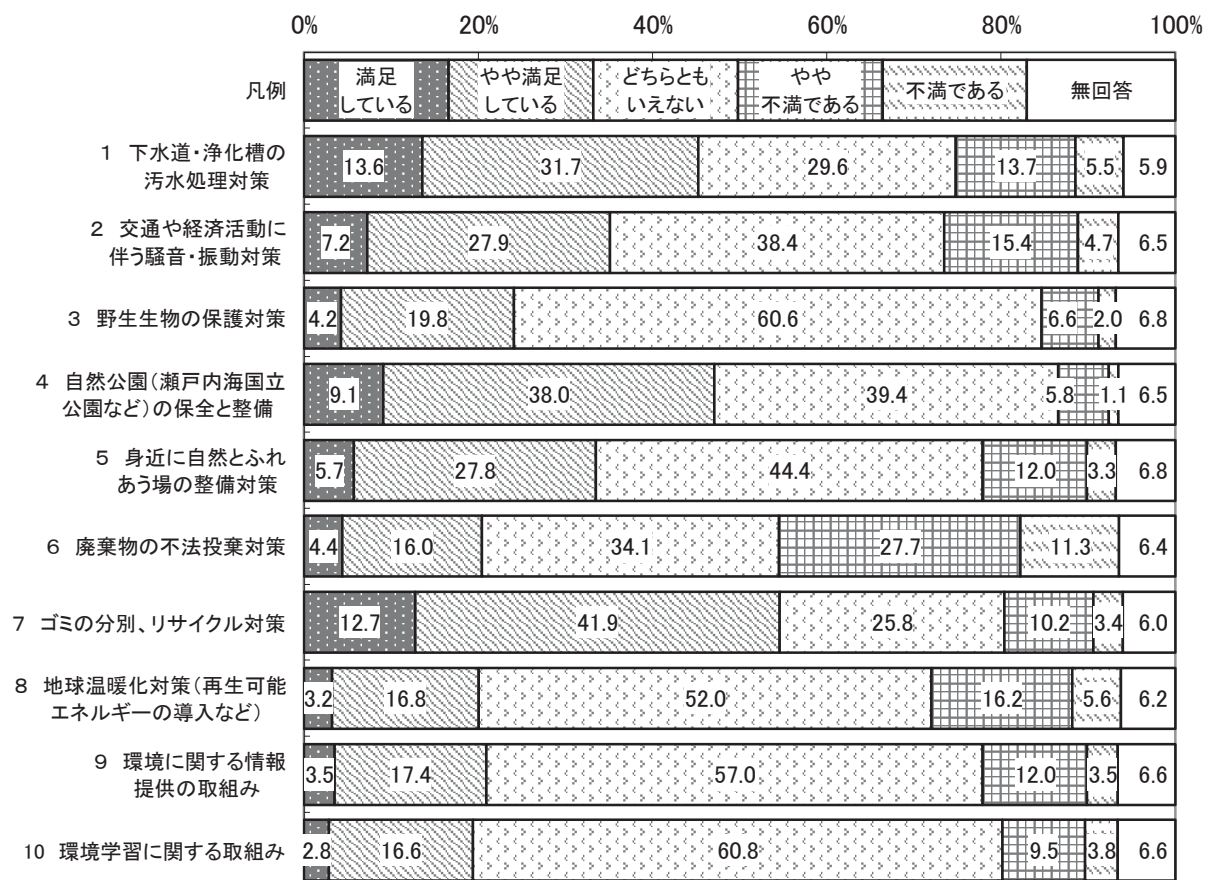
(3) 行政の環境への取組みについて（現在の満足度）

問 16 行政の環境への取組みについて、＜現在の満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	現在の満足度					
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
[回答者数=1,522]						
1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	13.6	31.7	29.6	13.7	5.5	5.9
2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	7.2	27.9	38.4	15.4	4.7	6.5
3 野生生物の保護対策	4.2	19.8	60.6	6.6	2.0	6.8
4 自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備	9.1	38.0	39.4	5.8	1.1	6.5
5 身近に自然とふれあう場の整備対策	5.7	27.8	44.4	12.0	3.3	6.8
6 廃棄物の不法投棄対策	4.4	16.0	34.1	27.7	11.3	6.4
7 ゴミの分別、リサイクル対策	12.7	41.9	25.8	10.2	3.4	6.0
8 地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）	3.2	16.8	52.0	16.2	5.6	6.2
9 環境に関する情報提供の取組み	3.5	17.4	57.0	12.0	3.5	6.6
10 環境学習に関する取組み	2.8	16.6	60.8	9.5	3.8	6.6

行政の環境への取組みについて現在の満足度をみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の高いものは、『ゴミの分別、リサイクル対策』が54.6%、次いで『自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備』が47.1%、『下水道・浄化槽の汚水処理対策』が45.3%の順になっている。一方、満足度が低いものは、『環境学習に関する取組み』が19.4%、次いで『地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）』が20.0%、『廃棄物の不法投棄対策』が20.4%の順となっている。

＜ 行政の環境への取組みについて（現在の満足度） ＞



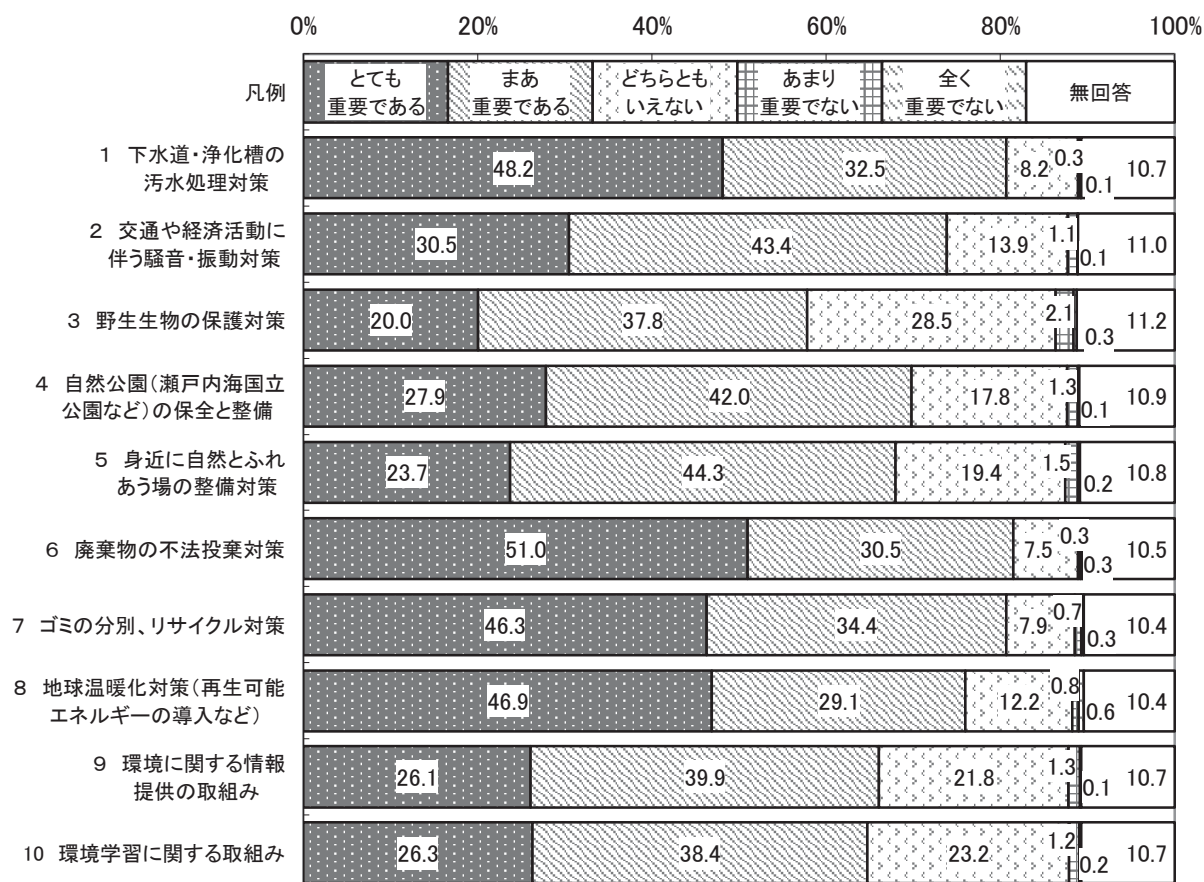
(4) 行政の環境への取組みについて（将来の重要度）

問 16 行政の環境への取組みについて、＜将来の重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	将来の重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
[回答者数=1,522]						
1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	48.2	32.5	8.2	0.3	0.1	10.7
2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	30.5	43.4	13.9	1.1	0.1	11.0
3 野生生物の保護対策	20.0	37.8	28.5	2.1	0.3	11.2
4 自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備	27.9	42.0	17.8	1.3	0.1	10.9
5 身近に自然とふれあう場の整備対策	23.7	44.3	19.4	1.5	0.2	10.8
6 廃棄物の不法投棄対策	51.0	30.5	7.5	0.3	0.3	10.5
7 ゴミの分別、リサイクル対策	46.3	34.4	7.9	0.7	0.3	10.4
8 地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）	46.9	29.1	12.2	0.8	0.6	10.4
9 環境に関する情報提供の取組み	26.1	39.9	21.8	1.3	0.1	10.7
10 環境学習に関する取組み	26.3	38.4	23.2	1.2	0.2	10.7

行政の環境への取組みについて将来の重要度をみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が『野生生物の保護対策』を除く全ての項目で6割を超えている。特に、『廃棄物の不法投棄対策』、『下水道・浄化槽の汚水処理対策』、『ゴミの分別、リサイクル対策』では【重要である】が8割を超えている。「全く重要でない」と「あまり重要でない」を合わせた【重要でない】は、どの項目も3%未満である。

＜ 行政の環境への取組みについて（将来の重要度） ＞



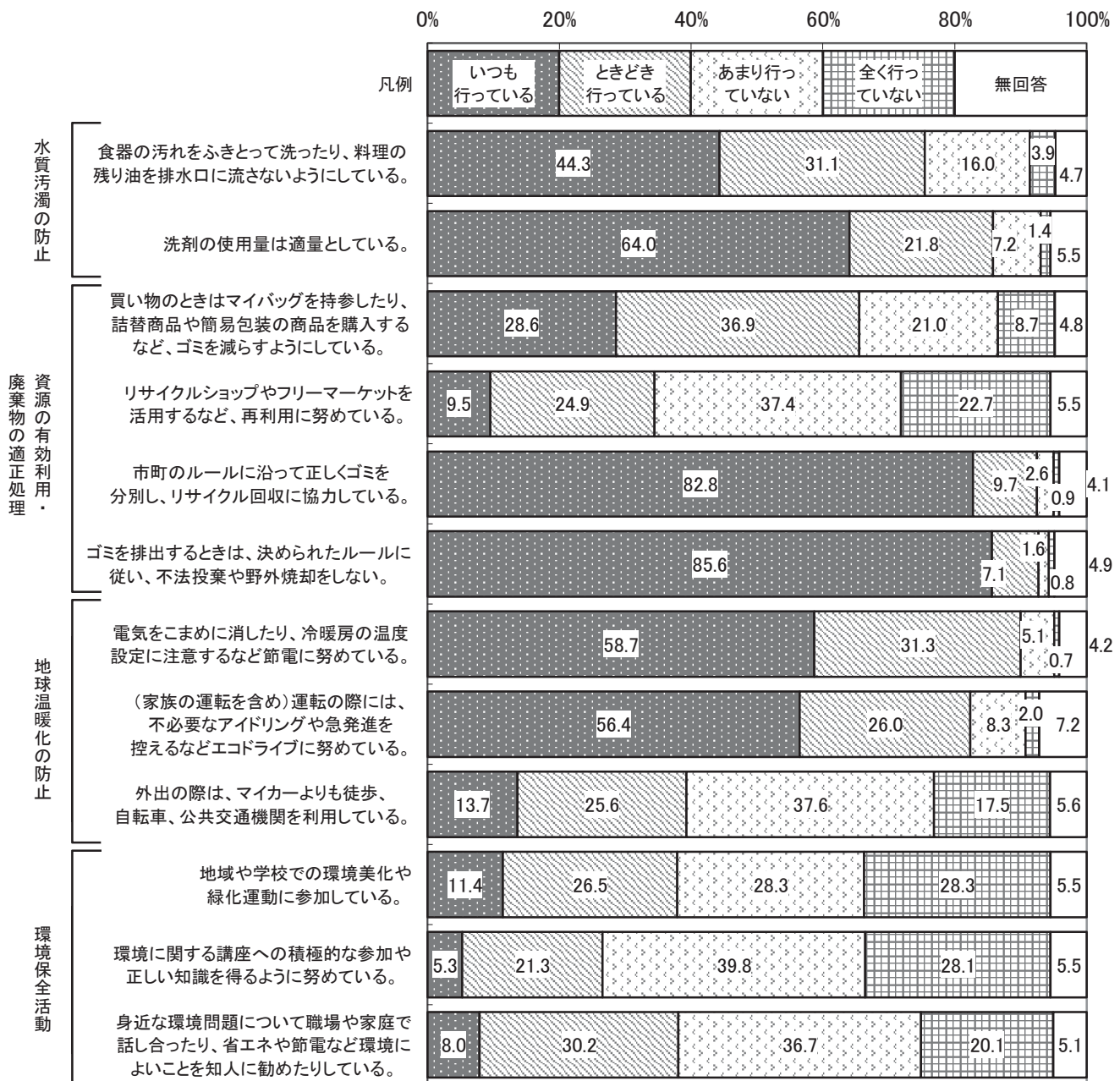
(5) 日常生活の中で環境に関する行動をどの程度行っているか

問 17 あなたは日常生活の中で、次にあげる行動をどの程度行っていますか。それぞれ1～4のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

		取組状況				
		いつも行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	全く行っていない	無回答
〔回答者数=1,522〕						
水の 質汚濁 の 防止	食器の汚れをふきとって洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている。	44.3	31.1	16.0	3.9	4.7
	洗剤の使用量は適量としている。	64.0	21.8	7.2	1.4	5.5
廃棄物の 適正処理 ・ 資源の有効利用	買い物のときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らすようにしている。	28.6	36.9	21.0	8.7	4.8
	リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている。	9.5	24.9	37.4	22.7	5.5
	市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している。	82.8	9.7	2.6	0.9	4.1
	ゴミを排出するときは、決められたルールに従い、不法投棄や野外焼却をしない。	85.6	7.1	1.6	0.8	4.9
地球温暖化の 防止	電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている。	58.7	31.3	5.1	0.7	4.2
	(家族の運転を含め) 運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている。	56.4	26.0	8.3	2.0	7.2
	外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している。	13.7	25.6	37.6	17.5	5.6
環境保全活動	地域や学校での環境美化や緑化運動に参加している。	11.4	26.5	28.3	28.3	5.5
	環境に関する講座への積極的な参加や正しい知識を得るように努めている。	5.3	21.3	39.8	28.1	5.5
	身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている。	8.0	30.2	36.7	20.1	5.1

環境に配慮した県民の行動については、『洗剤の使用量は適量としている。』『電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意する。』など生活規則として日常に定着し、自己に経済的負担を軽減させるものは、取組率が高くなっているが、『環境に関する講座への積極的な参加や正しい知識を得るように努めている。』『身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている。』など環境対策に有効であるが、時間的な負担が生じたり自己に負荷がかかる行動の取組率が低いことが伺える。

＜ 日常生活の中で環境に関する行動をどの程度行っているか ＞



(6) 地球温暖化防止のための取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

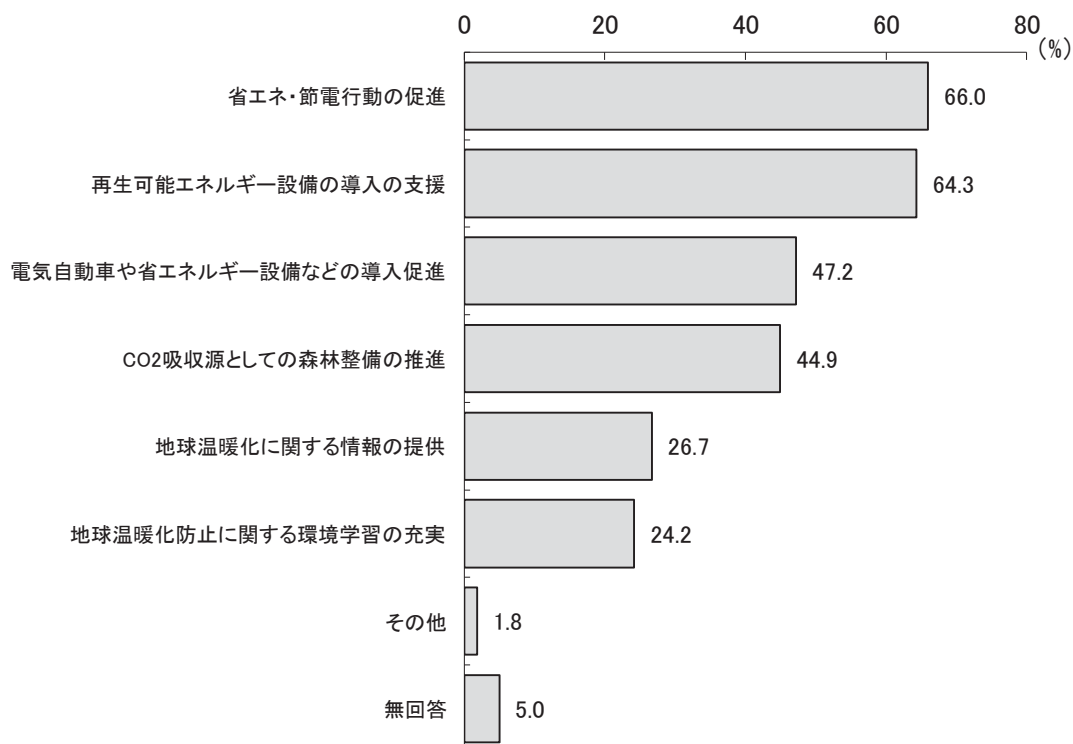
【問 18-1】地球温暖化防止のための取組みについて

[回答者数=1,522]

1	再生可能エネルギー設備の導入の支援	64.3%
2	電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	47.2%
3	省エネ・節電行動の促進	66.0%
4	CO2吸収源としての森林整備の推進	44.9%
5	地球温暖化に関する情報の提供	26.7%
6	地球温暖化防止に関する環境学習の充実	24.2%
7	その他 ()	1.8%
	(無回答)	5.0%

地球温暖化防止のための取組みについては、「省エネ・節電行動の促進」が66.0%と6割を超え最も高く、次いで「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が64.3%、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」が47.2%などとなっている。

< 地球温暖化防止のための取組みについて >



性別にみると、『男性』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が69.3%で最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、『女性』では「省エネ・節電行動の促進」が67.4%で最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに、いずれも「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに『3年未満』では「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」が、『3年以上～10年未満』では「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地球温暖化防止のための取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	再生可能エネルギー設備の導入	電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	省エネ・節電行動の促進	CO ₂ 吸収源としての森林整備の推進	地球温暖化に関する情報の提供	地球温暖化防止に関する環境学習の充実	その他	無回答
全体		1,522	64.3	47.2	66.0	44.9	26.7	24.2	1.8	5.0
性別	男性	616	69.3	51.3	65.4	46.4	21.4	22.1	2.8	4.2
	女性	858	61.5	44.4	67.4	44.6	30.9	25.8	1.3	4.4
年齢別	20～29歳	104	64.4	55.8	61.5	60.6	25.0	16.3	1.9	1.9
	30～39歳	184	67.4	55.4	60.3	47.8	25.5	23.4	2.7	2.2
	40～49歳	201	70.1	56.7	62.7	53.2	19.9	21.9	3.5	1.5
	50～59歳	254	66.5	51.6	67.7	45.3	29.9	25.6	1.6	2.0
	60～69歳	373	64.3	45.3	70.2	44.5	26.5	25.2	1.1	4.6
	70歳以上	360	59.4	35.3	68.6	36.4	30.3	26.9	1.7	8.9
職業別	農林漁業	77	67.5	35.1	67.5	40.3	23.4	22.1	3.9	7.8
	商工業、サービス業、自由業など	198	62.6	49.5	66.7	46.5	24.2	23.7	1.0	5.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	66.4	56.4	64.1	50.0	25.7	22.9	2.3	2.3
	主婦・主夫	356	65.7	39.6	70.2	43.8	30.6	26.4	0.8	3.9
	無職	271	61.6	41.7	66.4	39.5	27.7	26.6	2.6	6.3
圏域別	高松圏域	710	65.1	48.5	64.5	43.2	26.3	24.6	2.1	5.1
	東讃圏域	150	64.7	40.0	70.0	52.0	26.0	24.7	0.0	4.7
	小豆圏域	41	58.5	31.7	68.3	39.0	31.7	22.0	0.0	9.8
	中讃圏域	407	63.1	47.7	65.1	47.9	26.5	22.6	2.5	4.7
	西讃圏域	214	65.0	50.0	69.2	41.1	27.6	25.7	1.4	4.7
居住年数別	3年未満	98	66.3	65.3	58.2	55.1	19.4	18.4	2.0	3.1
	3年以上～10年未満	220	72.7	50.0	66.8	48.6	24.5	20.0	1.8	2.7
	10年以上～20年未満	225	64.4	48.0	65.8	51.1	26.2	24.0	4.0	1.8
	20年以上	935	62.8	44.9	67.4	42.4	28.4	26.1	1.4	5.3

(7) 森林整備と都市緑化のための取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

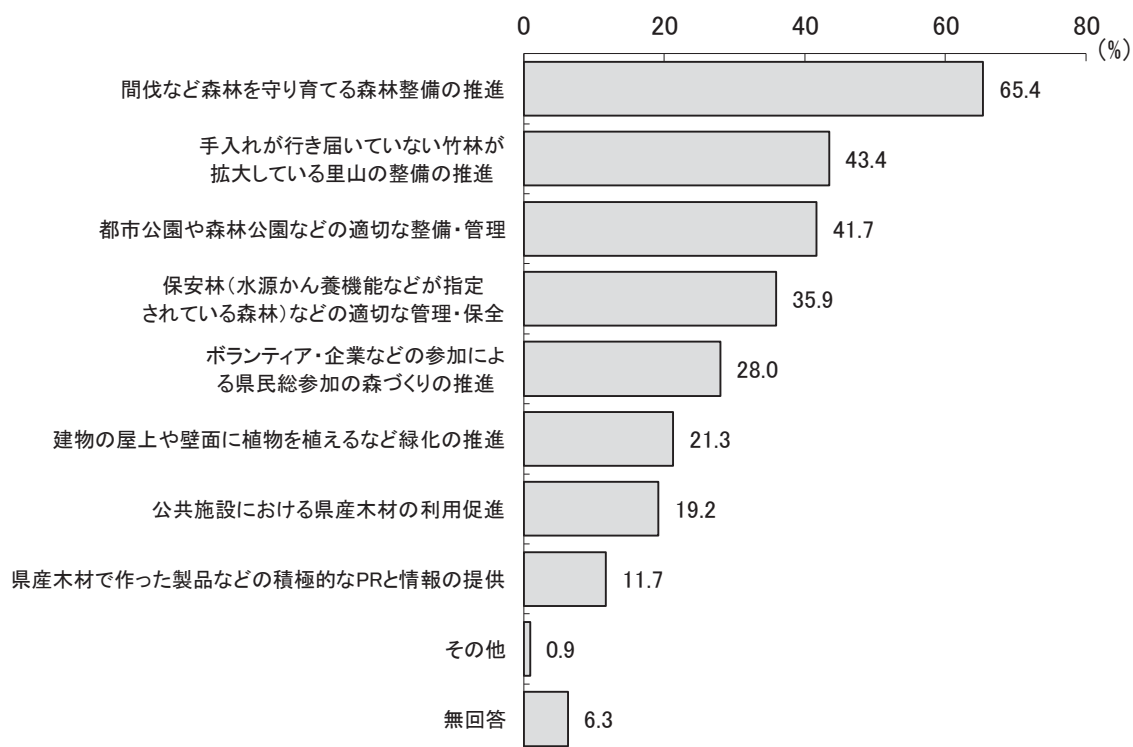
【問 18-2】 森林整備と都市緑化のための取組みについて

[回答者数=1,522]

1 間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	65.4%
2 保安林(水源かん養機能などが指定されている森林)などの適切な管理・保全	35.9%
3 ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	28.0%
4 公共施設における県産木材の利用促進	19.2%
5 県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.7%
6 都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	41.7%
7 建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	21.3%
8 手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進	43.4%
9 その他()	0.9%
(無回答)	6.3%

森林整備と都市緑化のための取組みについては、「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が65.4%と6割を超え最も高く、次いで「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が43.4%、「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が41.7%などとなっている。

＜ 森林整備と都市緑化のための取組みについて ＞



性別にみると、男女とも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が67.4%、『女性』が64.7%となっている。これに、『男性』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が、『女性』では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、特に『50～59歳』では7割を超えている。これに、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が続いている。

職業別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、これに『農林漁業』、『無職』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が、その他の職業では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、『小豆圏域』を除く全ての圏域で6割を超えている。これに、『高松圏域』、『西讃圏域』では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が、その他の圏域では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割を超え最も高く、これに『20年以上』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が、その他の居住年数では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
森林整備と都市緑化のための取組みについて

(単位：%)

区分		回答者数(人)	間伐など森林の推進	全伐など森林を守り育てる森林	保安林(水源かん養機能などが指定されている森林)などの適切な管理・保全	県民総参加の森づくりの推進	ボランティア・企業などの参加による	公共施設における県産木材の利	用促進	極的なPRと情報の提供	県産木材で作った製品などの積	都市公園や森林公園などの適切	な整備・管理	建物の上や壁面に植物を植え	るなど緑化の推進	拡大している里山の整備の推進	手入れが行き届いていない竹林が	その他	無回答
全体		1,522	65.4	35.9	28.0	19.2	11.7	41.7	21.3	43.4	0.9	6.3							
性別	男性	616	67.4	39.3	28.2	20.6	11.5	39.1	19.5	45.9	1.0	4.7							
	女性	858	64.7	34.1	28.3	18.3	11.8	43.6	23.2	42.5	0.9	6.3							
年齢別	20～29歳	104	64.4	29.8	30.8	20.2	7.7	61.5	31.7	38.5	1.0	1.9							
	30～39歳	184	65.2	37.5	28.8	13.6	13.0	50.5	31.5	38.6	1.1	2.2							
	40～49歳	201	68.2	38.3	27.9	16.9	11.4	46.8	26.9	42.8	1.0	2.5							
	50～59歳	254	71.7	41.7	24.8	20.5	9.4	42.1	21.7	49.6	1.6	2.4							
	60～69歳	373	67.3	39.1	31.9	18.2	12.1	35.9	15.8	46.6	0.0	6.7							
	70歳以上	360	59.7	30.0	25.8	23.3	13.1	34.4	17.2	42.8	1.4	11.1							
職業別	農林漁業	77	59.7	32.5	22.1	28.6	18.2	29.9	13.0	50.6	2.6	9.1							
	商工業、サービス業、自由業など	198	69.7	39.4	25.8	21.2	11.1	39.9	19.7	39.4	0.5	6.1							
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	69.5	39.1	28.8	17.0	12.0	46.3	25.4	45.0	0.7	2.5							
	主婦・主夫	356	61.5	34.6	30.9	19.1	11.0	45.5	19.4	43.3	0.8	5.9							
	無職	271	64.2	32.5	27.3	20.7	10.7	33.2	20.7	44.6	1.5	9.2							
圏域別	高松圏域	710	66.2	33.1	28.6	19.0	10.4	43.1	24.9	41.5	1.0	6.2							
	東讃圏域	150	66.0	40.7	33.3	13.3	8.7	41.3	16.0	50.0	0.0	6.7							
	小豆圏域	41	58.5	43.9	19.5	24.4	9.8	24.4	9.8	46.3	0.0	14.6							
	中讃圏域	407	64.9	35.9	27.5	18.7	15.5	39.1	21.9	43.5	1.5	5.9							
	西讃圏域	214	64.5	40.2	24.8	23.8	11.2	45.3	14.0	44.4	0.5	5.6							
居住年数別	3年未満	98	63.3	43.9	25.5	12.2	11.2	50.0	37.8	36.7	1.0	2.0							
	3年以上～10年未満	220	66.4	31.4	30.9	16.4	12.7	50.9	30.0	39.5	0.9	2.7							
	10年以上～20年未満	225	68.9	36.0	21.8	21.8	12.9	45.8	23.6	42.7	1.3	4.0							
	20年以上	935	65.2	36.8	29.5	20.1	11.1	37.8	17.6	46.2	0.9	7.0							

(8) ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

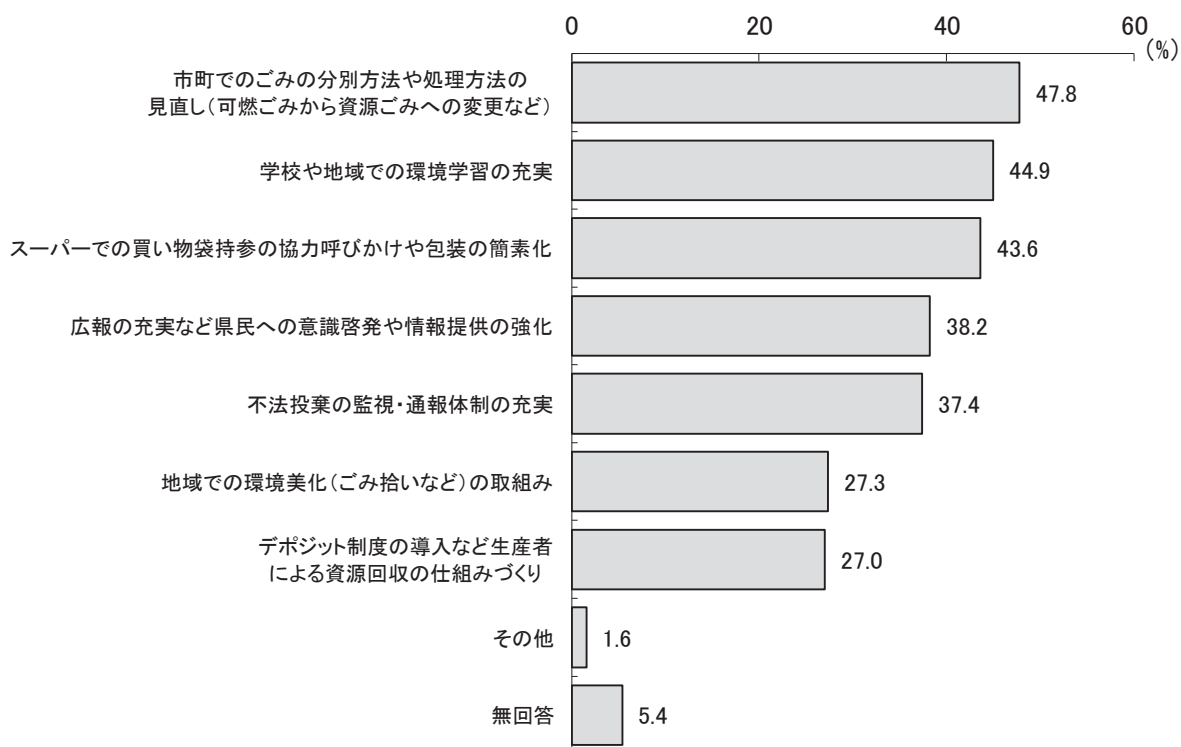
【問 18-3】 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて

[回答者数=1,522]

1 広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化	38.2%
2 学校や地域での環境学習の充実	44.9%
3 市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへの変更など)	47.8%
4 デポジット制度の導入など生産者による資源回収の仕組みづくり	27.0%
5 スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	43.6%
6 地域での環境美化(ごみ拾いなど)の取組み	27.3%
7 不法投棄の監視・通報体制の充実	37.4%
8 その他()	1.6%
(無回答)	5.4%

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについては、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)」が47.8%と半数近くを占め最も高く、次いで「学校や地域での環境学習の充実」が44.9%、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が43.6%などとなっている。

く ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて



性別にみると、『男性』では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」、「学校や地域での環境学習の充実」が同率で最も高く、これに、「不法投棄の監視・通報体制の充実」が続いている。また、『女性』では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が最も高く、これに、『20～29歳』では「学校や地域での環境学習の充実」が、『70歳以上』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。また、『30～39歳』、『40～49歳』では「学校や地域での環境学習の充実」が半数を超え最も高く、これに、『30～39歳』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率で、『40～49歳』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。一方、『50～59歳』、『60～69歳』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が半数を超え最も高く、これに、『50～59歳』では「学校や地域での環境学習の充実」が、『60～69歳』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が半数を超え最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。また、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校や地域での環境学習の充実」が半数を超え最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。一方、その他の職業では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに『農林漁業』、『主婦・主夫』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が、『無職』では「広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「学校や地域での環境学習の充実」が最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。また、『東讃圏域』では「学校や地域での環境学習の充実」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率で最も高くなっている。一方、その他の圏域では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに『小豆圏域』では「広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化」が、『中讃圏域』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が、『西讃圏域』では「学校や地域での環境学習の充実」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「学校や地域での環境学習の充実」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率で最も高くなっている。また、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「学校や地域での環境学習の充実」が最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。一方、『20年以上』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて

(単位:%)

区分	回答者数(人)	広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化	学校や地域での環境学習の充実	市町での分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)	デポジット制度の導入など生産者による資源回収の仕組みづくり	力呼びかけや包装の簡素化	スーパーでの買い物袋持参の協力	地域での環境美化(ごみ拾いなど)の取組み	実不法投棄の監視・通報体制の充実	その他	無回答
全体	1,522	38.2	44.9	47.8	27.0	43.6	27.3	37.4	1.6	5.4	
性別	男性	616	39.3	47.2	47.2	27.1	39.1	30.7	40.4	1.6	4.1
	女性	858	38.0	43.5	48.8	26.9	48.5	25.8	35.5	1.5	5.1
年齢別	20～29歳	104	29.8	51.0	47.1	29.8	55.8	28.8	38.5	1.9	1.9
	30～39歳	184	32.1	51.1	50.0	24.5	50.0	26.1	39.1	3.3	2.2
	40～49歳	201	36.3	61.2	44.3	32.8	47.3	21.9	37.8	0.5	2.0
	50～59歳	254	44.9	50.4	51.2	27.6	39.8	22.4	42.5	2.4	2.0
	60～69歳	373	37.0	38.1	51.2	31.6	38.9	35.1	38.1	0.8	4.3
	70歳以上	360	42.8	35.6	44.4	19.2	46.1	27.8	32.8	1.4	10.3
職業別	農林漁業	77	32.5	39.0	49.4	22.1	46.8	32.5	33.8	3.9	7.8
	商工業、サービス業、自由業など	198	31.3	45.5	49.0	25.8	50.5	24.7	37.9	1.0	5.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	38.9	52.3	49.6	30.2	41.8	29.1	42.0	1.1	2.3
	主婦・主夫	356	40.4	41.9	49.2	23.6	47.5	28.4	34.0	1.7	4.5
	無職	271	43.2	37.3	44.3	27.7	41.7	25.5	35.1	1.8	7.0
圏域別	高松圏域	710	37.9	45.9	45.1	27.3	42.3	28.3	39.0	1.7	5.8
	東讃圏域	150	36.7	46.7	44.0	28.0	46.7	32.7	30.7	1.3	5.3
	小豆圏域	41	39.0	36.6	58.5	29.3	31.7	26.8	24.4	0.0	9.8
	中讃圏域	407	37.3	42.8	51.4	27.3	45.0	24.8	38.1	2.2	4.9
	西讃圏域	214	42.1	46.3	50.5	24.3	45.8	25.2	37.9	0.5	4.2
居住年数別	3年未満	98	30.6	52.0	45.9	24.5	52.0	30.6	39.8	2.0	2.0
	3年以上～10年未満	220	42.3	54.1	46.4	29.5	40.9	25.9	38.6	2.7	2.3
	10年以上～20年未満	225	38.2	48.4	44.9	28.4	43.1	24.4	43.1	0.9	3.6
	20年以上	935	38.5	41.6	49.7	26.4	44.9	28.8	35.9	1.4	5.7

(9) 生物多様性の保全の取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

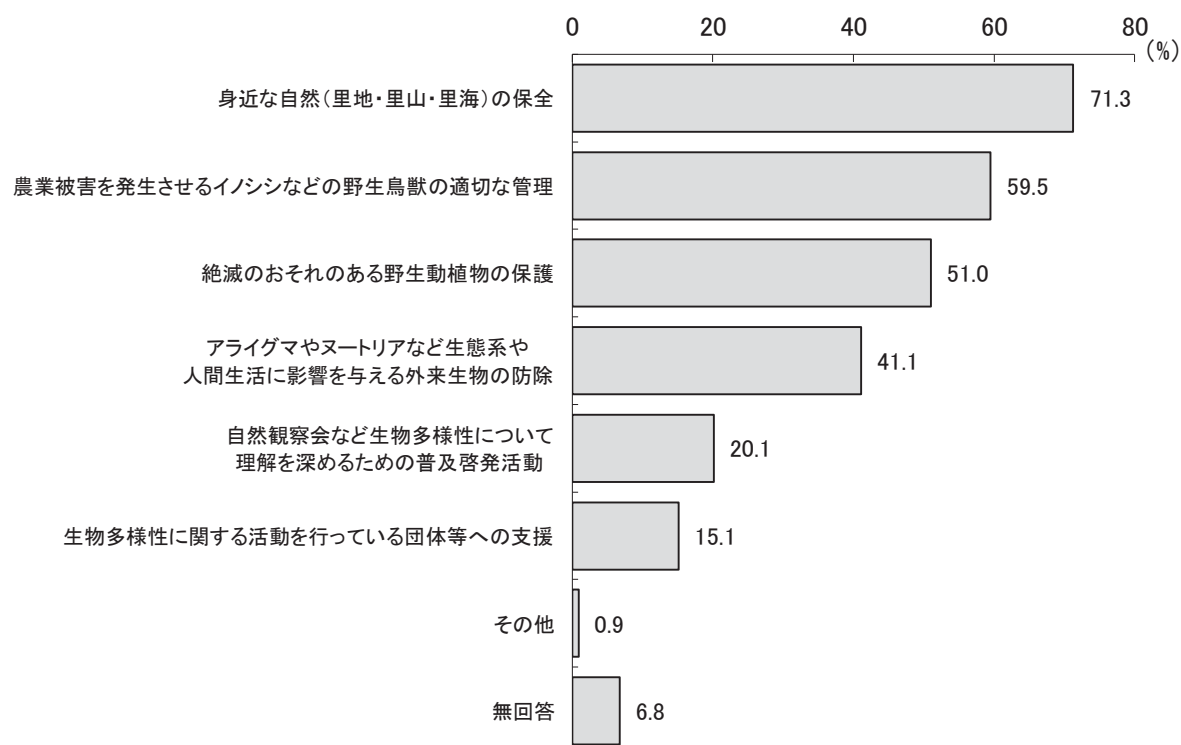
【問 18-4】 生物多様性の保全の取組みについて

[回答者数=1,522]

1 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	51.0%
2 身近な自然（里地・里山・里海）の保全	71.3%
3 アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	41.1%
4 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	59.5%
5 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	20.1%
6 生物多様性に関する活動を行っている団体等への支援	15.1%
7 その他（ （無回答）	0.9% 6.8%

生物多様性の保全の取組みについては、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が71.3%と7割を超え最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が59.5%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が51.0%などとなっている。

＜ 生物多様性の保全の取組みについて ＞



性別にみると、男女とも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が7割を超え最も高く、その比率は『男性』が73.7%、『女性』が70.6%となっている。これに、男女とも「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6割を超え最も高く、特に『30～39歳』では8割を超えている。これに、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が7割を超え最も高く、これに「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が続いている。その他の職業では、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6割を超え最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では7割を超えている。これに、いずれも「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が7割を超え最も高く、これに「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が続いている。また、『西讃圏域』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」、「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が同率で最も高く、これに「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が続いている。一方、その他の圏域では、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が最も高く、これに「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6割を超え最も高く、特に『3年未満』では8割を超えている。これに、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
生物多様性の保全の取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	絶滅のおそれのある野生動物の保護	身近な自然(里地・里山・里海)の保全	除人生活に影響を与える外来生物の防	アライグマやヌートリアなど生態系や	農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	生物多様性に関する活動を行っている団体等への支援	その他	無回答
全体		1,522	51.0	71.3	41.1	59.5	20.1	15.1	0.9	6.8	
性別	男性	616	49.4	73.7	48.5	61.5	17.9	12.3	1.0	5.2	
	女性	858	52.8	70.6	36.0	58.9	22.5	17.6	0.8	6.6	
年齢別	20～29歳	104	70.2	73.1	37.5	54.8	22.1	24.0	0.0	1.9	
	30～39歳	184	62.0	82.1	38.0	53.8	19.6	15.2	0.5	1.6	
	40～49歳	201	60.2	78.6	44.8	58.7	26.9	12.4	0.5	1.5	
	50～59歳	254	55.1	77.2	46.5	59.1	18.9	15.7	1.2	3.1	
	60～69歳	373	44.5	69.4	41.3	65.7	23.9	15.0	1.3	6.2	
	70歳以上	360	39.4	62.2	38.9	60.6	14.4	14.7	0.8	13.6	
職業別	農林漁業	77	26.0	62.3	45.5	71.4	18.2	10.4	2.6	7.8	
	商工業、サービス業、自由業など	198	53.5	68.2	38.4	63.6	17.2	13.6	0.5	7.1	
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	58.2	79.3	45.0	58.4	23.8	15.0	0.4	2.0	
	主婦・主夫	356	50.3	70.8	35.7	56.7	22.5	18.8	0.8	7.6	
	無職	271	43.5	64.6	42.8	62.7	15.5	14.4	1.8	10.0	
圏域別	高松圏域	710	51.4	73.8	40.3	56.9	19.7	16.5	0.8	6.6	
	東讃圏域	150	49.3	66.0	48.7	62.0	19.3	13.3	0.7	7.3	
	小豆圏域	41	36.6	68.3	53.7	70.7	12.2	4.9	0.0	9.8	
	中讃圏域	407	53.3	71.3	36.1	58.0	23.6	16.0	1.5	7.1	
	西讃圏域	214	49.1	67.3	45.3	67.3	16.8	12.1	0.5	5.6	
居住年数別	3年未満	98	66.3	80.6	43.9	50.0	15.3	16.3	1.0	4.1	
	3年以上～10年未満	220	62.3	75.9	40.9	55.9	22.3	14.5	0.0	2.7	
	10年以上～20年未満	225	53.3	77.3	43.6	60.0	20.9	17.8	0.4	3.1	
	20年以上	935	46.6	69.0	40.7	62.1	20.5	14.9	1.2	7.6	

(10) 瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

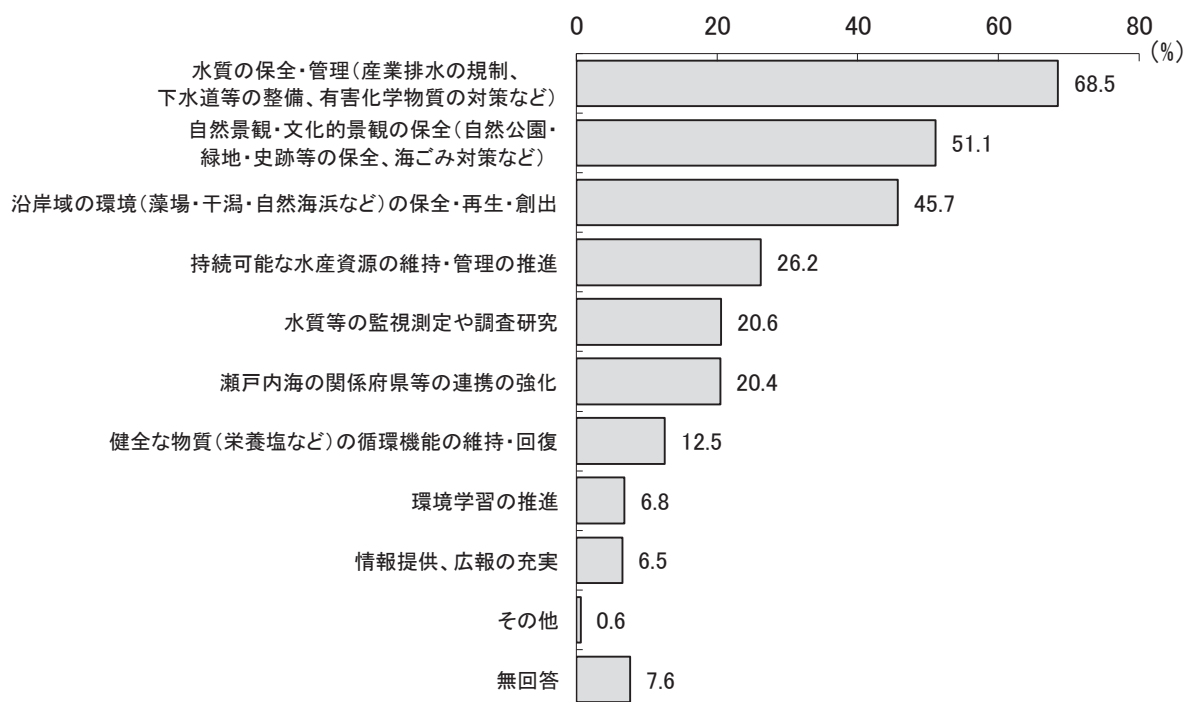
【問 18-5】 瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて

[回答者数=1,522]

1	沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	45.7%
2	水質の保全・管理 （産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）	68.5%
3	自然景観・文化的景観の保全 （自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）	51.1%
4	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	26.2%
5	健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	12.5%
6	水質等の監視測定や調査研究	20.6%
7	瀬戸内海の関係府県等の連携の強化	20.4%
8	情報提供、広報の充実	6.5%
9	環境学習の推進	6.8%
10	その他（ （無回答）	0.6% 7.6%

瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについては、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が68.5%と7割近くを占め最も高く、次いで「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が51.1%、「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が45.7%などとなっている。

＜ 瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて ＞



性別にみると、男女とも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が69.0%、『女性』が69.0%となっている。これに、男女とも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が半数を超え最も高く、特に『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では7割を超えている。これに、『50～59歳』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が、その他の年齢では、いずれも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

職業別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が半数を超え最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では7割を超えている。これに、いずれも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が6割を超え最も高く、これに『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が6割を超え最も高く、特に『20年以上』を除く全ての居住年数で7割を超えている。これに、いずれも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて

(単位: %)

区分		回答者数(人)	沿岸域の環境(藻場・干潟・自然海浜など)の保全・再生・創出	水質の保全・管理(産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など)	自然景観・文化的景観の保全(自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など)	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	健全な物質(栄養塩など)の循環機能の維持・回復	水質等の監視測定や調査研究	瀬戸内海の関係府県等の連携の強化	情報提供、広報の充実	環境学習の推進	その他	無回答
全体		1,522	45.7	68.5	51.1	26.2	12.5	20.6	20.4	6.5	6.8	0.6	7.6
性別	男性	616	49.5	69.0	49.7	28.4	13.1	19.8	21.3	4.7	5.8	1.1	6.0
	女性	858	43.4	69.0	52.9	24.9	12.2	21.3	20.6	7.6	7.6	0.2	7.6
年齢別	20～29歳	104	47.1	74.0	58.7	29.8	17.3	18.3	19.2	6.7	7.7	0.0	2.9
	30～39歳	184	40.2	73.4	61.4	27.2	17.4	23.9	12.5	8.2	8.7	0.0	2.7
	40～49歳	201	44.8	76.6	52.7	27.9	16.9	23.4	19.4	8.0	9.0	0.5	2.0
	50～59歳	254	58.3	75.2	50.0	27.2	15.0	18.9	20.9	6.3	7.1	1.2	2.8
	60～69歳	373	49.1	65.7	52.3	26.3	8.3	20.9	23.3	4.8	5.9	0.8	7.5
	70歳以上	360	36.9	59.7	44.7	24.2	9.4	19.2	24.2	6.1	5.6	0.6	15.0
職業別	農林漁業	77	31.2	58.4	41.6	33.8	5.2	26.0	28.6	1.3	7.8	0.0	11.7
	商工業、サービス業、自由業など	198	46.0	67.7	53.0	23.7	11.1	19.7	19.2	6.6	6.1	0.5	7.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	52.7	75.5	56.8	27.1	15.5	21.3	17.1	7.3	8.2	0.5	2.3
	主婦・主夫	356	42.4	66.6	48.9	27.5	11.5	21.6	24.7	6.5	6.2	0.6	7.9
	無職	271	42.1	63.8	47.2	24.7	10.3	17.7	23.2	5.5	5.5	1.1	11.8
圏域別	高松圏域	710	44.9	69.0	51.8	24.2	12.7	21.4	21.5	7.3	6.6	0.7	7.2
	東讃圏域	150	46.7	66.7	44.7	29.3	12.7	19.3	15.3	4.7	10.7	0.7	10.0
	小豆圏域	41	56.1	63.4	48.8	24.4	12.2	14.6	12.2	9.8	7.3	0.0	9.8
	中讃圏域	407	46.2	68.1	54.1	27.3	12.8	18.9	19.4	7.1	5.2	0.5	7.4
	西讃圏域	214	44.4	69.6	47.7	29.0	11.7	22.9	23.8	3.3	7.9	0.5	7.5
居住年数別	3年未満	98	51.0	79.6	51.0	29.6	15.3	24.5	12.2	4.1	2.0	1.0	5.1
	3年以上～10年未満	220	46.4	72.7	53.2	28.6	15.9	22.7	16.4	6.4	9.5	0.0	4.5
	10年以上～20年未満	225	49.3	71.1	53.3	28.9	14.2	21.3	16.9	8.4	8.4	0.0	3.6
	20年以上	935	44.5	66.4	50.9	25.0	11.2	19.6	24.0	6.2	6.4	0.9	8.3

4 瀬戸内国際芸術祭について

(1) 昨年開催した瀬戸内国際芸術祭2013の会場を訪れたか

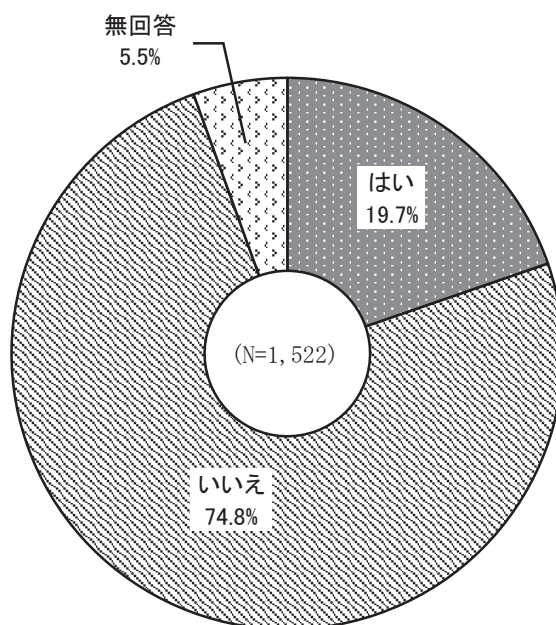
問 20 昨年開催した瀬戸内国際芸術祭2013の会場を訪れましたか。次のどちらか1つを選んでください。

[回答者数=1,522]

1 はい	19.7%
2 いいえ (無回答)	74.8%
	5.5%

昨年開催した瀬戸内国際芸術祭2013の会場を訪れたかについては、「いいえ」が74.8%である一方、「はい」は19.7%となっている。

< 昨年開催した瀬戸内国際芸術祭2013の会場を訪れたか >



性別にみると、男女とも「いいえ」が7割を超え最も高く、その比率は『男性』が78.7%、『女性』が72.6%となっている。

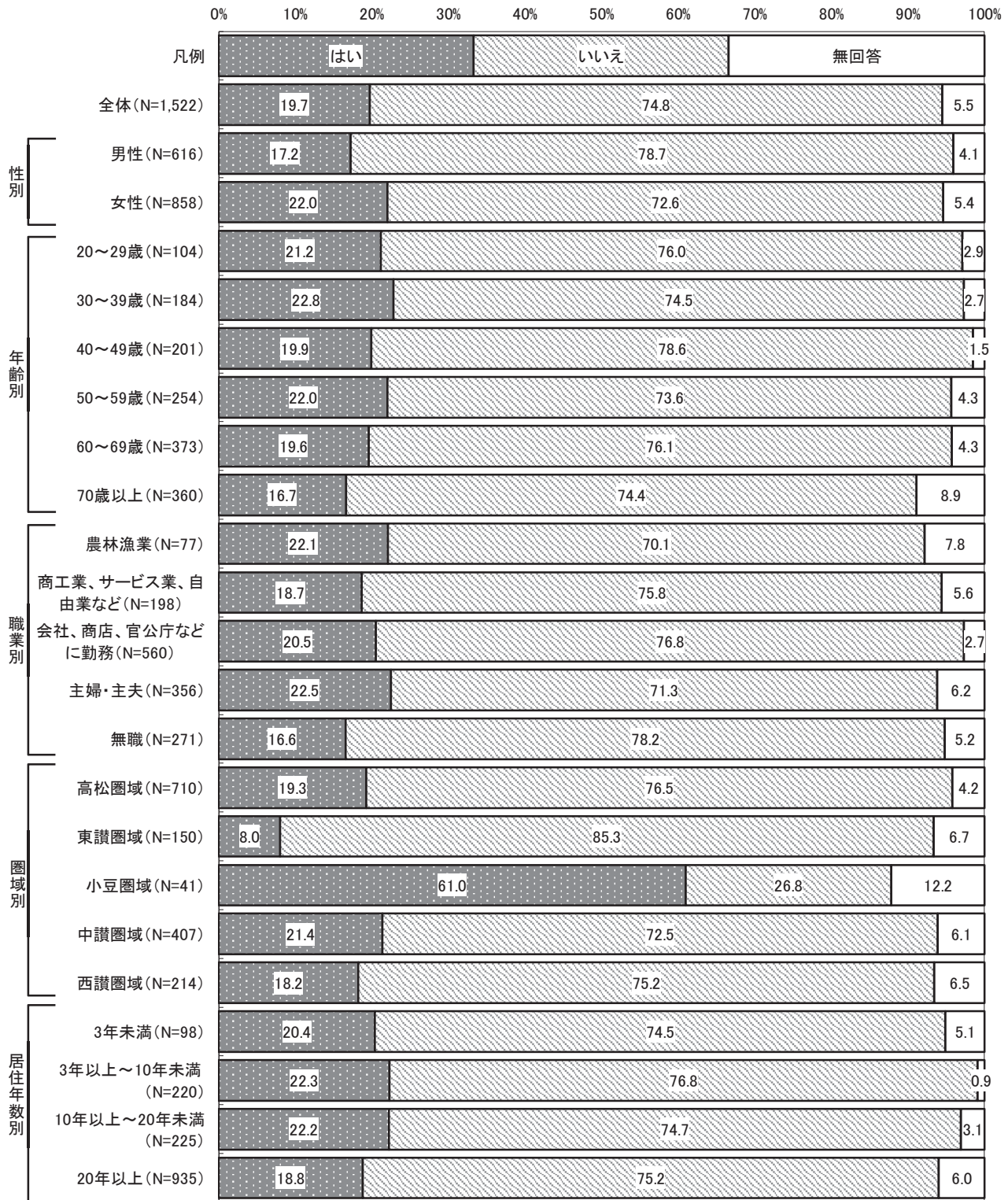
年齢別にみると、いずれも「いいえ」が7割を超え最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「いいえ」が7割を超え最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』は「はい」が6割を超え最も高く、一方、その他の圏域では、いずれも「いいえ」が7割を超え最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「いいえ」が7割を超え最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 昨年開催した瀬戸内国際芸術祭2013の会場を訪れたか



(2) どの会場に訪れたか

<問 20 で「1」と答えた方にお聞きします>

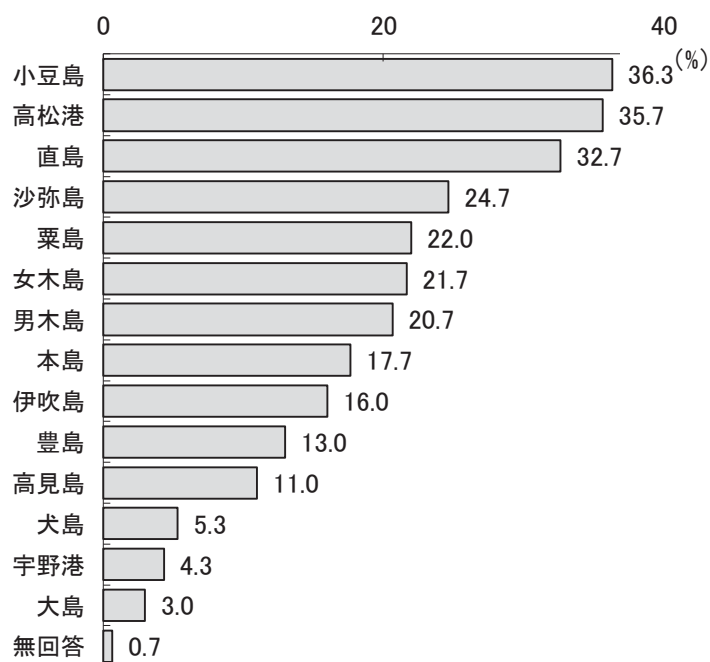
問 21 どの会場に訪れましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=300]

1	直島	32.7%
2	豊島	13.0%
3	女木島	21.7%
4	男木島	20.7%
5	小豆島	36.3%
6	大島	3.0%
7	犬島	5.3%
8	沙弥島	24.7%
9	本島	17.7%
10	高見島	11.0%
11	栗島	22.0%
12	伊吹島	16.0%
13	高松港	35.7%
14	宇野港	4.3%
	(無回答)	0.7%

どの会場に訪れたかは、「小豆島」が 36.3%と 3 割を超え最も高く、次いで「高松港」が 35.7%、「直島」が 32.7%などとなっている。

< どの会場に訪れたか >



性別にみると、『男性』では「小豆島」が40.6%で最も高く、これに「高松港」が続いている。一方、『女性』では「高松港」が35.4%で最も高く、これに「小豆島」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「小豆島」、「高松港」が同率で最も高く、『30～39歳』、『70歳以上』では「直島」が、『50～59歳』、『60～69歳』では「小豆島」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「小豆島」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「高松港」が、『無職』では「直島」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「高松港」が、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「小豆島」が、『中讃圏域』では「沙弥島」が、『西讃圏域』では「栗島」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「小豆島」、「高松港」が同率で最も高く、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「高松港」が、『20年以上』では「小豆島」が最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
どの会場に訪れたか

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	直島	豊島	女木島	男木島	小豆島	大島	犬島	沙弥島	本島	高見島	栗島	伊吹島	高松港	宇野港	無回答	
全体	300	32.7	13.0	21.7	20.7	36.3	3.0	5.3	24.7	17.7	11.0	22.0	16.0	35.7	4.3	0.7	
性別	男性	106	34.0	13.2	22.6	23.6	40.6	2.8	2.8	22.6	14.2	12.3	20.8	14.2	35.8	3.8	0.9
	女性	189	31.2	12.2	21.7	19.6	32.8	3.2	6.9	25.9	19.0	10.1	22.8	17.5	35.4	4.8	0.5
年齢別	20～29歳	22	27.3	13.6	27.3	22.7	31.8	0.0	4.5	13.6	9.1	0.0	13.6	18.2	31.8	0.0	0.0
	30～39歳	42	38.1	9.5	21.4	11.9	35.7	2.4	9.5	33.3	16.7	7.1	11.9	4.8	35.7	9.5	0.0
	40～49歳	40	20.0	12.5	22.5	15.0	32.5	0.0	0.0	22.5	7.5	10.0	27.5	15.0	32.5	2.5	2.5
	50～59歳	56	32.1	10.7	16.1	26.8	33.9	7.1	7.1	26.8	16.1	12.5	26.8	21.4	30.4	3.6	0.0
	60～69歳	73	27.4	19.2	23.3	26.0	39.7	4.1	6.8	26.0	21.9	15.1	28.8	27.4	38.4	2.7	1.4
	70歳以上	60	43.3	8.3	23.3	18.3	36.7	1.7	3.3	21.7	23.3	11.7	13.3	5.0	40.0	6.7	0.0
職業別	農林漁業	17	11.8	11.8	5.9	29.4	35.3	5.9	0.0	5.9	17.6	11.8	11.8	17.6	29.4	0.0	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	37	29.7	10.8	18.9	16.2	37.8	5.4	5.4	24.3	16.2	5.4	32.4	10.8	45.9	5.4	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	115	27.0	13.9	21.7	20.0	36.5	1.7	3.5	24.3	12.2	12.2	24.3	16.5	33.0	3.5	0.0
	主婦・主夫	80	37.5	15.0	22.5	22.5	30.0	3.8	8.8	31.3	28.8	11.3	20.0	20.0	38.8	6.3	1.3
	無職	45	46.7	6.7	31.1	22.2	42.2	2.2	6.7	22.2	11.1	11.1	13.3	13.3	31.1	4.4	0.0
圏域別	高松圏域	137	46.7	15.3	35.0	29.2	36.5	5.8	8.0	24.8	13.1	7.3	11.7	13.9	51.8	6.6	0.7
	東讃圏域	12	25.0	33.3	16.7	25.0	66.7	0.0	0.0	8.3	25.0	0.0	16.7	0.0	58.3	8.3	8.3
	小豆圏域	25	24.0	16.0	8.0	8.0	96.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.0	4.0	0.0
	中讃圏域	87	18.4	10.3	10.3	12.6	23.0	0.0	2.3	39.1	31.0	20.7	27.6	14.9	17.2	1.1	0.0
	西讃圏域	39	23.1	2.6	10.3	15.4	17.9	2.6	5.1	10.3	12.8	12.8	61.5	41.0	12.8	2.6	0.0
居住年数別	3年未満	20	35.0	10.0	20.0	10.0	45.0	5.0	5.0	35.0	15.0	0.0	10.0	25.0	45.0	5.0	0.0
	3年以上～10年未満	49	32.7	12.2	24.5	16.3	32.7	2.0	6.1	24.5	12.2	12.2	16.3	6.1	34.7	4.1	0.0
	10年以上～20年未満	50	34.0	16.0	28.0	26.0	30.0	0.0	4.0	30.0	14.0	12.0	32.0	16.0	38.0	4.0	2.0
	20年以上	176	31.3	11.9	19.9	22.2	36.9	4.0	5.7	22.2	19.9	11.4	22.2	18.2	34.1	4.5	0.6

(3) 芸術祭の会場に訪れた動機

<問 20 で「1」と答えた方にお聞きします>

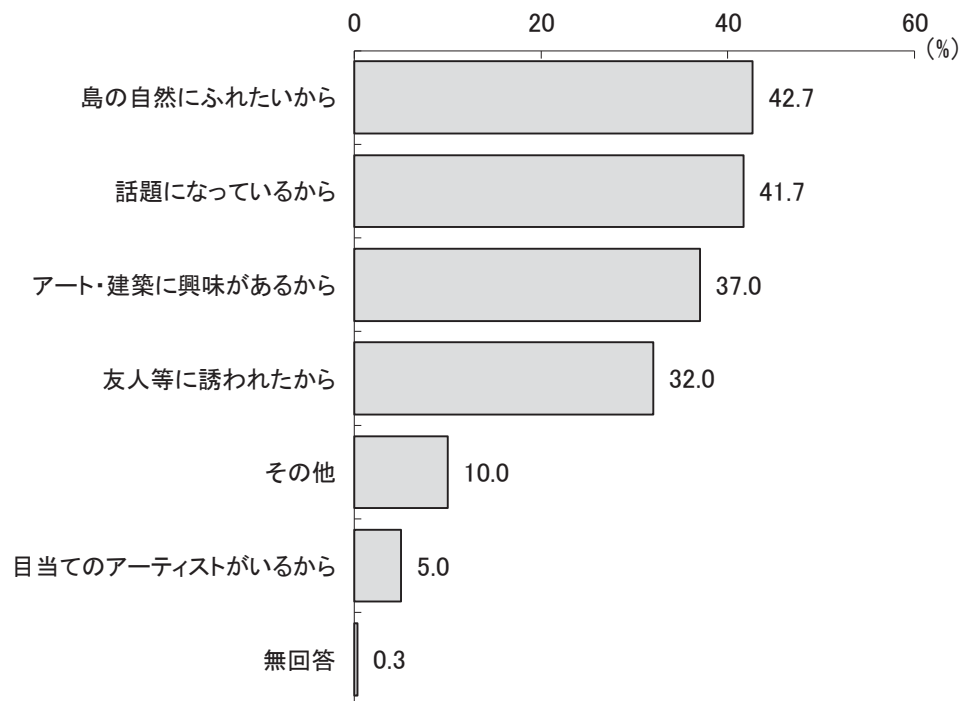
問 22 芸術祭の会場に訪れた動機は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=300]

1	アート・建築に興味があるから	37.0%
2	目当てのアーティストがいるから	5.0%
3	島の自然にふれたいから	42.7%
4	友人等に誘われたから	32.0%
5	話題になっているから	41.7%
6	その他 ()	10.0%
	(無回答)	0.3%

芸術祭の会場に訪れた動機については、「島の自然にふれたいから」が42.7%と4割を超え最も高く、次いで「話題になっているから」が41.7%、「アート・建築に興味があるから」が37.0%などとなっている。

< 芸術祭の会場に訪れた動機 >



性別にみると、『男性』では「話題になっているから」が45.3%で最も高く、これに「島の自然にふれたいから」が続いている。一方、『女性』では「島の自然にふれたいから」が47.6%で最も高く、これに「アート・建築に興味があるから」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「友人等に誘われたから」が、『40～49歳』では「アート・建築に興味があるから」が、『50～59歳』、『60～69歳』では「話題になっているから」が、『70歳以上』では「島の自然にふれたいから」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「話題になっているから」が、『主婦・主夫』、『無職』では「島の自然にふれたいから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「アート・建築に興味があるから」、「島の自然にふれたいから」が同率で最も高く、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「島の自然にふれたいから」が、『小豆圏域』では「アート・建築に興味があるから」が、『西讃圏域』では「話題になっているから」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「友人等に誘われたから」が、『3年以上～10年未満』では「話題になっているから」が、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「島の自然にふれたいから」が最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
芸術祭の会場に訪れた動機

(単位:%)

区分		回答者数(人)	アート・建築に興味があるから	ら目当てのアーティストがいるから	島の自然にふれたいから	友人等に誘われたから	話題になっているから	その他	無回答
全体		300	37.0	5.0	42.7	32.0	41.7	10.0	0.3
性別	男性	106	25.5	6.6	34.9	30.2	45.3	11.3	0.9
	女性	189	43.4	4.2	47.6	33.9	39.7	9.0	0.0
年齢別	20～29歳	22	36.4	4.5	36.4	45.5	31.8	4.5	0.0
	30～39歳	42	28.6	7.1	23.8	35.7	33.3	19.0	0.0
	40～49歳	40	47.5	5.0	30.0	32.5	35.0	15.0	2.5
	50～59歳	56	44.6	5.4	37.5	32.1	46.4	12.5	0.0
	60～69歳	73	35.6	5.5	52.1	26.0	52.1	6.8	0.0
	70歳以上	60	30.0	3.3	61.7	33.3	38.3	3.3	0.0
職業別	農林漁業	17	17.6	11.8	41.2	23.5	52.9	17.6	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	37	32.4	5.4	21.6	35.1	43.2	13.5	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	115	40.9	5.2	35.7	37.4	42.6	12.2	0.0
	主婦・主夫	80	42.5	2.5	58.8	25.0	40.0	3.8	0.0
	無職	45	28.9	6.7	51.1	35.6	37.8	8.9	0.0
圏域別	高松圏域	137	41.6	5.1	41.6	32.1	35.8	4.4	0.0
	東讃圏域	12	33.3	16.7	58.3	16.7	50.0	8.3	8.3
	小豆圏域	25	52.0	4.0	32.0	40.0	48.0	12.0	0.0
	中讃圏域	87	28.7	3.4	47.1	32.2	46.0	13.8	0.0
	西讃圏域	39	30.8	5.1	38.5	30.8	46.2	20.5	0.0
居住年数別	3年未満	20	30.0	5.0	35.0	50.0	35.0	15.0	0.0
	3年以上～10年未満	49	38.8	4.1	28.6	32.7	42.9	12.2	0.0
	10年以上～20年未満	50	48.0	4.0	50.0	28.0	42.0	6.0	2.0
	20年以上	176	34.1	5.7	46.0	31.8	42.0	9.7	0.0

(4) 4年前(2010年)の初回の芸術祭の会場にも訪れたか

<問20で「1」と答えた方にお聞きします>

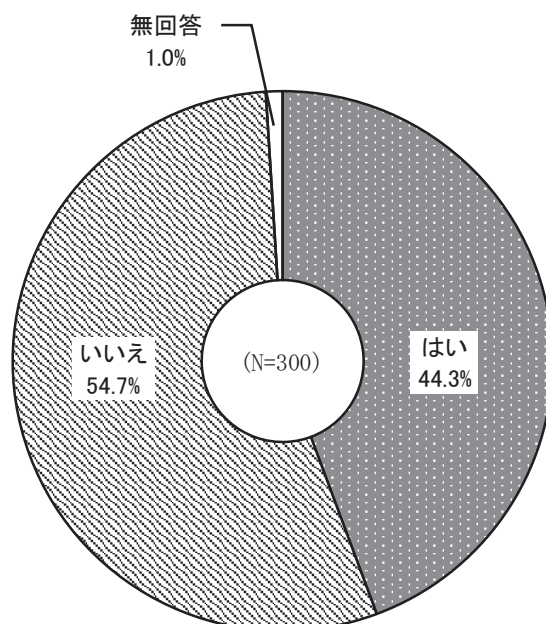
問23 4年前(2010年)の初回の芸術祭の会場にも訪れましたか。次のどちらか1つを選んでください。

[回答者数=300]

1 はい	44.3%
2 いいえ	54.7%
(無回答)	1.0%

4年前(2010年)の初回の芸術祭の会場にも訪れたかについては、「いいえ」が54.7%である一方、「はい」は44.3%となっている。

< 4年前(2010年)の初回の芸術祭の会場にも訪れたか >



性別にみると、男女とも「いいえ」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が54.7%、『女性』が54.5%となっている。

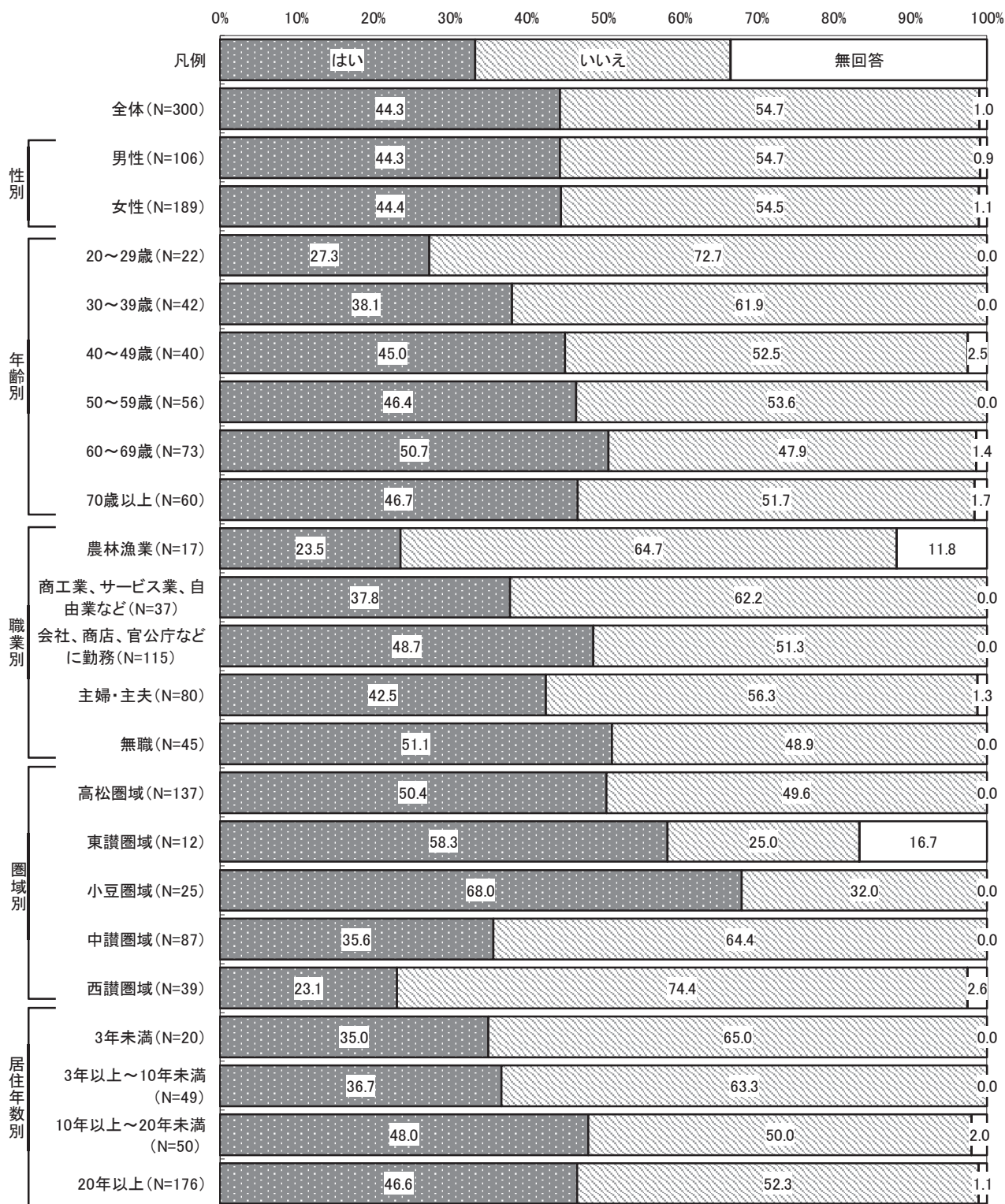
年齢別にみると、『60～69歳』では「はい」が半数を超え最も高くなっている。一方、その他の年齢では、いずれも「いいえ」が半数を超え最も高く、特に『20～29歳』では7割を超えている。

職業別にみると、『無職』では「はい」が半数を超え最も高くなっている。一方、その他の職業では、いずれも「いいえ」が半数を超え最も高く、特に『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では6割を超えている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「はい」が半数を超え最も高く、特に『小豆圏域』では6割を超えている。一方、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「いいえ」が6割を超え最も高く、特に『西讃圏域』では7割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「いいえ」が半数を超え最も高く、特に『3年未満』、『3年以上～10年未満』では6割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
4年前（2010年）の初回の芸術祭の会場にも訪れたか



(5) 瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」を知っているか

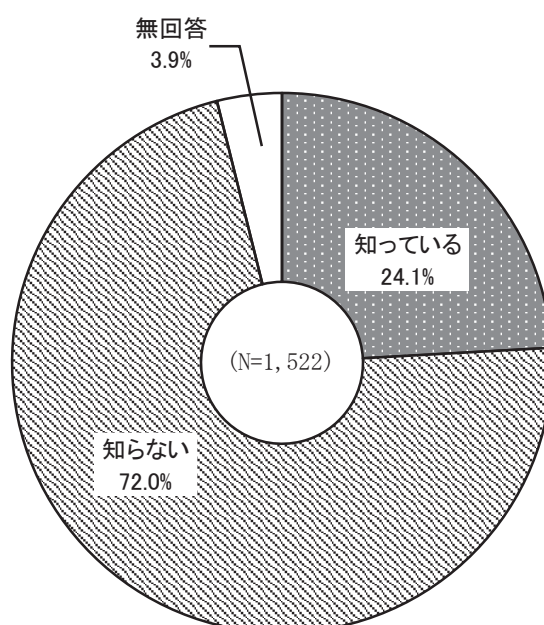
問 24 瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」をご存じですか。次のどちらか 1 つを選んでください。

[回答者数=1,522]

1 知っている	24.1%
2 知らない	72.0%
(無回答)	3.9%

瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」を知っているかについては、「知らない」が 72.0%である一方、「知っている」は 24.1%となっている。

< 瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」を知っているか >



性別にみると、男女とも「知らない」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が77.3%、『女性』が68.9%となっている。

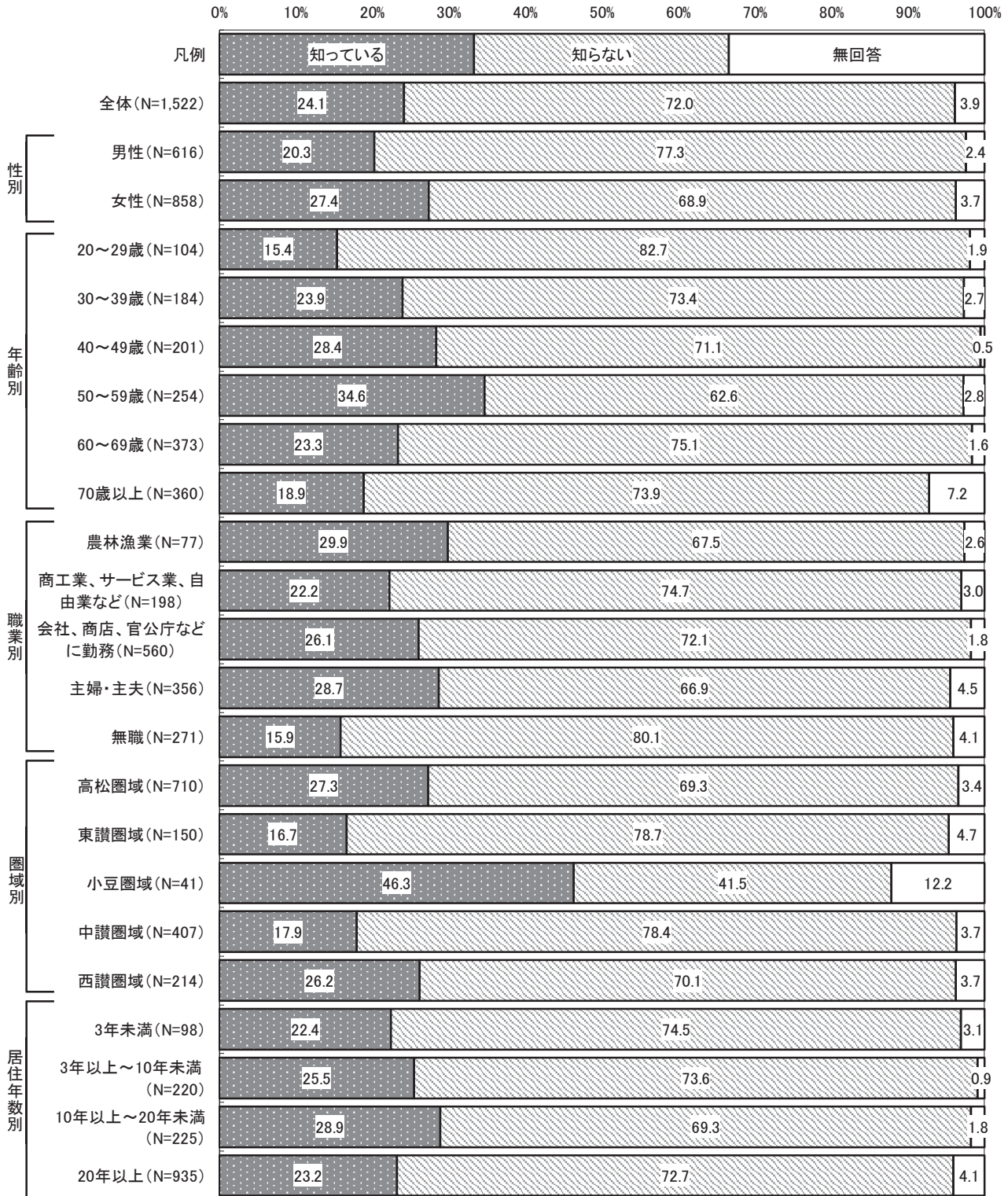
年齢別にみると、いずれも「知らない」が6割を超え最も高く、特に『20～29歳』では8割を超えている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が6割を超え最も高く、特に『無職』では8割を超えている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「知っている」が最も高くなっている。一方、その他の圏域では、いずれも「知らない」が6割を超え最も高く、特に『東讃圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では7割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が6割を超え最も高く、特に『10年以上～20年未満』を除く全ての居住年数で7割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」を知っているか



(6) 瀬戸内国際芸術祭の運営への参加に興味はあるか

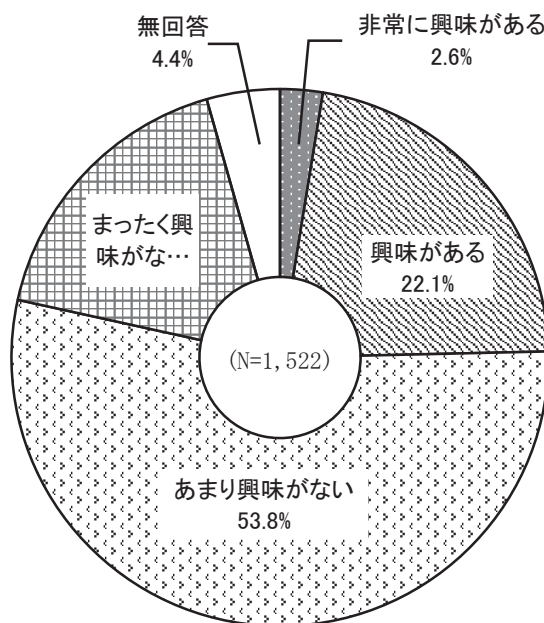
問 25 瀬戸内国際芸術祭の運営にはボランティアの協力が不可欠ですが、瀬戸内国際芸術祭の運営への参加に興味はありますか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,522〕

1 非常に興味がある	2.6%
2 興味がある	22.1%
3 あまり興味がない	53.8%
4 まったく興味がない	17.1%
(無回答)	4.4%

瀬戸内国際芸術祭の運営への参加に興味はあるかについては、「あまり興味がない」「まったく興味がない」を合わせた【興味がない】は70.9%である。一方、「非常に興味がある」「興味がある」を合わせた【興味がある】は24.7%となっている。

< 瀬戸内国際芸術祭の運営への参加に興味はあるか >



性別にみると、男女とも「あまり興味がない」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が54.5%、『女性』が54.0%となっている。また、「まったく興味がない」と「あまり興味がない」を合わせた【興味がない】が、「非常に興味がある」と「興味がある」を合わせた【興味がある】を上回っている。

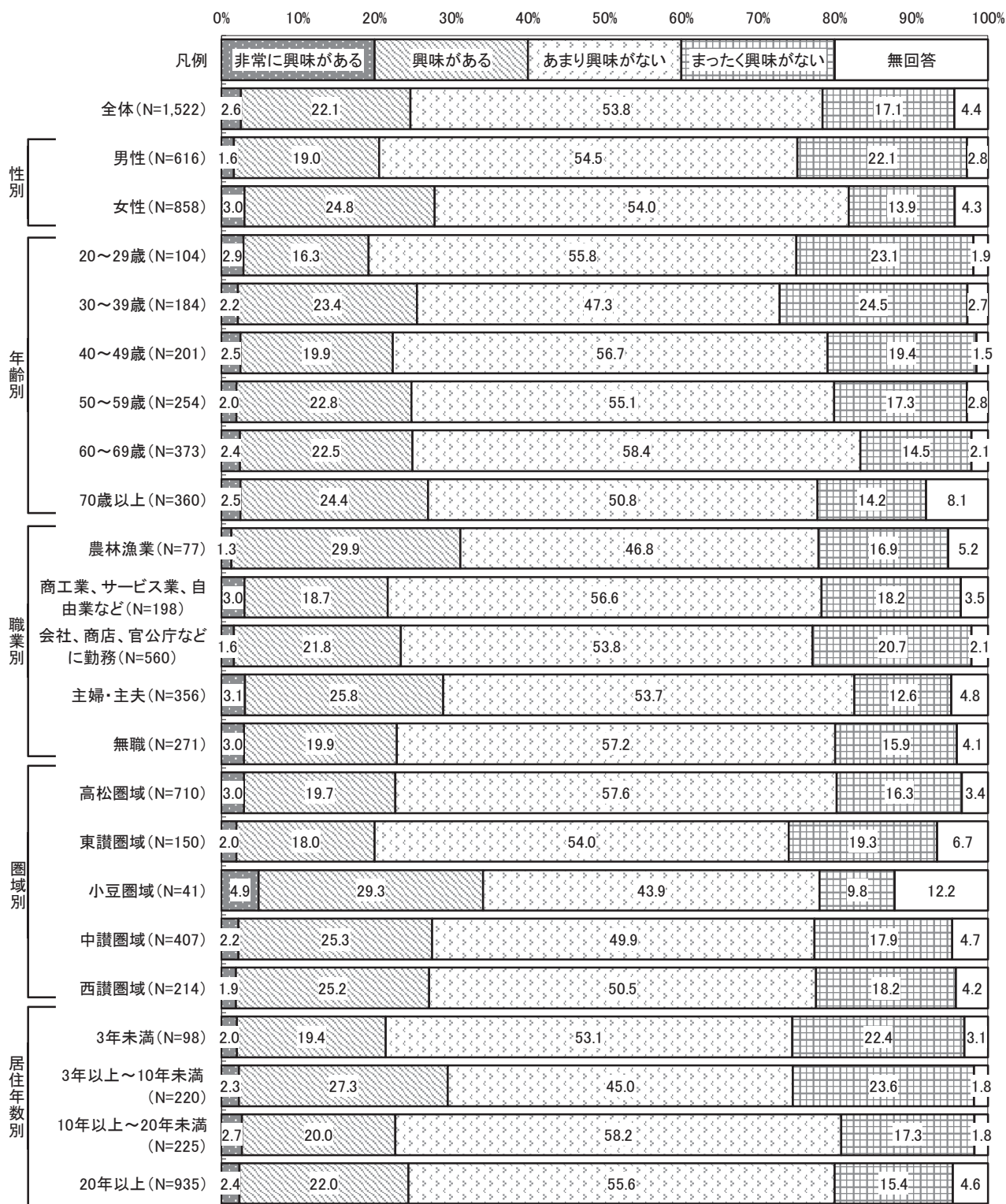
年齢別にみると、いずれも「あまり興味がない」が最も高く、特に『30～39歳』を除く全ての年齢で半数を超えている。また、【興味がない】が【興味がある】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「あまり興味がない」が最も高く、特に『農林漁業』を除く全ての職業で半数を超えている。また、【興味がない】が【興味がある】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「あまり興味がない」が最も高く、特に『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では半数を超えている。また、【興味がない】が【興味がある】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「あまり興味がない」が最も高く、特に『3年以上～10年未満』を除く全ての居住年数で半数を超えている。また、【興味がない】が【興味がある】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内国際芸術祭の運営への参加に興味はあるか



(7) 瀬戸内国際芸術祭の開催は島の再生や地域活性化に役立ったと思うか

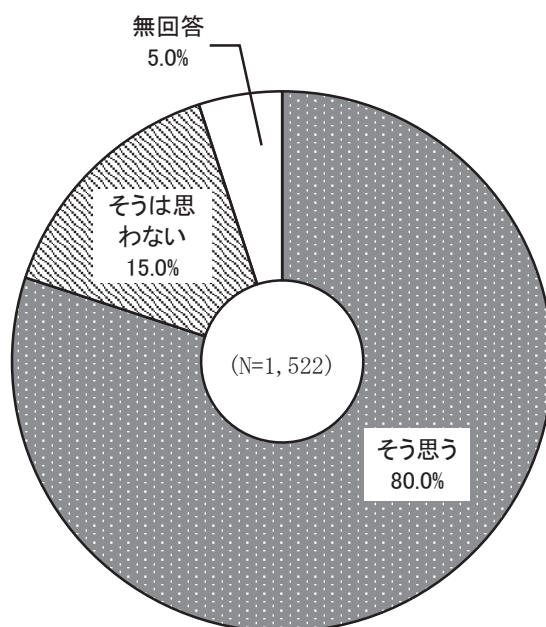
問 26 瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」をテーマに島の再生を目指すという試みで行っています。瀬戸内国際芸術祭の開催は島の再生や地域活性化に役立ったと思いますか。次のどちらか 1 つを選んでください。

〔回答者数=1,522〕

1	そう思う	80.0%
2	そうは思わない	15.0%
	(無回答)	5.0%

瀬戸内国際芸術祭の開催は島の再生や地域活性化に役立ったと思うかについては、「そう思う」が 80.0%と 8 割を占める。一方、「そうは思わない」は 15.0%となっている。

< 瀬戸内国際芸術祭の開催は島の再生や地域活性化に役立ったと思うか >



性別にみると、男女とも「そう思う」が7割を超え最も高く、その比率は『男性』が79.5%、『女性』が81.6%となっている。

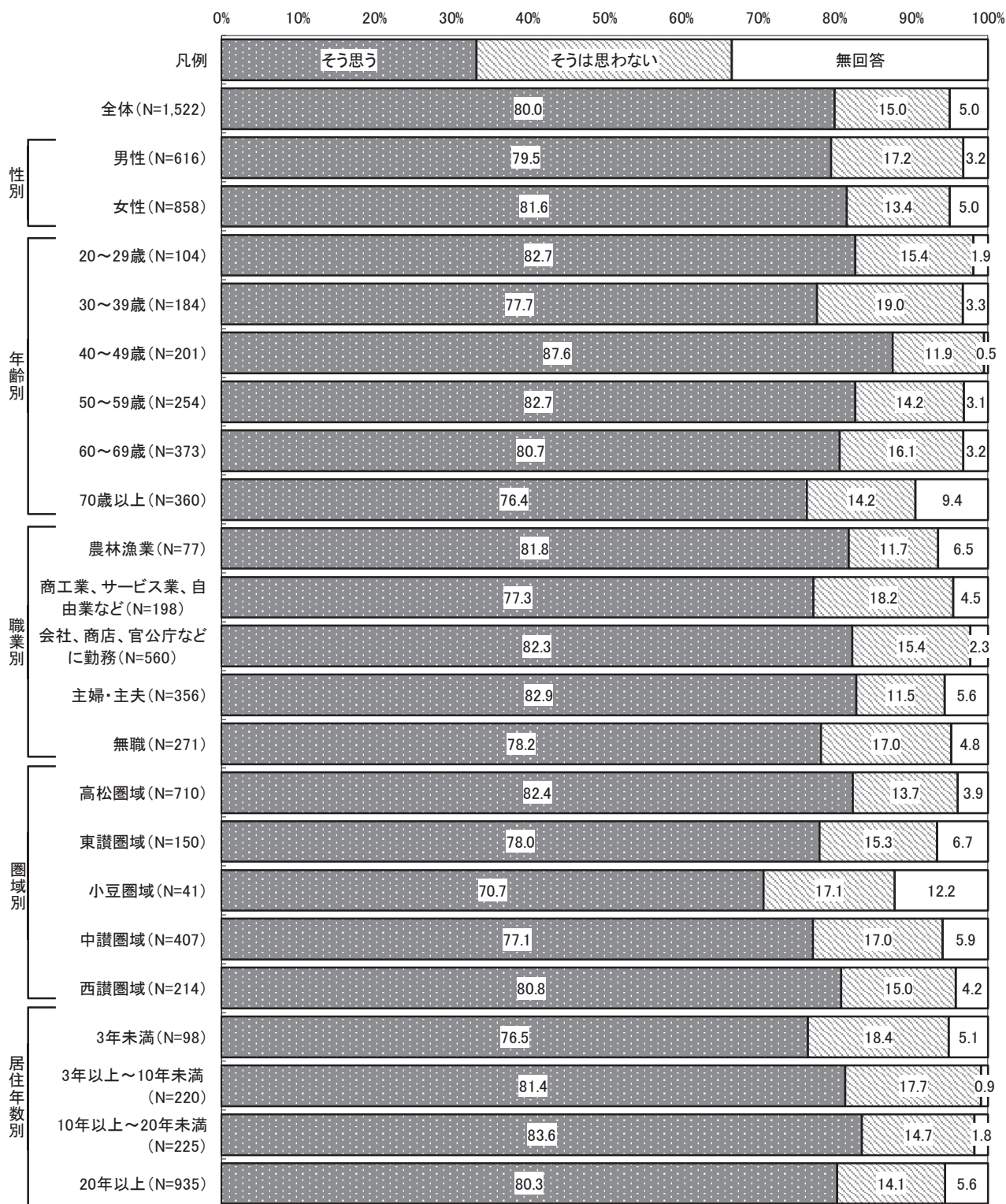
年齢別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では8割を超えている。

職業別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では8割を超えている。

圏域別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『高松圏域』、『西讃圏域』では8割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『3年未満』を除く全ての居住年数では8割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内国際芸術祭の開催は島の再生や地域活性化に役立ったと思うか



(8) 瀬戸内国際芸術祭を通じて香川県について情報発信ができたと思うか

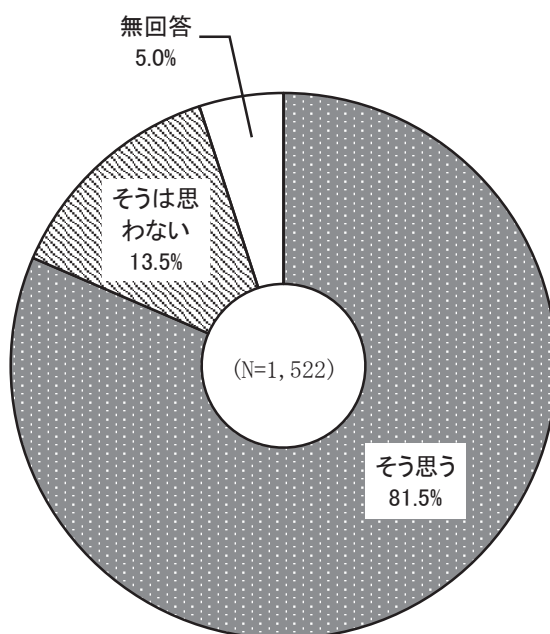
問 27 瀬戸内国際芸術祭を通じて香川県について情報発信ができたと思いますか。次のどちらか1つを選んでください。

[回答者数=1,522]

1	そう思う	81.5%
2	そうは思わない	13.5%
	(無回答)	5.0%

瀬戸内国際芸術祭を通じて香川県について情報発信ができたと思うかについては、「そう思う」が81.5%と8割を占める。一方、「そうは思わない」は13.5%となっている。

< 瀬戸内国際芸術祭を通じて香川県について情報発信ができたと思うか >



性別にみると、男女とも「そう思う」が8割を超え最も高く、その比率は『男性』が80.8%、『女性』が83.2%となっている。

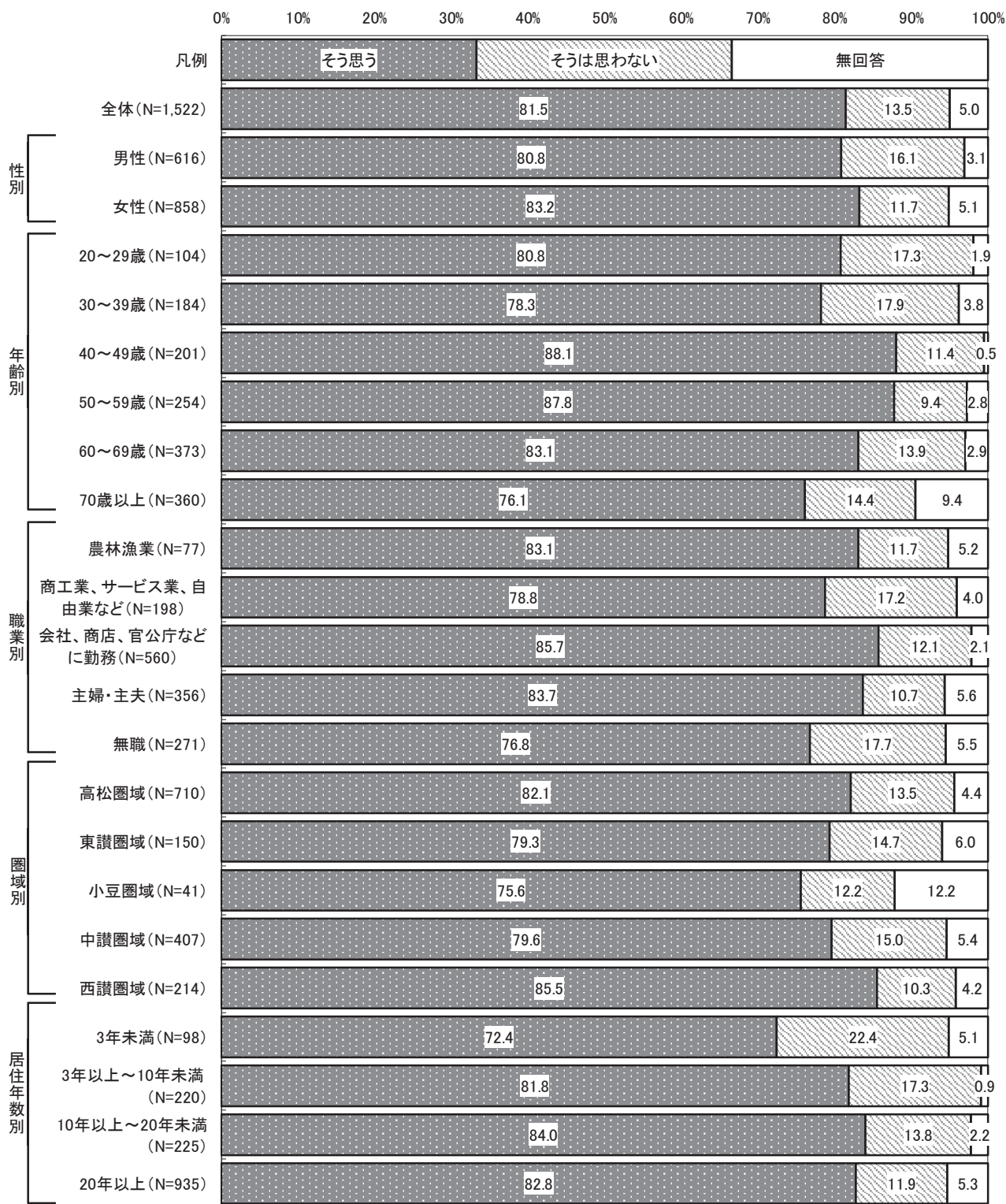
年齢別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では8割を超えている。

職業別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では8割を超えている。

圏域別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『高松圏域』、『西讃圏域』では8割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「そう思う」が7割を超え最も高く、特に『3年未満』を除く全ての居住年数では8割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内国際芸術祭を通じて香川県について情報発信ができたと思うか



(9) 瀬戸内国際芸術祭の次回の開催について

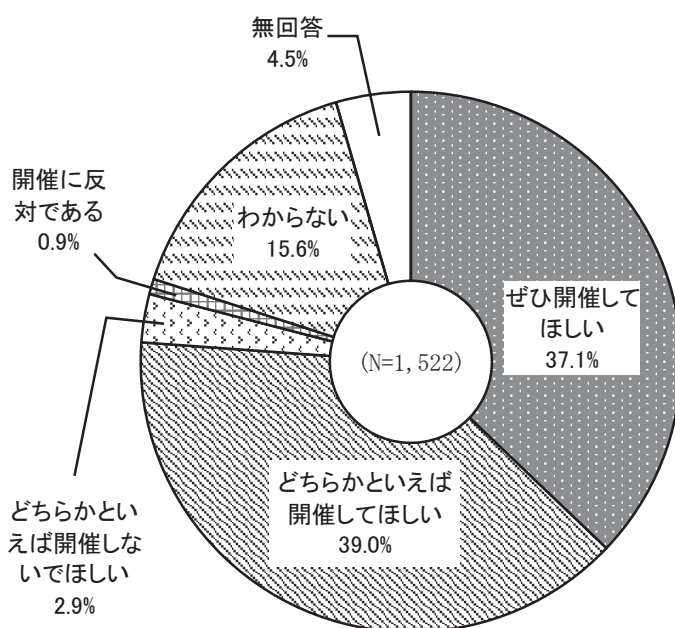
問 28 瀬戸内国際芸術祭の次回の開催についてどのようにお考えですか。次のどちらか1つを選んでください。

〔回答者数=1,522〕

1 ぜひ開催してほしい	37.1%
2 どちらかといえば開催してほしい	39.0%
3 どちらかといえば開催しないでほしい	2.9%
4 開催に反対である	0.9%
5 わからない	15.6%
(無回答)	4.5%

瀬戸内国際芸術祭の次回の開催については、「どちらかといえば開催してほしい」が39.0%と4割近くを占め最も高く、これに「ぜひ開催してほしい」の37.1%を合わせた【開催してほしい】は76.1%と7割を超える。一方、「開催に反対である」は0.9%で、これに「どちらかといえば開催しないでほしい」の2.9%を合わせた【開催しないでほしい】は3.8%となっている。

< 瀬戸内国際芸術祭の次回の開催について >



性別にみると、男女とも「どちらかといえば開催してほしい」が最も高く、その比率は『男性』が38.1%、『女性』が40.7%となっている。また、「ぜひ開催してほしい」と「どちらかといえば開催してほしい」を合わせた【開催してほしい】が、「開催に反対である」と「どちらかといえば開催しないでほしい」を合わせた【開催しないでほしい】を上回っている。

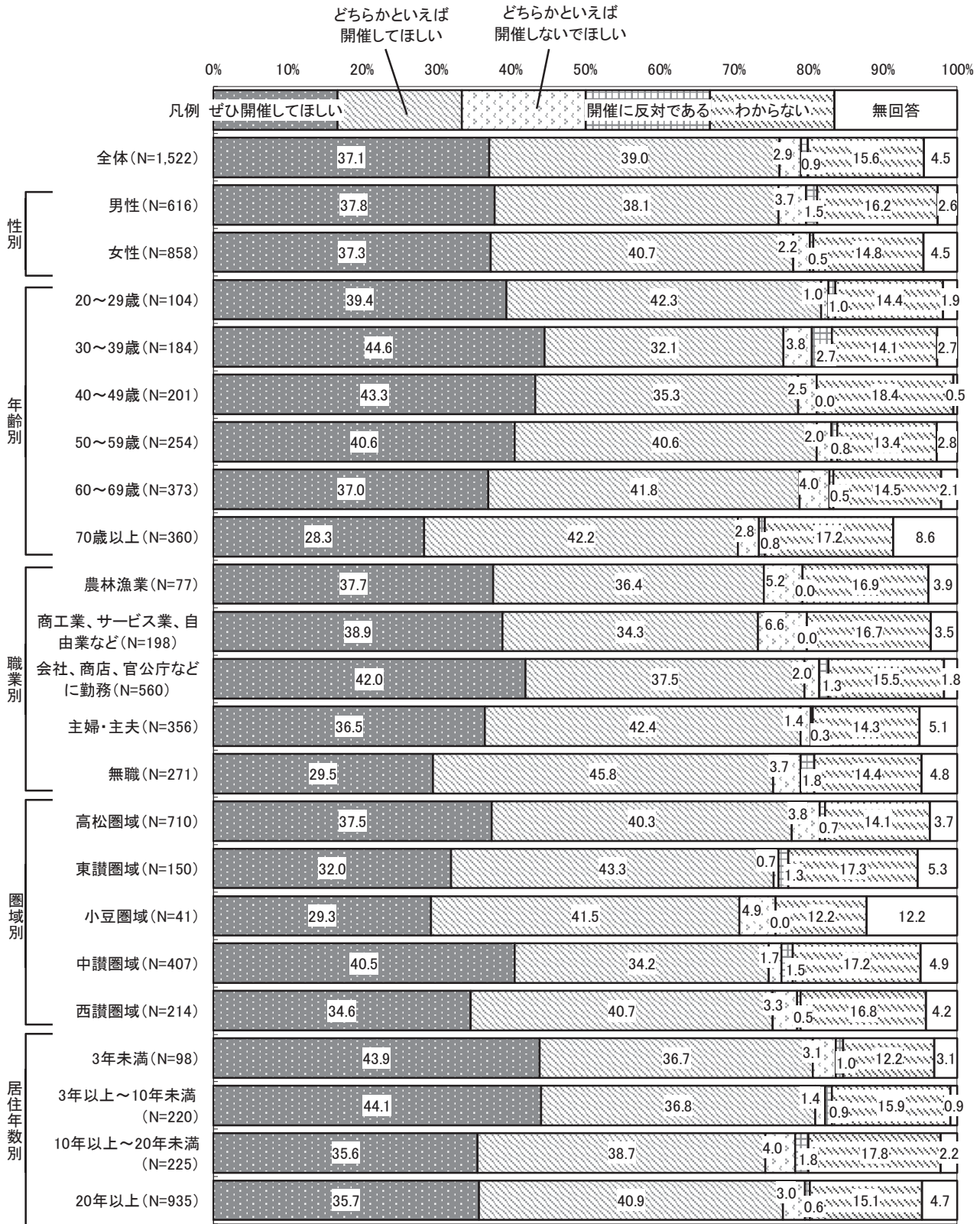
年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「どちらかといえば開催してほしい」が、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「ぜひ開催してほしい」が最も高くなっている。また、【開催してほしい】が【開催しないでほしい】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「ぜひ開催してほしい」が、『主婦・主夫』、『無職』では「どちらかといえば開催してほしい」が最も高くなっている。また、【開催してほしい】が【開催しないでほしい】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「ぜひ開催してほしい」が、その他の圏域ではどちらかといえば開催してほしいが最も高くなっている。また、【開催してほしい】が【開催しないでほしい】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「ぜひ開催してほしい」が、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「どちらかといえば開催してほしい」が最も高くなっている。また、【開催してほしい】が【開催しないでほしい】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内国際芸術祭の次回の開催について



5 労働政策について

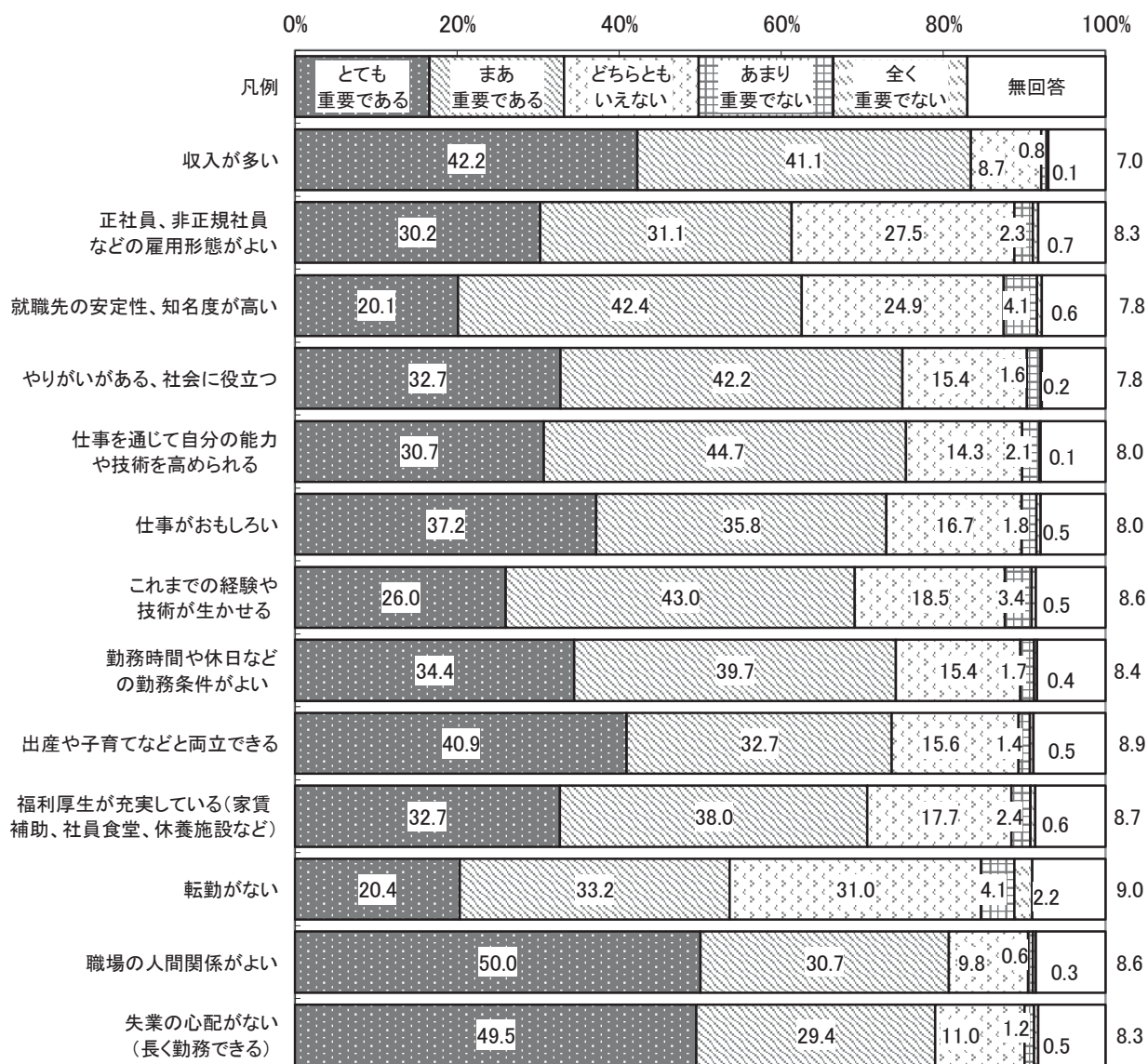
(1) 自身やまわりの人が働くうえでの重要度

問 29 ここにあげた項目について、あなたやあなたのまわりの人が働くうえでのあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

	重要度					
	とても重要だ	まあ重要だ	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
[回答者数=1,522]						
収入が多い	42.2	41.1	8.7	0.8	0.1	7.0
正社員、非正規社員などの雇用形態がよい	30.2	31.1	27.5	2.3	0.7	8.3
就職先の安定性、知名度が高い	20.1	42.4	24.9	4.1	0.6	7.8
やりがいがある、社会に役立つ	32.7	42.2	15.4	1.6	0.2	7.8
仕事を通じて自分の能力や技術を高められる	30.7	44.7	14.3	2.1	0.1	8.0
仕事がおもしろい	37.2	35.8	16.7	1.8	0.5	8.0
これまでの経験や技術が生かせる	26.0	43.0	18.5	3.4	0.5	8.6
勤務時間や休日などの勤務条件がよい	34.4	39.7	15.4	1.7	0.4	8.4
出産や子育てなどと両立できる	40.9	32.7	15.6	1.4	0.5	8.9
福利厚生が充実している(家賃補助、社員食堂、休養施設など)	32.7	38.0	17.7	2.4	0.6	8.7
転勤がない	20.4	33.2	31.0	4.1	2.2	9.0
職場の人間関係がよい	50.0	30.7	9.8	0.6	0.3	8.6
失業の心配がない(長く勤務できる)	49.5	29.4	11.0	1.2	0.5	8.3

自身やまわりの人が働くうえでの重要度をみると、どの項目でも「とても重要だ」と「まあ重要だ」を合わせた【重要だ】が、「全く重要でない」と「あまり重要でない」を合わせた【重要でない】を上回っている。特に、『収入が多い』、『職場の人間関係がよい』では【重要だ】が8割を超えている。

＜ 自身やまわりの人が働くうえでの重要度 ＞



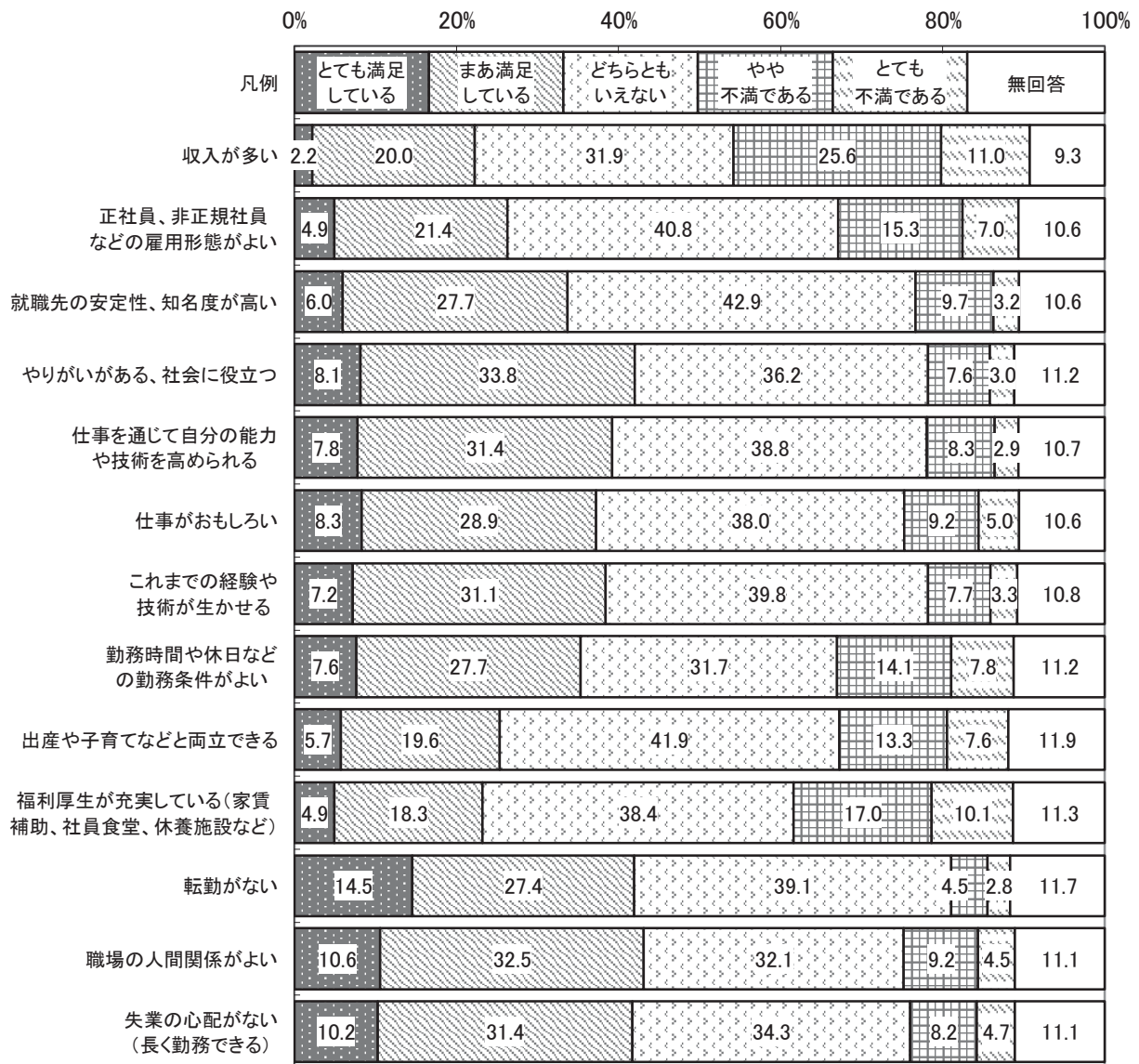
(2) 自身やまわりの人が働くうえでの満足度

問 29 ここにあげた項目について、あなたやあなたのまわりの人が働くうえでのあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
[回答者数=1,522]						
収入が多い	2.2	20.0	31.9	25.6	11.0	9.3
正社員、非正規社員などの雇用形態がよい	4.9	21.4	40.8	15.3	7.0	10.6
就職先の安定性、知名度が高い	6.0	27.7	42.9	9.7	3.2	10.6
やりがいがある、社会に役立つ	8.1	33.8	36.2	7.6	3.0	11.2
仕事を通じて自分の能力や技術を高められる	7.8	31.4	38.8	8.3	2.9	10.7
仕事がおもしろい	8.3	28.9	38.0	9.2	5.0	10.6
これまでの経験や技術が生かせる	7.2	31.1	39.8	7.7	3.3	10.8
勤務時間や休日などの勤務条件がよい	7.6	27.7	31.7	14.1	7.8	11.2
出産や子育てなどと両立できる	5.7	19.6	41.9	13.3	7.6	11.9
福利厚生が充実している(家賃補助、社員食堂、休養施設など)	4.9	18.3	38.4	17.0	10.1	11.3
転勤がない	14.5	27.4	39.1	4.5	2.8	11.7
職場の人間関係がよい	10.6	32.5	32.1	9.2	4.5	11.1
失業の心配がない(長く勤務できる)	10.2	31.4	34.3	8.2	4.7	11.1

自身やまわりの人が働くうえでの満足度をみると、ほとんどの項目で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っているが、『収入が多い』、『福利厚生が充実している(家賃補助、社員食堂、休養施設など)』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

＜ 自身やまわりの人が働くうえでの満足度 ＞



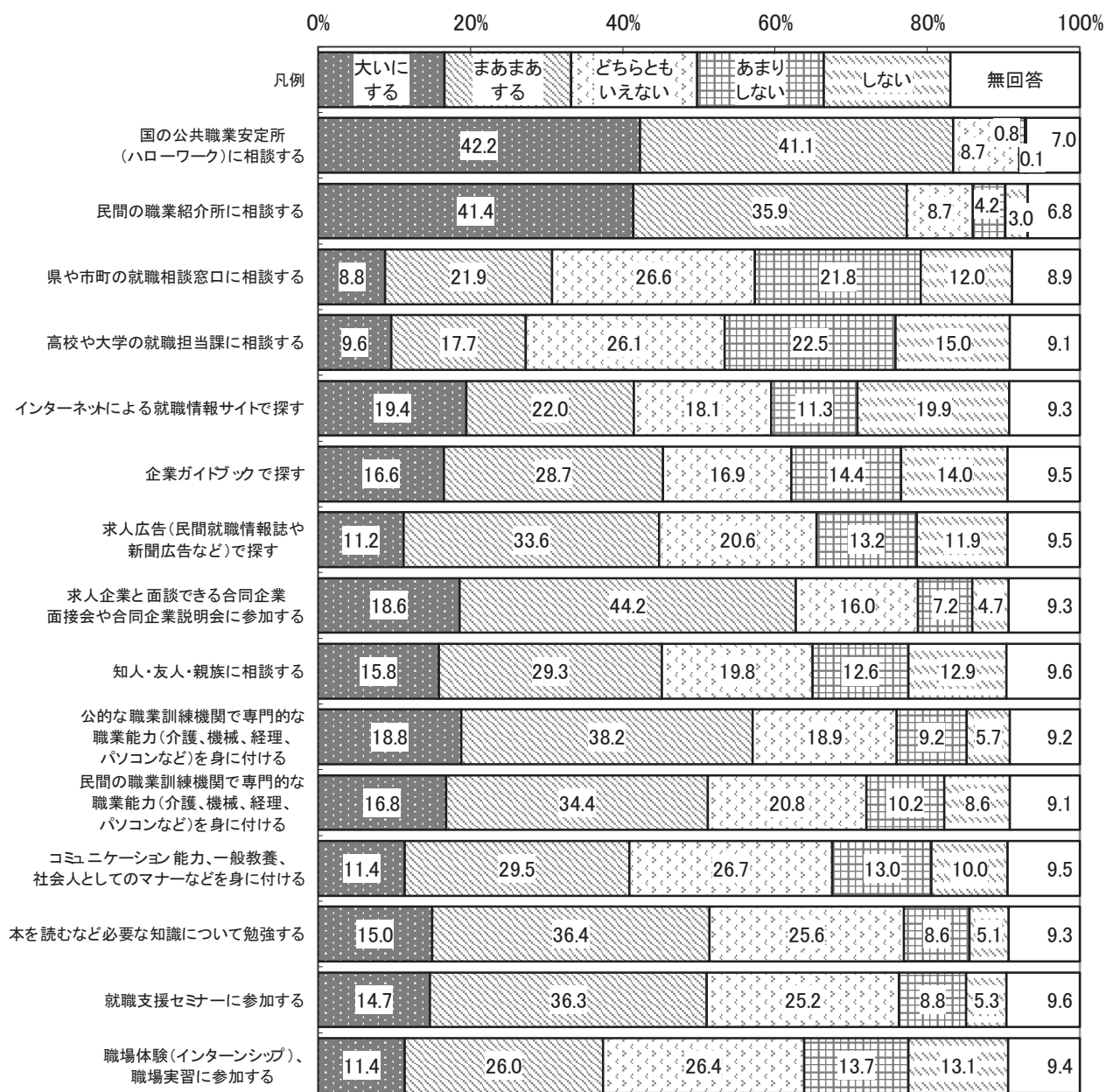
(3) 自身やまわりの人が就職するとき、どのような活動をするか

問 30 あなたやあなたのまわりの人が就職するとき、どのような活動をしようと思いますか。1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

	大いにする	まあまあする	どちらともいえない	あまりしない	しない	無回答
[回答者数=1,522]						
国の公共職業安定所（ハローワーク）に相談する	42.2	41.1	8.7	0.8	0.1	7.0
民間の職業紹介所に相談する	41.4	35.9	8.7	4.2	3.0	6.8
県や市町の就職相談窓口相談する	8.8	21.9	26.6	21.8	12.0	8.9
高校や大学の就職担当課に相談する	9.6	17.7	26.1	22.5	15.0	9.1
インターネットによる就職情報サイトで探す	19.4	22.0	18.1	11.3	19.9	9.3
企業ガイドブックで探す	16.6	28.7	16.9	14.4	14.0	9.5
求人広告（民間就職情報誌や新聞広告など）で探す	11.2	33.6	20.6	13.2	11.9	9.5
求人企業と面談できる合同企業面接会や合同企業説明会に参加する	18.6	44.2	16.0	7.2	4.7	9.3
知人・友人・親族に相談する	15.8	29.3	19.8	12.6	12.9	9.6
公的な職業訓練機関で専門的な職業能力（介護、機械、経理、パソコンなど）を身に付ける	18.8	38.2	18.9	9.2	5.7	9.2
民間の職業訓練機関で専門的な職業能力（介護、機械、経理、パソコンなど）を身に付ける	16.8	34.4	20.8	10.2	8.6	9.1
コミュニケーション能力、一般教養、社会人としてのマナーなどを身に付ける	11.4	29.5	26.7	13.0	10.0	9.5
本を読むなど必要な知識について勉強する	15.0	36.4	25.6	8.6	5.1	9.3
就職支援セミナーに参加する	14.7	36.3	25.2	8.8	5.3	9.6
職場体験（インターンシップ）、職場実習に参加する	11.4	26.0	26.4	13.7	13.1	9.4

自身やまわりの人が就職するとき、どのような活動をするかをみると、ほとんどの項目で「大いにする」と「まあまあする」を合わせた【する】が、「しない」と「あまりしない」を合わせた【しない】を上回っているが、『県や市町の就職相談窓口相談する』、『高校や大学の就職担当課に相談する』では【しない】が【する】を上回っている。

＜ 自身やまわりの人が就職するとき、どのような活動をするか ＞



(4) 就職を支援するため、行政に力を入れてほしいと思うこと

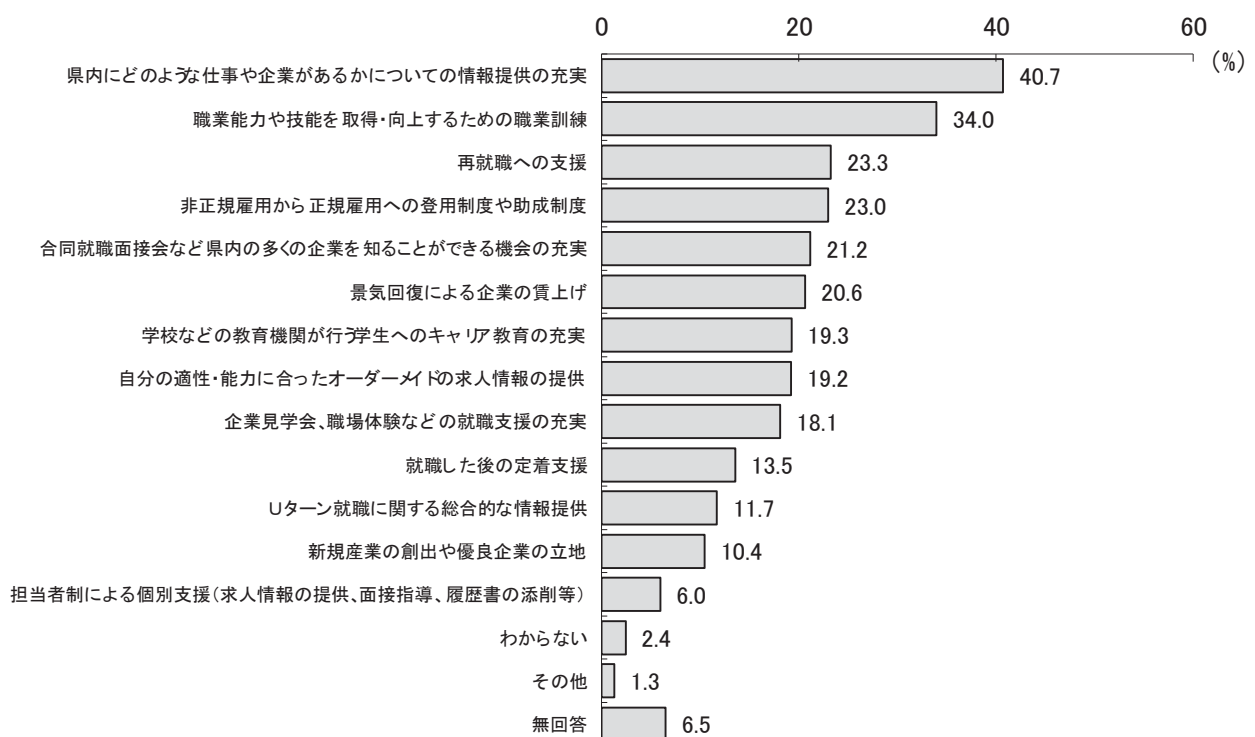
問 31 就職を支援するため、行政に力を入れてほしいと思うことは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

[回答者数=1,522]

1	学校などの教育機関が行う学生へのキャリア教育の充実	19.3%
2	職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練	34.0%
3	合同就職面接会など県内の多くの企業を知ることができる機会の充実	21.2%
4	県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実	40.7%
5	自分の適性・能力に合ったオーダーメイドの求人情報の提供	19.2%
6	企業見学会、職場体験などの就職支援の充実	18.1%
7	担当者制による個別支援（求人情報の提供、面接指導、履歴書の添削等）	6.0%
8	非正規雇用から正規雇用への登用制度や助成制度	23.0%
9	就職した後の定着支援	13.5%
10	新規産業の創出や優良企業の立地	10.4%
11	景気回復による企業の賃上げ	20.6%
12	再就職への支援	23.3%
13	Uターン就職に関する総合的な情報提供	11.7%
14	その他（具体的に：)	1.3%
15	わからない	2.4%
	(無回答)	6.5%

就職を支援するため、行政に力を入れてほしいと思うことについては、「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が40.7%と4割を超え最も高く、次いで「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が34.0%、「再就職への支援」が23.3%などとなっている。

< 就職を支援するため、行政に力を入れてほしいと思うこと >



性別にみると、男女とも「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が最も高く、その比率は『男性』が43.7%、『女性』が38.8%となっている。これに、男女とも「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が最も高く、これに『30～39歳』では「景気回復による企業の賃上げ」が、その他の年齢では「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が続いている。

職業別にみると、いずれも「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が最も高く、これに、いずれも「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が最も高く、これに「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が最も高く、これに、いずれも「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実」が最も高く、これに、いずれも「職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練」が続いている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
就職を支援するため、行政に力を入れてほしいと思うこと**

(単位:%)

区分		回答者数(人)	キャリア教育の充実	学校などの教育機関が行う学生への職業訓練	職業能力や技能を取得・向上するための職業訓練	合同就職面接会など県内の多くの企業を知ることができるといえる機会の充実	県内にどのような仕事や企業があるかについての情報提供の充実	自分の適性・能力に合ったオーダーメイドの求人情報の提供	企業見学会、職場体験などの就職支援の充実	担当者制による個別支援(求人情報の提供、面接指導、履歴書の添削等)	非正規雇用から正規雇用への登用制度や助成制度	就職した後の定着支援	新規産業の創出や優良企業の立地	景気回復による企業の賃上げ	再就職への支援	供・Uターン就職に関する総合的な情報提供	その他	わからない	無回答
全体		1,522	19.3	34.0	21.2	40.7	19.2	18.1	6.0	23.0	13.5	10.4	20.6	23.3	11.7	1.3	2.4	6.5	
性別	男性	616	20.1	34.7	21.9	43.7	18.5	16.7	7.0	21.9	13.8	13.6	20.3	21.6	14.8	1.8	2.9	3.9	
	女性	858	18.9	33.9	21.1	38.8	20.0	20.0	5.4	23.7	13.4	8.4	21.0	25.2	9.6	0.9	2.2	7.0	
年齢別	20～29歳	104	20.2	28.8	22.1	41.3	21.2	22.1	6.7	20.2	10.6	4.8	26.9	23.1	9.6	1.9	3.8	3.8	
	30～39歳	184	25.5	31.5	15.8	40.2	17.9	17.4	5.4	27.7	11.4	7.6	34.8	24.5	5.4	3.3	2.2	3.3	
	40～49歳	201	20.4	34.8	18.9	35.8	19.9	16.4	7.0	26.9	17.9	11.4	27.4	26.9	12.4	0.5	1.0	1.5	
	50～59歳	254	17.7	31.1	21.7	40.9	18.5	15.7	7.1	26.0	13.0	14.2	22.8	28.0	14.6	1.6	1.6	3.1	
	60～69歳	373	15.8	35.9	22.5	46.4	18.5	19.6	6.7	24.1	11.3	10.5	16.1	24.1	16.4	1.3	1.6	5.4	
	70歳以上	360	20.3	37.8	24.4	37.8	21.4	20.6	4.2	15.8	15.8	11.1	11.4	18.3	8.1	0.3	4.7	11.7	
職業別	農林漁業	77	20.8	33.8	28.6	48.1	19.5	27.3	10.4	19.5	13.0	13.0	10.4	16.9	13.0	1.3	1.3	5.2	
	商工業、サービス業、自由業など	198	20.2	33.8	15.2	40.9	19.7	12.1	5.6	21.7	14.6	11.6	23.2	24.2	13.6	1.0	3.5	6.1	
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	20.4	35.5	21.1	41.6	16.8	18.6	6.8	27.0	12.7	11.1	26.6	25.7	10.7	2.0	1.4	2.0	
	主婦・主夫	356	16.6	33.1	23.0	37.4	23.0	22.8	4.8	22.2	14.0	9.8	17.7	25.0	11.0	1.1	2.0	7.3	
	無職	271	20.7	34.3	24.0	42.4	19.6	16.2	4.8	17.7	13.7	9.6	14.0	19.9	13.7	0.4	4.4	9.6	
圏域別	高松圏域	710	17.2	34.2	20.8	38.9	19.4	18.7	5.6	24.2	13.7	10.7	21.8	23.9	12.0	1.7	3.1	5.4	
	東讃圏域	150	16.0	40.7	20.7	42.7	25.3	17.3	7.3	25.3	10.7	8.0	15.3	24.0	12.7	0.7	0.7	7.3	
	小豆圏域	41	19.5	36.6	26.8	29.3	14.6	26.8	7.3	4.9	7.3	9.8	4.9	24.4	12.2	0.0	0.0	24.4	
	中讃圏域	407	22.9	29.7	21.9	41.8	17.9	16.0	6.9	22.1	12.8	12.0	22.1	22.9	10.1	1.2	2.7	6.6	
	西讃圏域	214	21.5	36.0	20.1	45.8	17.3	19.2	4.2	22.4	17.8	8.4	20.6	21.0	13.1	0.9	1.4	6.1	
居住年数別	3年未満	98	25.5	28.6	21.4	42.9	14.3	21.4	7.1	26.5	12.2	11.2	27.6	19.4	11.2	2.0	2.0	3.1	
	3年以上～10年未満	220	23.6	33.6	14.5	34.1	18.6	15.5	4.1	25.5	14.5	10.5	30.9	29.5	9.1	2.3	1.4	4.1	
	10年以上～20年未満	225	18.7	36.4	16.4	41.8	19.1	18.2	7.1	24.0	13.8	9.8	23.1	27.6	11.1	1.3	3.1	3.6	
	20年以上	935	18.0	34.5	24.4	42.0	20.3	19.1	6.1	21.7	13.5	10.8	17.0	21.8	12.5	1.0	2.7	6.7	

(5) 自身やまわりの労働環境において、改善してほしいこと

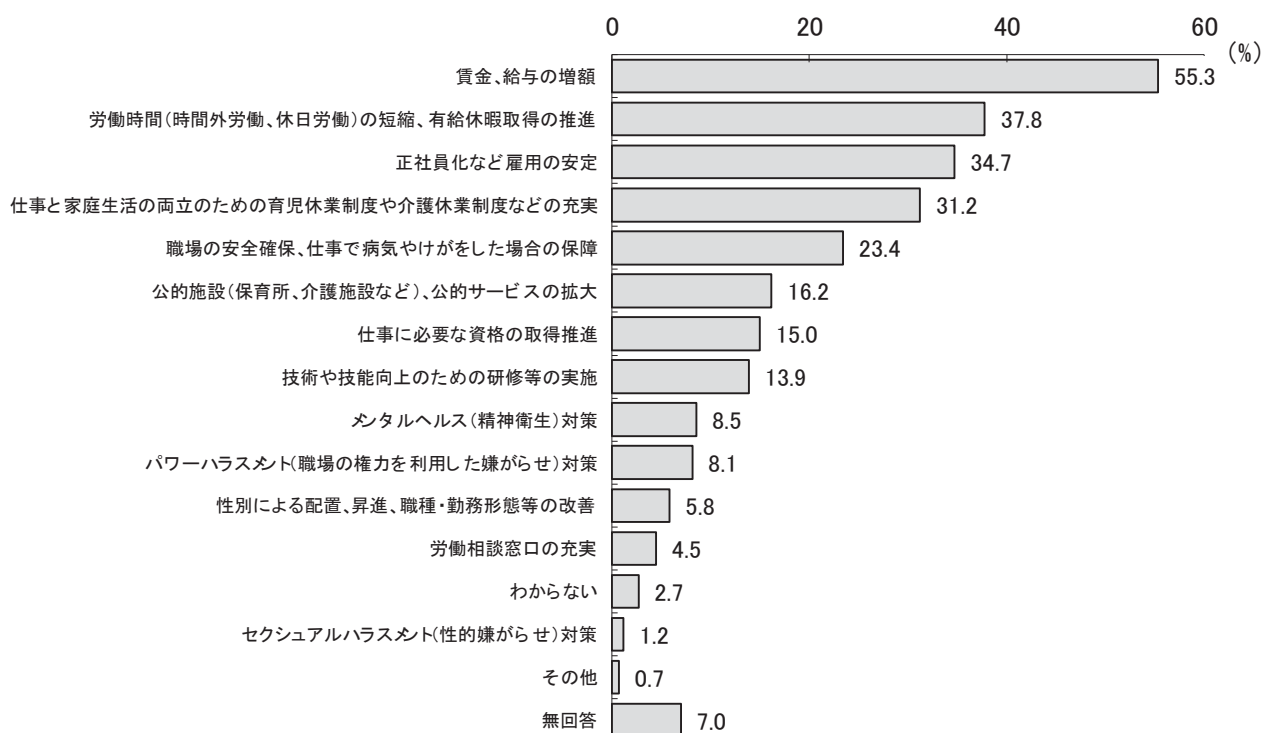
問 32 あなたやあなたのまわりの労働環境において、改善してほしいことは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

[回答者数=1,522]

1 賃金、給与の増額	55.3%
2 正社員化など雇用の安定	34.7%
3 労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進	37.8%
4 技術や技能向上のための研修等の実施	13.9%
5 仕事に必要な資格の取得推進	15.0%
6 職場の安全確保、仕事で病気やけがをした場合の保障	23.4%
7 メンタルヘルス（精神衛生）対策	8.5%
8 パワーハラスメント（職場の権力を利用した嫌がらせ）対策	8.1%
9 性別による配置、昇進、職種・勤務形態等の改善	5.8%
10 セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）対策	1.2%
11 仕事と家庭生活の両立のための育児休業制度や介護休業制度などの充実	31.2%
12 公的施設（保育所、介護施設など）、公的サービスの拡大	16.2%
13 労働相談窓口の充実	4.5%
14 その他（具体的に：)	0.7%
15 わからない (無回答)	2.7% 7.0%

自身やまわりの労働環境において、改善してほしいことについては、「賃金、給与の増額」が55.3%と半数を超え最も高く、次いで「労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進」が37.8%、「正社員化など雇用の安定」が34.7%などとなっている。

＜ 自身やまわりの労働環境において、改善してほしいこと ＞



性別にみると、男女とも「賃金、給与の増額」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』が58.6%、『女性』が53.4%となっている。これに、『男性』では「正社員化など雇用の安定」が、『女性』では「労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進」が続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「正社員化など雇用の安定」が最も高く、これに「賃金、給与の増額」が続いている。一方、その他の年齢では、いずれも「賃金、給与の増額」が最も高く、特に『20～29歳』、『40～49歳』では7割を超えている。これに『60～69歳』では「正社員化など雇用の安定」が、その他の年齢では「労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「正社員化など雇用の安定」が最も高く、これに「賃金、給与の増額」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「賃金、給与の増額」が最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では6割を超えている。これに、『無職』では「正社員化など雇用の安定」が、その他の職業では「労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「賃金、給与の増額」が半数を超え最も高く、これに『高松圏域』、『西讃圏域』では「労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進」が、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「正社員化など雇用の安定」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「賃金、給与の増額」が半数を超え最も高く、特に『20年以上』を除く全ての居住年数で6割を超えている。これに、『20年以上』では「正社員化など雇用の安定」が、その他の居住年数では「労働時間（時間外労働、休日労働）の短縮、有給休暇取得の推進」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
自身やまわりの労働環境において、改善してほしいこと

(単位:%)

区分		回答者数(人)	賃金、給与の増額	正社員化など雇用の安定	労働時間(時間外労働、休日労働)の短縮、有給休暇取得の推進	技術や技能向上のための研修等の実施	仕事に必要な資格の取得推進	職場の安全確保、仕事で病気やけがをした場合の保障	メンタルヘルス(精神衛生)対策	パワーハラスメント(職場の権力を利した嫌がらせ)対策	性別による配置、昇進、職種・勤務形態等の改善	セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)対策	仕事と家庭生活の両立のための育児休業制度や介護休業制度などの充実	公的施設(保育所、介護施設など)、公的サービスの拡大	労働相談窓口の充実	その他	わからない	無回答
全体		1,522	55.3	34.7	37.8	13.9	15.0	23.4	8.5	8.1	5.8	1.2	31.2	16.2	4.5	0.7	2.7	7.0
性別	男性	616	58.6	39.1	36.9	17.0	18.5	25.3	8.1	8.8	4.7	1.8	24.2	14.4	5.0	0.8	2.8	4.5
	女性	858	53.4	31.1	39.2	11.7	12.8	22.6	9.1	7.9	6.8	0.8	37.1	17.7	4.1	0.7	2.8	7.3
年齢別	20～29歳	104	70.2	25.0	59.6	3.8	12.5	15.4	10.6	8.7	4.8	1.9	29.8	11.5	0.0	2.9	3.8	3.8
	30～39歳	184	63.0	16.8	46.7	15.8	14.1	21.2	11.4	7.1	4.3	0.5	40.2	12.5	2.7	1.1	2.2	3.8
	40～49歳	201	71.1	27.4	52.2	13.4	11.9	17.9	11.9	12.9	4.5	2.0	26.9	12.9	2.5	2.0	2.0	2.0
	50～59歳	254	61.4	29.9	42.9	13.4	12.2	17.3	9.8	12.2	5.9	0.8	28.7	18.1	7.1	0.8	2.4	3.5
	60～69歳	373	52.0	43.7	28.7	14.2	18.0	29.2	8.6	7.8	6.7	1.6	34.3	19.6	5.6	0.0	1.1	5.4
	70歳以上	360	38.9	43.9	26.9	16.4	17.5	29.7	3.9	3.9	6.9	0.8	29.7	16.9	4.7	0.0	5.3	12.8
職業別	農林漁業	77	46.8	48.1	29.9	18.2	24.7	35.1	6.5	6.5	6.5	0.0	26.0	16.9	6.5	0.0	2.6	5.2
	商工業、サービス業、自由業など	198	51.5	26.8	29.3	20.2	21.2	24.2	7.6	9.6	4.5	1.0	35.4	17.2	3.0	1.0	3.0	6.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	69.3	30.5	46.4	14.6	12.3	16.8	10.7	9.8	4.3	1.1	30.4	15.2	5.5	1.6	1.3	2.3
	主婦・主夫	356	45.2	34.8	36.8	10.7	14.6	28.4	7.3	8.1	8.4	1.1	36.2	20.8	3.1	0.0	2.5	8.7
	無職	271	47.6	43.2	34.3	11.1	15.1	28.0	8.1	5.5	6.3	2.2	28.4	11.4	4.8	0.0	5.5	9.6
圏域別	高松圏域	710	54.9	31.5	39.3	14.4	15.4	23.5	10.1	9.0	6.5	1.3	29.6	17.6	4.1	0.6	2.3	6.3
	東讃圏域	150	58.0	41.3	33.3	12.0	18.7	20.7	10.0	6.0	4.7	2.0	34.7	14.0	4.0	0.0	4.0	6.0
	小豆圏域	41	41.5	31.7	26.8	22.0	12.2	26.8	4.9	4.9	2.4	2.4	22.0	17.1	9.8	0.0	2.4	22.0
	中讃圏域	407	54.5	38.3	36.9	12.8	13.0	22.4	6.6	7.4	5.7	1.2	31.4	15.2	5.4	1.7	2.7	7.6
	西讃圏域	214	58.4	34.1	39.7	14.0	15.4	26.2	6.5	8.9	5.6	0.0	35.5	14.5	3.3	0.0	3.3	5.6
居住年数別	3年未満	98	66.3	30.6	50.0	10.2	19.4	15.3	8.2	8.2	3.1	2.0	31.6	18.4	3.1	2.0	3.1	3.1
	3年以上～10年未満	220	65.0	24.1	46.8	12.3	10.9	18.2	10.0	8.2	3.6	0.9	35.9	15.9	4.1	0.9	1.4	5.9
	10年以上～20年未満	225	61.3	33.3	45.8	9.3	11.1	24.0	12.4	12.9	4.9	0.9	27.6	13.8	4.9	1.3	1.3	4.0
	20年以上	935	51.0	37.5	33.4	15.8	16.7	25.9	7.5	7.3	7.0	1.3	31.7	16.8	4.6	0.4	3.4	7.0

(6) 誰もが働きやすい環境を整備するため、行政に力を入れてほしいと思うこと

問 33 誰もが働きやすい環境を整備するため、行政に力を入れてほしいと思うことは何ですか。

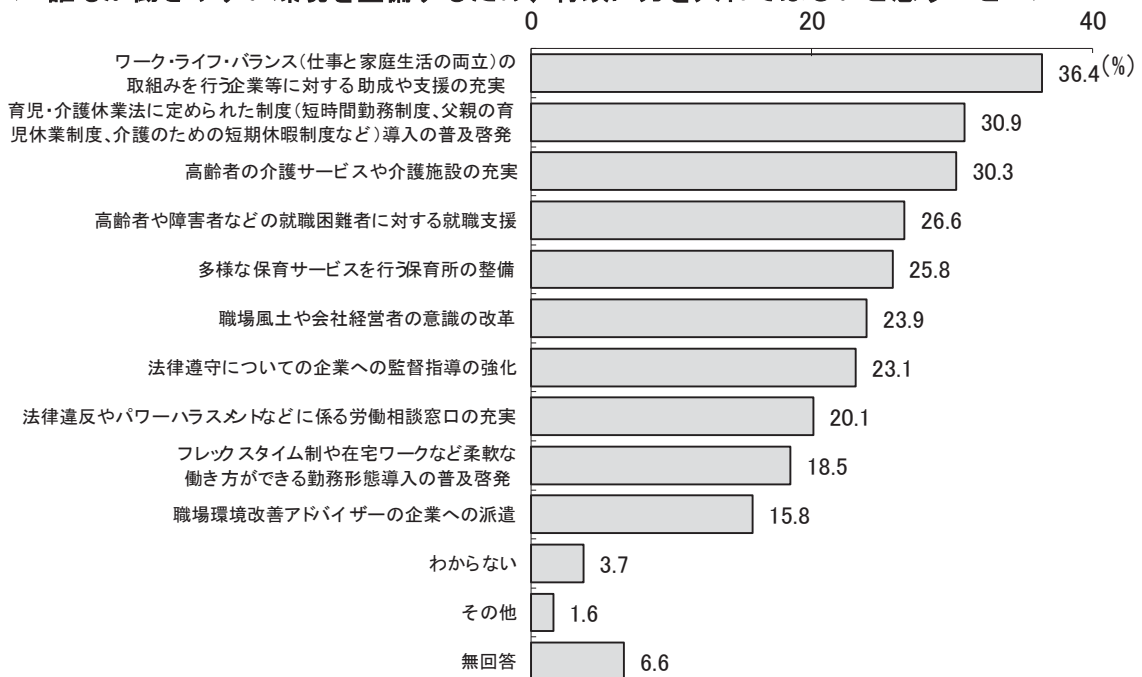
次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

[回答者数=1,522]

1 法律違反やパワーハラスメントなどに係る労働相談窓口の充実	20.1%
2 職場環境改善アドバイザーの企業への派遣	15.8%
3 法律遵守についての企業への監督指導の強化	23.1%
4 職場風土や会社経営者の意識の改革	23.9%
5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実	36.4%
6 多様な保育サービスを行う保育所の整備	25.8%
7 高齢者の介護サービスや介護施設の充実	30.3%
8 育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発	30.9%
9 フレックスタイム制や在宅ワークなど柔軟な働き方ができる勤務形態導入の普及啓発	18.5%
10 高齢者や障害者などの就職困難者に対する就職支援	26.6%
11 その他（具体的に：)	1.6%
12 わからない	3.7%
（無回答）	6.6%

誰もが働きやすい環境を整備するため、行政に力を入れてほしいと思うことについては、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が36.4%と3割を超え最も高く、次いで「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が30.9%、「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が30.3%などとなっている。

< 誰もが働きやすい環境を整備するため、行政に力を入れてほしいと思うこと >



性別にみると、『男性』では「法律遵守についての企業への監督指導の強化」が31.0%で最も高く、これに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が続いている。一方、『女性』では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が41.4%で最も高く、これに「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が続いている。

年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が最も高く、これに『60～69歳』では「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が、『70歳以上』では「高齢者や障害者などの就職困難者に対する就職支援」が続いている。一方、その他の年齢では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が最も高く、これに、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が、『50～59歳』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が最も高く、これに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が続いている。また、『無職』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が最も高く、これに「法律遵守についての企業への監督指導の強化」が続いている。一方、その他の職業では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「職場風土や会社経営者の意識の改革」が最も高く、これに「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が最も高く、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が、『中讃圏域』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が最も高く、これに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実」が最も高く、これに『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「育児・介護休業法に定められた制度（短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など）導入の普及啓発」が、『10年以上～20年未満』では「高齢者の介護サービスや介護施設の充実」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
誰もが働きやすい環境を整備するため、行政に力を入れてほしいと思うこと

(単位:%)

区分		回答者数(人)	法律違反やパワーハラスメントなどに係る労働相談窓口の充実	職場環境改善アドバイザーの企業への派遣	法律遵守についての企業への監督指導の強化	職場風土や会社経営者の意識の改革	両立の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実	ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の取組みを行う企業等に対する助成や支援の充実	多様な保育サービスを行う保育所の整備	高齢者の介護サービスや介護施設の充実	育児・介護休業法に定められた制度(短時間勤務制度、父親の育児休業制度、介護のための短期休暇制度など)の普及啓発	フレックスタイム制や在宅ワークなど柔軟な働き方ができる勤務形態導入の普及啓発	高齢者や障害者などの就職困難者に対する就職支援	その他	わからない	無回答
全体		1,522	20.1	15.8	23.1	23.9	36.4	25.8	30.3	30.9	18.5	26.6	1.6	3.7	6.6	
性別	男性	616	25.6	18.8	31.0	25.5	30.2	25.0	28.6	25.8	19.8	26.9	1.9	4.4	4.2	
	女性	858	16.3	14.2	17.1	23.1	41.4	26.6	32.3	35.2	17.9	26.6	1.4	3.5	6.8	
年齢別	20～29歳	104	28.8	17.3	26.9	20.2	52.9	21.2	9.6	35.6	20.2	10.6	4.8	6.7	3.8	
	30～39歳	184	18.5	17.4	20.1	25.5	44.0	33.2	9.2	37.5	27.7	21.2	1.6	3.8	2.2	
	40～49歳	201	19.9	15.9	25.9	25.4	42.8	24.9	28.4	29.9	26.9	21.4	2.0	3.5	1.5	
	50～59歳	254	22.4	18.1	23.6	26.0	35.4	25.6	31.5	26.8	20.9	29.1	2.8	2.4	3.9	
	60～69歳	373	20.6	16.6	20.9	23.3	33.2	26.8	39.1	33.5	17.7	31.9	1.1	2.9	4.3	
	70歳以上	360	17.2	13.6	23.1	22.8	29.4	23.6	40.0	28.6	8.9	30.3	0.3	5.3	12.8	
職業別	農林漁業	77	13.0	14.3	28.6	20.8	33.8	27.3	31.2	36.4	11.7	24.7	2.6	9.1	7.8	
	商工業、サービス業、自由業など	198	21.7	14.6	16.7	20.2	37.4	32.8	33.8	32.3	17.2	26.8	2.5	3.5	5.6	
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	21.3	18.2	24.5	28.6	39.6	25.9	26.3	28.8	22.3	24.8	2.0	3.6	2.0	
	主婦・主夫	356	17.4	14.6	15.4	21.3	39.6	23.3	33.4	37.4	21.3	27.2	0.6	3.1	8.4	
	無職	271	23.6	16.6	32.8	22.1	28.4	24.7	33.9	27.3	11.4	29.2	1.5	4.1	8.1	
圏域別	高松圏域	710	22.0	16.5	25.4	20.8	35.6	25.5	30.0	29.3	21.1	27.3	1.4	3.5	6.1	
	東讃圏域	150	12.0	13.3	18.7	24.7	36.7	30.7	32.0	34.7	13.3	28.0	0.7	5.3	8.0	
	小豆圏域	41	22.0	14.6	22.0	36.6	22.0	9.8	26.8	34.1	14.6	17.1	0.0	0.0	24.4	
	中讃圏域	407	18.7	16.0	21.4	25.8	37.3	24.6	32.9	30.2	17.0	25.8	1.7	3.9	6.1	
	西讃圏域	214	22.0	15.0	22.4	27.6	39.7	28.5	25.7	34.1	16.8	26.6	2.8	3.7	5.1	
居住年数別	3年未満	98	17.3	17.3	23.5	21.4	41.8	37.8	19.4	37.8	24.5	21.4	4.1	2.0	3.1	
	3年以上～10年未満	220	19.1	11.8	25.0	21.8	46.8	26.4	18.2	37.3	25.9	22.3	4.5	2.3	3.6	
	10年以上～20年未満	225	26.2	18.2	24.9	26.2	39.1	19.6	28.4	27.1	21.3	26.7	0.4	4.9	2.2	
	20年以上	935	19.5	16.6	21.9	24.3	33.3	26.2	35.5	30.3	15.8	28.3	1.0	4.2	7.2	

6 県政の重要度と満足度について

県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

現在、「せとうち田園都市香川創造プラン」※(平成23～27年度)の各施策の達成状況を評価したいと思いますので、各施策に対する重要度と満足度について皆さまの考えをお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、あなたが今の生活やこれからの生活を送っていくうえで各施策がどのくらい重要かを、また、「満足度」については、あなたが各施策に対して現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ五段階で評価してください。

※ せとうち田園都市香川創造プラン

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針である「せとうち田園都市香川創造プラン(平成23～27年度)」を平成23年度に策定しました。

本プランの基本目標である「せとうち田園都市の創造」(活気あふれる街と美しい自然が隣接し、生涯を通じて安心して生活できる環境の中で、人々が生きがいを見だし、みずからの能力を存分に発揮できる、また、その魅力に引かれて集い合う、瀬戸内香川の生活圏域の創造)をめざして各施策に取り組んでいます。

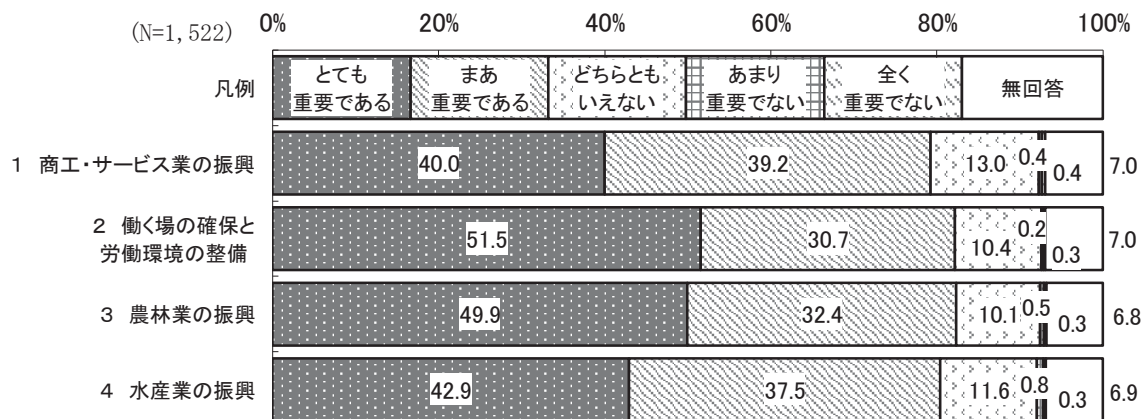
「せとうち田園都市の創造」を実現するための基本方針として、活力ある産業づくりと働く場の確保を主な内容とする「元気の出る香川づくり」、生涯を通じた安心の確保をめざす「安心できる香川づくり」、たくましい人づくりと魅力ある地域づくりをめざす「夢と希望あふれる香川づくり」の3つの香川づくりを掲げています。

(1) 元気の出る香川づくり (重要度)

問 34 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。(単位：%)

[回答者数=1,522]	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	40.0	39.2	13.0	0.4	0.4	7.0
2 働く場の確保と労働環境の整備	51.5	30.7	10.4	0.2	0.3	7.0
3 農林業の振興	49.9	32.4	10.1	0.5	0.3	6.8
4 水産業の振興	42.9	37.5	11.6	0.8	0.3	6.9

「元気の出る香川づくり」について重要度をみると、どの施策項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が7割を超えており、特に『働く場の確保と労働環境の整備』、『農林業の振興』、『水産業の振興』では8割を超えている。



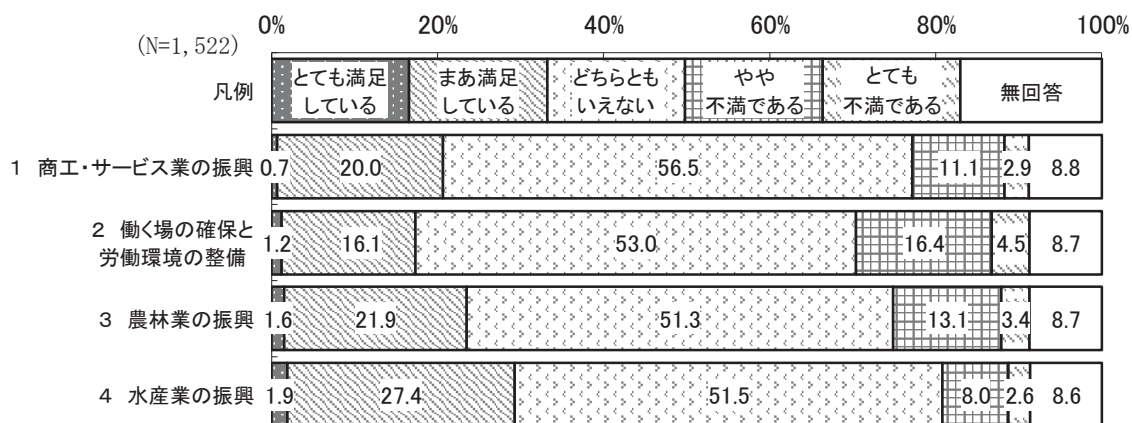
(2) 元気の出る香川づくり（満足度）

問 34 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。（単位：％）

[回答者数=1,522]	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.7	20.0	56.5	11.1	2.9	8.8
2 働く場の確保と労働環境の整備	1.2	16.1	53.0	16.4	4.5	8.7
3 農林業の振興	1.6	21.9	51.3	13.1	3.4	8.7
4 水産業の振興	1.9	27.4	51.5	8.0	2.6	8.6

「元気の出る香川づくり」について満足度をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も高く、半数を超えている。

『商工・サービス業の振興』、『農林業の振興』、『水産業の振興』については、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。一方、『働く場の確保と労働環境の整備』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

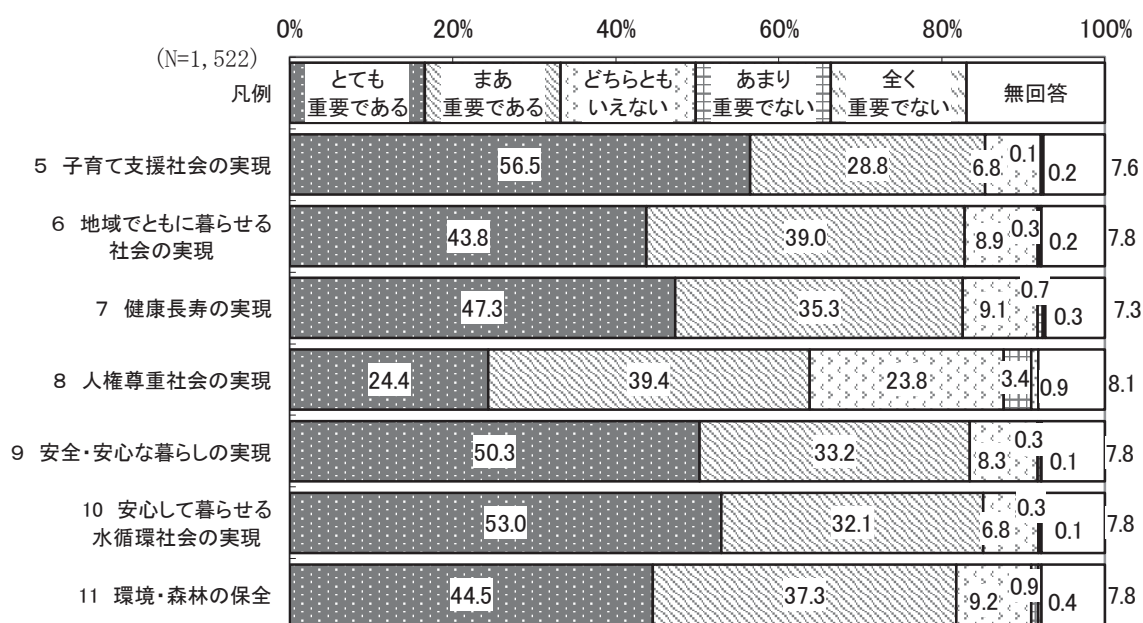


(3) 安心できる香川づくり（重要度）

問 35 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの〈重要度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。（単位：％）

[回答者数=1,522]	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
5 子育て支援社会の実現	56.5	28.8	6.8	0.1	0.2	7.6
6 地域でともに暮らせる社会の実現	43.8	39.0	8.9	0.3	0.2	7.8
7 健康長寿の実現	47.3	35.3	9.1	0.7	0.3	7.3
8 人権尊重社会の実現	24.4	39.4	23.8	3.4	0.9	8.1
9 安全・安心な暮らしの実現	50.3	33.2	8.3	0.3	0.1	7.8
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	53.0	32.1	6.8	0.3	0.1	7.8
11 環境・森林の保全	44.5	37.3	9.2	0.9	0.4	7.8

「安心できる香川づくり」について重要度をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】が8割を超えており、特に『子育て支援社会の実現』、『安心して暮らせる水循環社会の実現』で高い割合となっている。

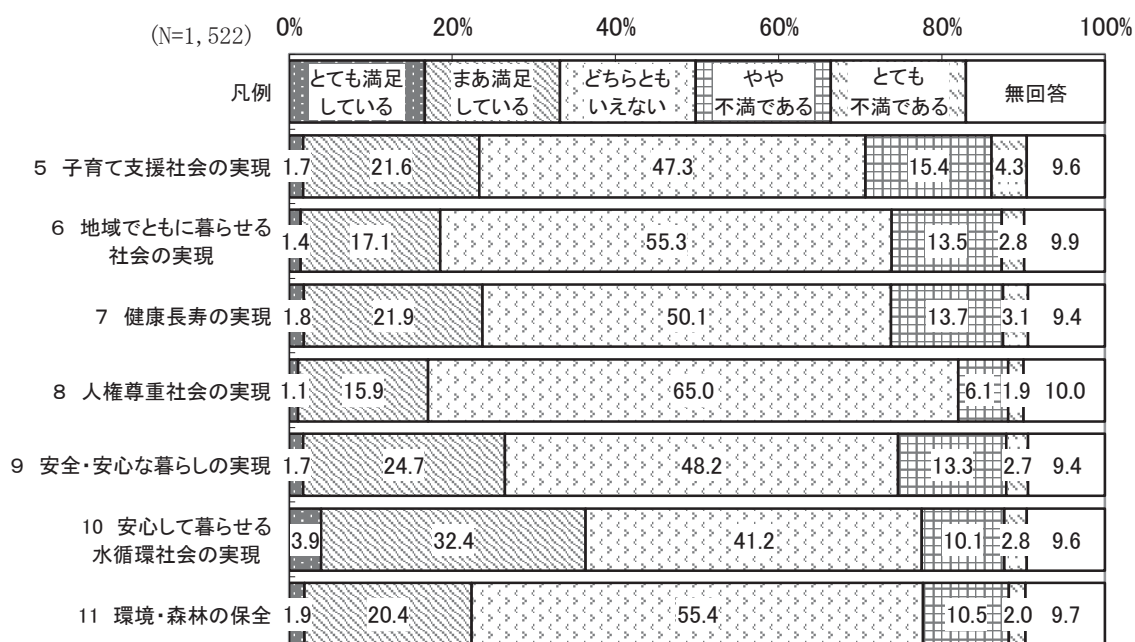


(4) 安心できる香川づくり (満足度)

問 35 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。(単位：%)

[回答者数=1,522]	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
5 子育て支援社会の実現	1.7	21.6	47.3	15.4	4.3	9.6
6 地域でともに暮らせる社会の実現	1.4	17.1	55.3	13.5	2.8	9.9
7 健康長寿の実現	1.8	21.9	50.1	13.7	3.1	9.4
8 人権尊重社会の実現	1.1	15.9	65.0	6.1	1.9	10.0
9 安全・安心な暮らしの実現	1.7	24.7	48.2	13.3	2.7	9.4
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	3.9	32.4	41.2	10.1	2.8	9.6
11 環境・森林の保全	1.9	20.4	55.4	10.5	2.0	9.7

「安心できる香川づくり」について満足度をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も高く、全ての項目で4割を超えている。また、どの施策項目でも【満足している】が【不満である】を上回っている。

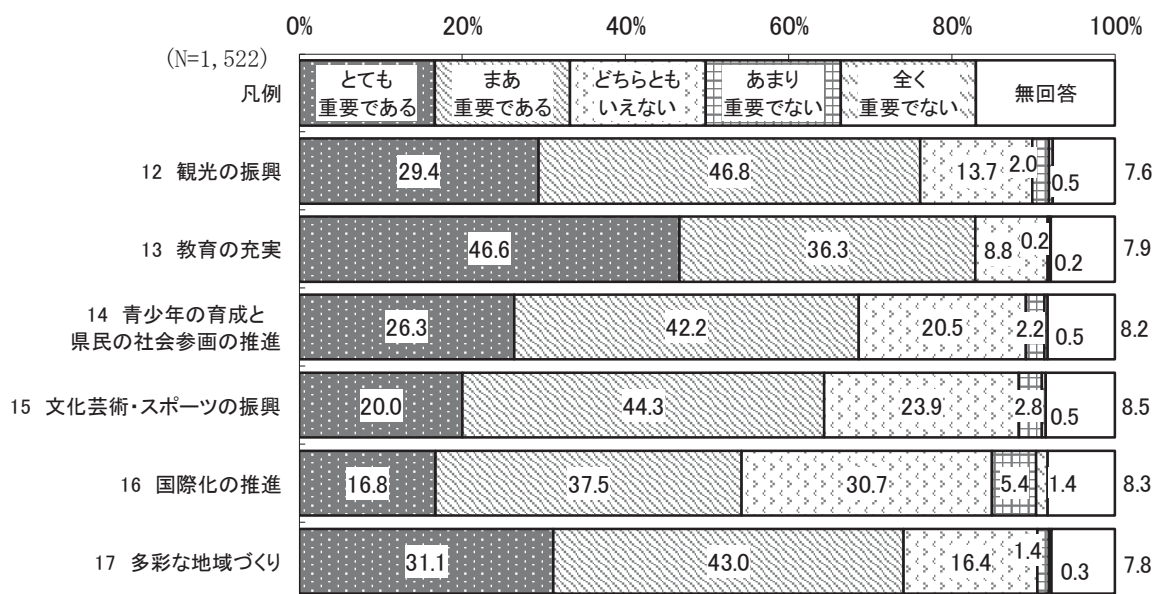


(5) 夢と希望あふれる香川づくり（重要度）

問 36 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。（単位：％）

	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
[回答者数=1,522]						
12 観光の振興	29.4	46.8	13.7	2.0	0.5	7.6
13 教育の充実	46.6	36.3	8.8	0.2	0.2	7.9
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	26.3	42.2	20.5	2.2	0.5	8.2
15 文化芸術・スポーツの振興	20.0	44.3	23.9	2.8	0.5	8.5
16 国際化の推進	16.8	37.5	30.7	5.4	1.4	8.3
17 多彩な地域づくり	31.1	43.0	16.4	1.4	0.3	7.8

「夢と希望あふれる香川づくり」について重要度をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】が6割を超えており、特に『教育の充実』は82.9%と8割を超え、『観光の振興』、『多彩な地域づくり』についても7割を超えている。



(6) 夢と希望あふれる香川づくり（満足度）

問 36 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。（単位：％）

[回答者数=1,522]	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
12 観光の振興	2.4	24.8	47.1	13.3	3.2	9.2
13 教育の充実	1.8	26.0	48.7	12.0	2.3	9.3
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.0	17.1	62.9	8.3	1.5	9.2
15 文化芸術・スポーツの振興	1.5	26.0	54.2	7.3	1.2	9.8
16 国際化の推進	0.8	14.4	66.1	7.6	1.6	9.6
17 多彩な地域づくり	0.9	18.0	58.5	11.2	2.3	9.1

「夢と希望あふれる香川づくり」について満足度をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も高く4割を超えている。

また、どの施策項目でも【満足している】が【不満である】を上回っている。

